

県営中山間地域総合整備事業志布志地区（倉園団地）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

倉園A遺跡

2023年3月

鹿児島県志布志市教育委員会

序 文

本書は、県営中山間地域総合整備事業志布志地区（倉園団地）に伴い、平成30年度に発掘調査を実施した倉園A遺跡の調査報告書です。

倉園A遺跡は宮崎県串間市との県境に近い山間部の、志布志町内之倉に所在しています。

本遺跡からは縄文時代前期後半から弥生時代初頭を中心とする時期の土器や石器が、狭い範囲ながら足の踏み場がないほど多量に見つかりました。

その中には西北九州から持ち込まれたと考えられる土器もあり、縄文時代における地域間交流の一端をうかがうことができました。また、縄文時代中期後半頃のものと考えられる石刀状石製品も見つかり、県内初の事例となりました。

このように、志布志山間部における縄文時代の歴史を明らかにする上で、貴重な成果となりました。

本書が市民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、地域の歴史や文化財に対する关心と御理解をいただくとともに、文化財の普及啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたり御協力いただきました鹿児島県大隅地域振興局農林水産部農村整備課や鹿児島県教育委員会等の関係各機関ならびに発掘調査や整理・報告書作成に従事・協力していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

志布志市教育委員会
教育長 福田 裕生

例　　言

- 1 本書は、県営中山間地域総合整備事業志布志地区(倉園団地)に伴う倉園A遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県志布志市志布志町内之倉字大原に所在する。
- 3 発掘調査は、鹿児島県大隅地域振興局農林水産部農村整備課の依頼を受け、平成30年度に志布志市教育委員会が実施した。
- 4 整理作業・報告書作成は、令和元～4年度に志布志市埋蔵文化財センターにおいて実施した。
- 5 本書で用いたレベル値やグリッド基準杭の設定は、ありあけ測量株式会社に委託した。
- 6 掲載遺物番号は通し番号とし、本文・表・挿図・図版の番号は一致する。
- 7 本書で用いた遺構記号は、文化庁文化財部記念物課監修『発掘調査のてびき』(2010年刊行)に準拠している。
- 8 遺構番号は遺構の種類ごとに番号を付し、報告書まで固定しており、本文・挿図・図版の番号は一致する。
- 9 遺物注記で用いた遺跡略号は、「KRZ_A」である。
- 10 挿図の縮尺は、各図面に示した。なお、本書の遺構配置図は、1グリッド(1マス)が10m四方である。
- 11 遺跡位置図等の地図は、国土地理院発行の1:25,000地形図『志布志』を利用した。
- 12 発掘調査における図面作成及び写真撮影は、大庭祥晃と相美伊久雄が行った。
- 13 航空写真撮影は、株式会社ふじたに委託した。
- 14 遺物の実測・トレース作業は、会計年度任用職員の協力を得て、相美と川路卓太郎が行った。
- 15 土層断面図や遺構配置図、遺物分布図作成には、デジタル技術を用いた。
- 16 石器の実測図・トレース図作成の一部は、株式会社九州文化財研究所に委託した。
- 17 土層と遺物の色調は、『新版標準土色帳』(農林水産省農林水産技術会議事務局)に準拠している。
- 18 遺物の写真撮影は、鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて西園勝彦氏(鹿児島県立埋蔵文化財センター)が行った。また石器の一部は、市埋蔵文化財センターにおいて牛嶋茂氏(写測エンジニアリング株式会社)が行った。
- 19 本書の編集は川路と相美が担当し、執筆の分担は以下のとおりである。

第1章	相美
第2章	川路
第3章	相美
第4章	
第1節1・2・4、第2節1、第3節	相美
第1節3、第2節2	川路
第5章	
第1節1(2)・2、第2～5節	相美
第1節1(1)	川路
- 20 第5章において、昭和17(1942)年に発見された出口A遺跡出土の独鉛状石器2例と、平成29(2017)年に市指定建造物山中氏邸から見つかった独鉛状石器1例の紹介を行った。
- 21 出土遺物及び図面・写真的記録類は志布志市教育委員会で保管し、展示・活用する予定である。

本文目次

序文		第4章 調査の成果	
例言		第1節 縄文時代～弥生時代初頭の調査	16
目次		第2節 古墳時代の調査	98
第1章 調査の経過		第3節 時代不明の調査	98
第1節 調査に至るまでの経過	1	遺物観察表	101
第2節 分布調査	1		
第3節 確認調査	1		
第4節 本調査	1		
第5節 整理・報告書作成作業	4		
第2章 遺跡の位置と環境			
第1節 地理的環境	5	第1節 縄文時代の調査	111
第2節 歴史的環境	5	第2節 古墳時代の調査	113
第3章 調査の方法		第3節 時代不明の調査	113
第1節 発掘調査の方法	9	第4節 小結	114
第2節 地形と層位	11	第5節 市内発見の精神文化関連石器について	
			114
		写真図版	
		報告書抄録	

挿図・表目次

第1図 確認トレンド位置図（整備前）	2	第34図 9類土器	42
第2図 確認トレンド位置図（整備後）	3	第35図 9類土器	43
第3図 遺跡位置及び周辺遺跡	8	第36図 9類土器	44
第4図 調査範囲とグリッド図	10	第37図 10類土器	45
第5図 IV層上面地形測量図	11	第38図 10類土器	46
第6図 土層断面図（1）	12	第39図 10類土器	47
第7図 土層断面図（2）	13	第40図 10類土器	48
第8図 土層断面図（3）	14	第41図 10類土器	49
第9図 土層断面図（4）	15	第42図 10類土器	50
第10図 遺物分布図及び構造配置図	17	第43図 10類土器	51
第11図 土坑（1）	18	第44図 10～11類土器	52
第12図 土坑（2）	19	第45図 11類土器	53
第13図 土坑（3）	20	第46図 12類土器	54
第14図 集石構造	21	第47図 12類土器	55
第15図 土器分布図（1）	22	第48図 12類土器	56
第16図 土器分布図（2）	23	第49図 12類土器	57
第17図 土器分布図（3）	24	第50図 12類土器	58
第18図 土器分布図（4）	25	第51図 12類土器	59
第19図 土器分布図（5）	26	第52図 12類土器	60
第20図 土器分布図（6）	27	第53図 13～15類土器	61
第21図 土器・土製品分布図	28	第54図 15～16類土器	62
第22図 1～5類土器	30	第55図 17～19類土器	63
第23図 5類土器	31	第56図 19類土器	64
第24図 5～7類土器	32	第57図 19～20類土器	65
第25図 7～9類土器	33	第58図 21類土器	66
第26図 9類土器	34	第59図 21類土器	67
第27図 9類土器	35	第60図 22類土器	68
第28図 9類土器	36	第61図 22類土器	69
第29図 9類土器	37	第62図 22類土器	70
第30図 9類土器	38	第63図 22類土器	71
第31図 9類土器	39	第64図 22類土器	72
第32図 9類土器	40	第65図 22類土器	73
第33図 9類土器	41	第66図 23類土器	74

第67図	23類土器	75	第89図	古墳時代土器	98
第68図	23類土器	76	第90図	時代不明 遺構配置図	98
第69図	23類土器	77	第91図	1号溝状遺構(SD1)平・断面図	99
第70図	23類土器	78	第92図	2号溝状遺構(SD2)平・断面図	100
第71図	23類土器	79	第93図	石刀状石製品関係資料	113
第72図	23類土器・円盤状土製加工品	80	第94図	市内の獨角状石器(1)	115
第73図	縄文石器 石材別分布図(1)	82	第95図	市内の獨角状石器(2)	116
第74図	縄文石器 石材別分布図(2)	83			
第75図	縄文石器 石材別分布図(3)	84	第1表	周辺遺跡地名表	7
第76図	縄文石器 器種別分布図(1)	85	第2表	土器観察表(1)	101
第77図	縄文石器 器種別分布図(2)	86	第3表	土器観察表(2)	102
第78図	縄文石器 器種別分布図(3)	87	第4表	土器観察表(3)	103
第79図	縄文石器(1)	88	第5表	土器観察表(4)	104
第80図	縄文石器(2)	89	第6表	土器観察表(5)	105
第81図	縄文石器(3)	90	第7表	土器観察表(6)	106
第82図	縄文石器(4)	91	第8表	土器観察表(7)	107
第83図	縄文石器(5)	92	第9表	土器観察表(8)	108
第84図	縄文石器(6)	93	第10表	円盤状土製加工品観察表	108
第85図	縄文石器(7)	94	第11表	石器観察表(1)	109
第86図	縄文石器(8)	95	第12表	石器観察表(2)	110
第87図	縄文石器(9)	96	第13表	縄文石器組成表	112
第88図	縄文石器(10)	97			

写真図版目次

図版1
①遺跡遠景(東から)

図版2
①遺跡遠景(西から)
②遺跡遠景(南から)

図版3
①作業状況遠景(西から)

②作業状況近景(東から)

③B-2・3区アカホヤ層上面検出(北西から)

④C-D-3区確認トレンチ(北西から)

⑤B-5区南壁断面

⑥A-B-5・6区アカホヤ層上面検出(北から)

⑦A-9・10区北壁

図版4

①土坑1号完掘(南西から)

②土坑2号半裁(南東から)

③土坑5号半裁(東から)

④土坑6号半裁(南西から)

⑤土坑7号半裁(北西から)

⑥土坑8号半裁(北東から)

⑦土坑10号半裁(北西から)

⑧集石1号検出(東から)

図版5

①春日式土器(No.101)出土状況

②大平式土器(No.121)出土状況

③B-6~8区SD1検出(北東から)

④B-4・5区SD1完掘(東から)

⑤SD1ベルトa-a' 東壁断面

⑥SD1ベルトc-c' 西壁断面

図版6 1類・2類・3類・4類・5類土器

図版7 6類・7類・8類・9類土器

図版8 9類土器

図版9 9類土器

図版10 9類土器

図版11 9類・10類土器

図版12 10類土器

図版13 10類土器

図版14 10類土器

図版15 10類・12類土器

図版16 11類・12類土器

図版17 12類土器

図版18 12類・13類土器

図版19 14類・15類・16類・17類土器

図版20 18類・19類・20類土器・成川式土器

図版21 21類・22類土器

図版22 22類土器

図版23 22類土器

図版24 23類土器

図版25 23類土器・円盤状土製加工品

図版26 縄文時代石器1

図版27 縄文時代石器2

図版28 縄文時代石器3

図版29 縄文時代石器4

図版30 縄文時代石器5

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

志布志市教育委員会（以下、市教委）は、文化財の保護・活用を図るために、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて事前に協議し、諸開発との調整を図っている。

平成23年度、鹿児島県大隅地域振興局農林水産部農村整備課（以下、県農政部）は、志布志市志布志町内之倉において平成25年度新規採択予定事業として、ほ場整備事業「県営中山間地域総合整備事業 志布志地区（倉園団地）」を計画した。事業実施に先立って、事業対象地内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化財課（以下、県文化財課）に照会した。

これを受け志県文化財課と市教委が、平成24年度に分布調査を実施した。その結果、事業対象地内に倉園A遺跡と十文字遺跡の2遺跡が存在することが判明した。

これを受け、市教委と県農政課、市耕地林務水産課（以下、市耕地課）は埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るための協議を行い、その結果、事業着手前に上記2遺跡の確認調査を実施することになった。

確認調査は文化庁の国庫補助事業を利用し、市内遺跡発掘調査等事業として平成28年度に実施した。

確認調査の結果をふまえ、あらためて遺跡の取り扱いについて市教委と県農政課、市耕地課は協議を行った。その結果、倉園A遺跡の遺物包含層に影響を及ぼし、現地保存が困難な範囲については、工事着手に先立って市教委が平成30年度に本調査を実施することとなった。

第2節 分布調査

開発事業の実施予定箇所について、遺跡の所在や範囲を把握するために、平成24年12月18・19日に分布調査を行った。分布調査は、県文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・市教委の各職員で実施した。その結果、倉園A遺跡と十文字遺跡の2遺跡の所在が明らかとなった。

第3節 確認調査

詳細な遺跡範囲及び遺物包含層の状況を把握するため、平成28年11月1日から11月17日まで確認調査を行った。

調査方法は、計画範囲内に2×3mを主とするトレントレンチを15か所設定し（第1・2図参照）、重機により表土を剥いた後、人力にて掘り下げを行った。

その結果、2～5・7～9・12・13・15トレントレンチから縄文時代中・後期の遺物が出土した。

調査体制（平成28年度）

調査主体 志布志市教育委員会

調査責任者 志布志市教育委員会

教育長 和田幸一郎

調査事務局〃 生涯学習課長 植山弘昭

	文化財管理室長	若松 利広
"	埋蔵文化財係長	上田 義明
"	主任主査	相美伊久雄
調査担当	主任主査	大庭 祥晃
"	主任主査	坂元 裕樹
"	主 事	

第4節 本調査

本調査は平成30年度に実施した。調査体制及び調査の具体的経過は、以下のとおりである。なお、調査の具体的経過は、月誌抄を毎月に集約して記載する。

調査体制（平成30年度）

事業主体 鹿児島県大隅地域振興局農村整備課

調査主体 志布志市教育委員会

調査責任者 志布志市教育委員会

	教育長	和田幸一郎
調査事務局	生涯学習課長	若松 利広
"	文化財管理室長兼	
"	埋蔵文化財係長	上田 義明
調査担当	主任主査	大庭 祥晃
"	主任主査	相美伊久雄

調査の具体的経過

平成30年度の本調査は、平成30年8月27日から平成31年1月16日（実働66日）まで実施した。調査面積は、1,000m²である。

【8月】

當構用地・駐車場整地作業、コンテナハウス設置、電気・水道引込工事などの環境整備。グリッド設定。

A・B-4～8区の重機による表土剥ぎ。

【9月】

A・B-4～8区Ⅲa・Ⅲb層の調査。構造遺構の調査。

【10月】

A・B-5～8区Ⅲa・Ⅲb層の調査。集石1・土坑1～8の調査。

B・C-7～11区の重機による表土剥ぎ。

B-10区・C-7区・C-8区・C-9区・C-10区・B-11～14区下層確認トレントレンチ設定・調査。

A・B-8～11区Ⅲa層の調査。B・C-7～9区Ⅲa層の調査。

A・B-4～8区埋め戻し。

【11月】

B～C-7～11区Ⅲa・Ⅲb層の調査。A-9・10区Ⅲa層の調査。

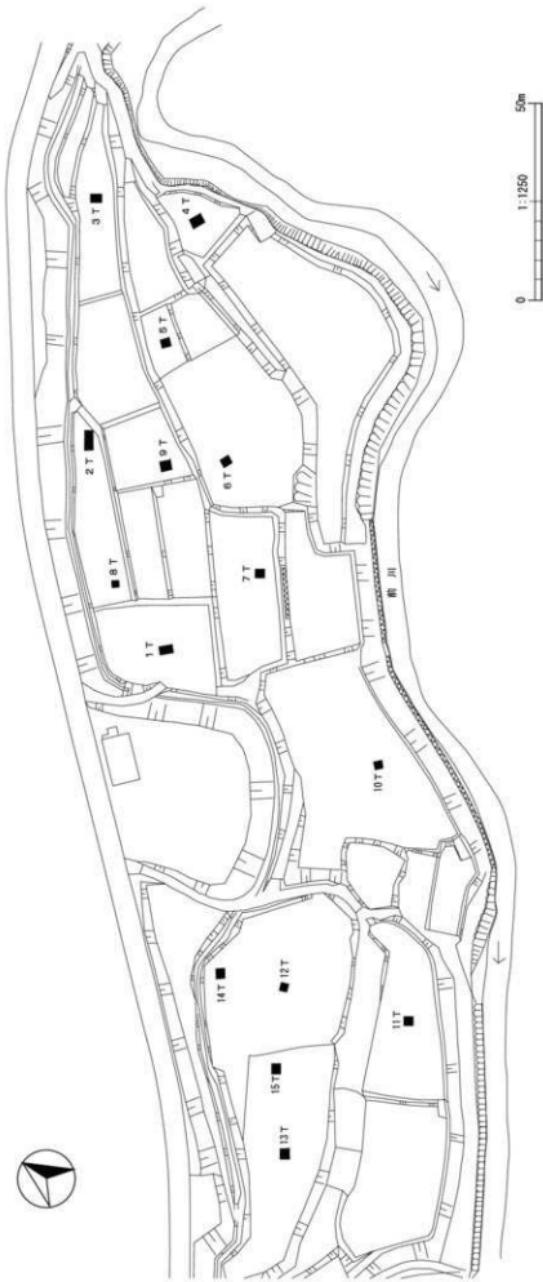
A～D-2・3区下層確認トレントレンチ設定・調査。

B-7区下層確認トレントレンチ設定・調査。

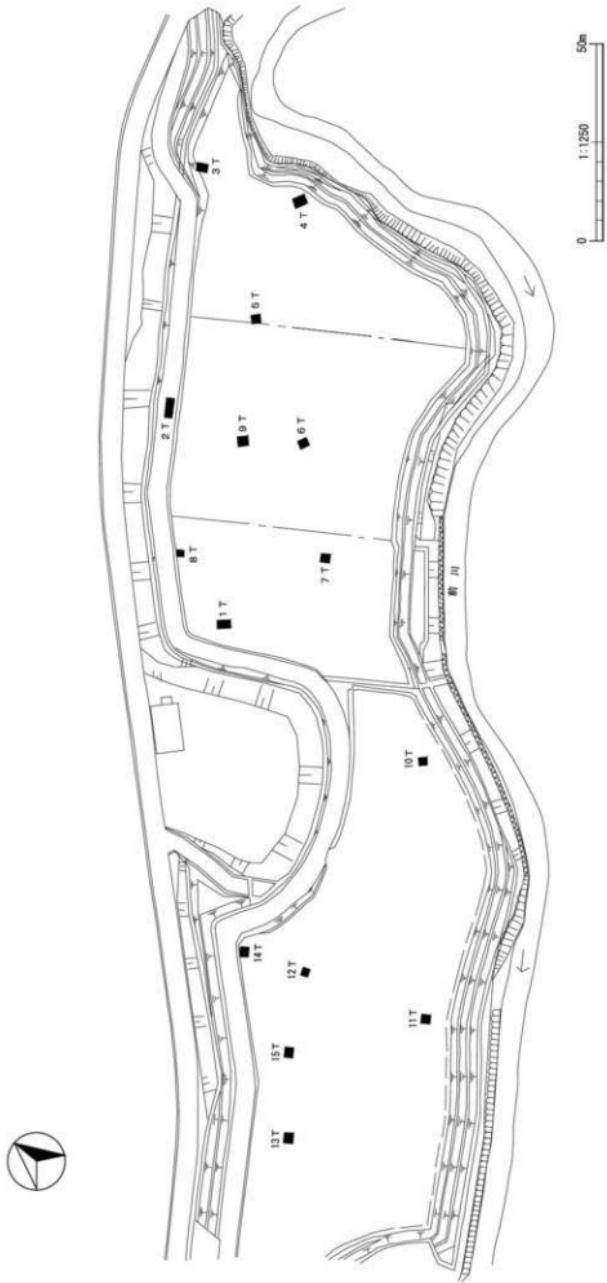
B-2・3区表土剥ぎ、Ⅲa・Ⅲb層の調査。

【12月】

B-2・3区Ⅲa・Ⅲb層の調査。土坑9・10の調査。



第1図 確認トレンチ位置図（整備前）



第2図 确認トレーニング位置図（整備後）

B-7～10区Ⅲa・Ⅲb層の調査。航空写真撮影（20日）。
B-2・3区埋め戻し。B-7～10区埋め戻し。

本調査終了後、文化財保護法第108条及び遺失物法第4条第1項に基づいて、「埋蔵物発見届」（平成31年1月17日付）を志布志警察署長へ、「発掘調査実施報告書」・「埋蔵文化財保管証」（平成31年1月17日付）を県教育委員会に提出するなど、発掘調査に係る諸手続きを実施した。

第5節 整理・報告書作成作業

整理・報告書作成作業は、令和元～4年度に市埋蔵文化財センターにおいて実施した。

各年度における調査体制及び作業の内容・経過は、以下のとおりである。作業の具体的な経過は、日誌抄を毎月に集約して記載する。

調査の体制（令和元年度）

事業主体 鹿児島県大隅地域振興局農村整備課

調査主体 志布志市教育委員会

調査責任者 志布志市教育委員会

	教育長	和田幸一郎
調査事務局	# 生涯学習課長	萩迫 和彦
	# 文化財管理室長兼	
	# 埋蔵文化財係長	上田 義明
	# 主任主査	相美伊久雄
調査担当	# 主任主査	大塙 祥晃

作業の具体的な経過

【7～9月】

遺物洗浄・注記。土器分類。

石器分類、石器実測委託（11～2月）。

調査の体制（令和2年度）

事業主体 鹿児島県大隅地域振興局農村整備課

調査主体 志布志市教育委員会

調査責任者 志布志市教育委員会

	教育長	和田幸一郎 (令和3年2月23日まで)
		福田 裕生 (令和3年2月24日から)
調査事務局	# 生涯学習課長	江川 一正
	# 文化財管理室長	上田 義明
	# 生涯学習課長補佐	小村 美義
調査担当	# 埋蔵文化財係長	相美伊久雄
	# 技師補	川路早太朗

作業の具体的な経過

【7～9月】

遺物洗浄・注記。遺物分類。

【9～2月】

土器接合・復元。石器実測委託（9～2月）。

調査の体制（令和3年度）

事業主体 鹿児島県大隅地域振興局農村整備課

調査主体 志布志市教育委員会

調査責任者 志布志市教育委員会

	教育長	福田 裕生
調査事務局	# 生涯学習課長	江川 一正
	# 文化財管理室長	上田 義明
	# 生涯学習課長補佐	小村 美義
	# 埋蔵文化財係長	相美伊久雄
調査担当	# 技師補	川路早太朗

作業の具体的な経過

【7～9月】

土器接合・復元。

【10～2月】

土器実測、拓本。

調査の体制（令和4年度）

事業主体 鹿児島県大隅地域振興局農村整備課

調査主体 志布志市教育委員会

調査責任者 志布志市教育委員会

	教育長	福田 裕生
調査事務局	# 生涯学習課長	江川 一正
	# 文化財管理室長	上田 義明
	# 生涯学習課長補佐	小村 美義
調査担当	# 埋蔵文化財係長	相美伊久雄
	# 技師	川路早太朗

作業の具体的な経過

【6～11月】

遺物写真撮影。土器実測、拓本。石器実測。

遺物・遺構トレース。

【11～12月】

原稿執筆、観察表作成、報告書レイアウト。

【1～3月】

入稿、校正、納本。遺物収納。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

志布志市は、鹿児島県の最東部に位置しており、宮崎県都城市及び串間市と県境をなす。北は曾於市、南西は大崎町と接し、南は太平洋に向かって濱口を開く志布志湾に面する。平成18(2006)年1月1日に志布志町・有明町・松山町の3町が合併して誕生した市である。

本市の地形は、東から志布志湾に向かって緩やかに傾斜し、海岸近くで崖となり、わずかな沖積平野を経て海岸線となる。この海岸線は、西側に旧期砂丘・新期砂丘に二分される砂丘海岸が続くのに対し、東側は日南層群で構成される岩礁海岸となる。市の北東部には御在所岳(530.4m)・笠祇岳(441.2m)・陣岳(349.3m)など、日南層群が構成する急峻な山岳地帯がある。

その西側には入戸火砕流が広く分布し、いわゆるシラス台地を形成し、志布志市の主体をなす。「原(はら)」と呼ばれる比較的平坦な台地であるシラス台地は、南流する前川・安楽川・菱田川など大小の河川の浸食作用による深い浸食谷(「迫(さこ)」)により細かく刻まれ、大小の狭長な台地となっている。

このシラス台地からは、北部の霧岳(408.3m)や中央部の岳野山(274.3m)、西部の宇都丘(179.1m)・草野丘(268.4m)など、市北東部同様の日南層群が構成する山岳・丘陵が突き出ている。

前述の三河川の流域には、高位・中位・低位の三段の段丘が認められる。低・中位段丘では、段丘崖下からの自然湧水により集落が形成してきた。一方、高位段丘では、地下水位が深いために集落形成が困難であり、「蓬原開田」や「野井賀開田」などのように近々現代に開かれるまでは、畠地として利用されるにとどまっていた。

この地域の地質は古いほうから、日南層群・阿多島浜火砕流・夏井層・阿多(夏井)火砕流・旧期ローム層・入戸火砕流・新期火山灰層となる。日南層群は、主に頁岩・砂岩の細互層からなり、年代は漸新世～前期中新世とされている。阿多島浜火砕流は、夏井海岸の一部に認められるもので、23～25万年前とされる。夏井層は、下部の貝や植物の化石を含むシルト層と上部の礫層からなる。阿多(夏井)火砕流は、黒色を呈する溶結度の低い均質な凝灰岩で、年代は8.5～10.5万年前とされる。入戸火砕流は、海岸に沿った地域では海拔40m程のシラス台地を形成する。下部には、大陥降下軽石層が存在する。

倉園A遺跡は、前川河口から北東へ約8.3km上流の、串間市との県境に近い志布志町内之倉に位置する(第3図参照)。標高は約75mで、前川との比高約10mの台地裾部に広がる。後背の台地は最高部が標高124mある。

地元住民によると、もともと台地裾部は傾斜地であったが、耕地削平及び十文字地区と倉園地区を結ぶ農道の開通により、現在の階段状地形となったとのことである。

第2節 歴史的環境

倉園A遺跡は、昭和39(1964)年に個人による畠地の削平工事中に発見された遺跡で、瀬戸口望氏の論考によって、縄文時代後期の遺跡として広く存在を知られることとなつた。

昭和59(1984)年9～10月に、県営特殊農地保全整備事業(十文字・大川内地区)による整備に伴い、隣接する土光A・B遺跡・風穴遺跡とともに旧志布志町教育委員会が確認調査を実施している。その調査成果は、昭和59年度に刊行された『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(10)』にまとめられている。

周囲に縄文時代の遺跡が密集していることもあり、昭和59年度の調査以前まで、遺跡の名称や所在地の記載が文献によって異なる。隣接する倉園B遺跡と混同しているものも見受けられる。

本遺跡が所在する志布志市には、現在約500ヶ所の埋蔵文化財埋蔵地が認められている。戦前には、大正5(1916)年6月板垣横穴墓群について報告を行った瀬之口伝九郎氏や昭和19(1944)年に出口A遺跡採集の独鉛状石器を紹介した梅原末治氏の調査研究がある。戦後は、河口貞徳氏・源訪昭千代氏・上村俊雄氏・酒匂義明氏の学術調査・研究に加え、海老原行秀氏・瀬戸口望氏という志布志町在住の研究者による熱心な調査・研究が行われており、学史上重要な遺跡も多い。

1980年代になると、主に志布志町において圃場整備に伴う発掘調査が行われ、縄文時代の調査事例が増加した。

2000年代には、主に有明町において農道整備に伴う発掘調査が行われ、弥生・古墳時代の様相が明らかとなった。最近では、地域高規格道路(都城志布志道路)や東九州自動車道に伴う大規模な発掘調査が行われ、質量とともに充実した資料が増加している。

本市は現在の行政区画では鹿児島県に属するが、過去は日向国に属しており、明治4(1871)年の廢藩置県後も一時期、都城県や宮崎県に属した歴史もある。したがって、この地域の歴史・文化を考える上で薩摩・大隅だけでなく、日向地方の影響も考慮する必要がある。

旧石器時代

中須B遺跡・藪野B遺跡では剥片尖頭器・角錐状石器等が、安楽小牧B遺跡ではナイフ形石器が出土している。

次五遺跡や和田上遺跡・中原遺跡では、畦原型細石刃核が出土しており、硬質砂岩や珪質頁岩を利用している。畦原型細石刃核が濃密に分布する宮崎平野地域との関係や石材の原産地を考える上で注目される。

縄文時代

志布志町では瀬戸口氏等の調査によって、「縄文銀座」と呼ばれるほど多数の遺跡が見つかっている。

草創期 史上重要な東黒土遺跡がある。隆帶文土器や舟形配石炉、貯藏穴が見つかっている。特に貯藏穴から出土した堅果類は日本最古である。安楽小牧B遺跡では、爪形文土器が出土している。

早期 本遺跡の北側の後背地にある倉園B遺跡や春日堀遺跡からは、前半期の堅穴建物や集石、連穴土坑が多数見つかった。また、前半期の連穴土坑や多数の集石、被然破砕様が見つかった稻荷追遺跡・高吉B遺跡・下堀遺跡・横堀遺跡・次五遺跡・塞ノ神A式意形土器等の良好な資料が出土した夏井土光B遺跡、耳栓が出土した稻荷上遺跡・横堀遺跡・安楽小牧B遺跡など、シラス台地縁辺部に遺跡が多い。

前期 曾畷式が出土した別府石踏遺跡、野久尾遺跡、本村遺跡などがあるが、調査事例は少ない。

中期 この時期も調査事例は少ないものの、春日式期の堅穴建物が見つかった前谷遺跡、野久尾式や深浦式・船元式が出土した野久尾遺跡のように重要な遺跡がある。このほか、宇都遺跡や山ノ口遺跡では大平式の良好な資料が出土している。

後期 代表する遺跡として中原遺跡と片野洞穴がある。中原遺跡では在地系の宮之迫式・指宿式と瀬戸内系の中津式・福田K II式・宿毛式の良好な資料が多数出土している。片野洞穴は本遺跡から北西へ約1.7kmの場所に位置し、西平式・御領式期の動物骨や貝殻、釣針やかんざし等の骨角器が出土している。

市内は、中岳II式の遺跡が多く認められており、下原遺跡では堅穴建物跡と埋設土器が、稻荷追遺跡では埋設土器が見つかっている。

このほか、後期のほぼ全ての型式が出土した家野遺跡、独钻状石器が見つかった出口A遺跡がある。

晩期 井手上A遺跡や上苑遺跡では入佐式深鉢の埋設土器が見つかっている。

小追遺跡では黒川式期の良好な資料が認められており、クズの葉と推定される木葉痕をもつ組織痕土器が出土している。

弥生時代

縄文時代に比べると調査事例は少ないものの、学史上重要な遺跡が存在する。一つは京ノ峯遺跡で、中期後半の円形・方形周溝墓が多数見つかっている。南九州では稀有な墓制であり、近畿・瀬戸内地方の影響が考えられている。

もう一つは土橋遺跡で、明治40(1907)年、中広形鋼鉢が見つかっている。県内唯一の、さらに本土最南端の発見例である。中期後半に位置づけられるもので、中広形鋼鉢は高知県中央～西部、豊前～豊後地域に分布が集中することから、豊後水道地域における地域間交流の過程でもたらされた可能性が指摘されている。

稻荷追遺跡では中期前～中葉の入來I・II式期の土坑墓が検出された。この遺跡では、刻目突帯文土器の良好な資料が認められている。刻目突帯文土器が主体を占める遺跡は大隅半島では稀であり、注目される。

小追遺跡で出土した、刻目突帯文土器精製浅鉢からは、

イネやエゴマの圧痕が見つかっている。最近実施されたイネの潜在圧痕の炭素14年代測定によって、現状における南九州最古のイネ資料であることが確認された。

井手上A遺跡では、中期中葉の入來II式期の堅穴建物が見つかっている。中期後半の山ノ口II式期になると堅穴建物の検出例が増加し、高吉B遺跡・長田遺跡・本村遺跡、下原遺跡・井手間遺跡、前谷B遺跡がある。

京ノ峯遺跡や高吉B遺跡、稲荷追遺跡では瀬戸内地域から搬入された土器が出土している。夏井土光遺跡では柱状片刃石斧が出土している。

古墳時代

集落遺跡は、有明町において調査事例が多い。仕明遺跡や春日堀遺跡では弥生時代終末期～古墳時代前期の、屋部当遺跡では辻堂原～椎貫式期の、長田遺跡では椎貫式期の堅穴建物が見つかっている。志布志町でも、稲荷追遺跡において椎貫式期の堅穴建物が見つかっている。なお、春日堀遺跡で見つかった古墳時代前期の花弁形建物跡は県内最大である。

市内は、本遺跡のように椎貫式新段階期（7世紀代）の調査事例が多く、宮脇遺跡、安良遺跡、仕明遺跡、春日堀遺跡がある。春日堀遺跡では、堅穴建物・掘立柱建物・構が見つかっており、7世紀中～後半頃の集落跡とされる。構は、安良遺跡でも見つかっている。

市内では、県内での出土例が少ない6世紀末～8世紀前半頃の須恵器が多数認められており、様相が不明瞭な7世紀代の南九州を考える上で、重要な地域である。

古墳は、前方後円墳の飯盛山古墳と小牧1号墳、円墳の原田古墳がある。飯盛山古墳は出土した埴輪から中期初め（4世紀後半）、原田古墳は出土した須恵器から中期中頃（5世紀中頃）、そして小牧1号墳は採集された須恵器から後期後半（6世紀後半）に集造された可能性ある。

これら以外には、原田地下式横穴墓群や馬場地下式横穴墓群がある。平成29(2017)年12月に発見された原田3号地下式横穴墓からは、完全な形の短甲が出土した。完全な形での出土例は、鹿屋市萩原地下式横穴墓出土例以来67年ぶり2例目となった。短甲以外にも長頭鏡、圭頭鏡、ヤリ先、鉄劍、刀子、有肩铁斧、U字形鍛錬先、籠子状鉄製品など40点程の副葬品が見つかっている。地下式横穴墓としては県内最大級の規模をもち、県内最多の副葬品数である。志布志とヤマト政權との関係を考える上で重要な発見となった。また、春日堀遺跡と安良遺跡でも地下式横穴墓が見つかっている。ともに構を掘り込んで玄室を構築しており、注目される。

県内では2例しか認められていない横穴墓が市内には存在していた。それは六月坂横穴墓群であり、明治42(1909)年に旧制志布志中学校敷地整地の際発見されたもので、後期末～奈良時代初期（6世紀後半～8世紀前半）の須恵器などが見つかっている。

六月坂横穴墓群や志布志湾岸では希少な6世紀代の前方後円墳である小牧1号墳の存在は、後に日向国諸郡に属することになるこの地域を考える上で注目される。

古代

水ヶ迫横穴墓で須恵器の蔵骨器が見つかっている。墨書き土器が小泊遺跡、安良遺跡、牧ノ原A遺跡、井手上A遺跡で出土している。製塙土器が野久尾遺跡、宮脇遺跡、稻荷追遺跡、仕明遺跡など出土している。

8世紀代の須恵器が宮脇遺跡や安良遺跡などで出土しているように、8世紀代までは市内でも遺跡が確認されるものの、9世紀以降は様相がはつきりしない。調査事例が乏しいこともあるが、7世紀代に比べると遺跡自体が少ないと可能性もある。

中世

この地域は中世において日向国諸県郡教仁院・教仁郷とされた。「志布志」の名が史料で確かめられるのは、正和5(1316)年のことで、「日向方島津御庄志布志津大沢水宝満寺敷地…」(『沙弥蓮正打渡状案』)とあり、万寿3(1026)年平季基が開いた島津庄・日向諸県郡一帯の港であったと考えられている。

室町時代以降も交通の要衝として栄えていたようであり、永祿5(1562)年に著された明の海防・倭寇対策書である『籌海図編』巻二(倭国事略)には、薩摩・大隅の港の一つとして記された「審宇署」は志布志とされる。

このような交通の要衝であった志布志を巡って、中世の約400年間に武士興亡の歴史が繰り広げられた場所が国指定史跡の志布志城跡である。

志布志城とは、内城・松尾城・高城・新城の四城の総称である。志布志城は文治5(1189)年頃の教仁院氏の居城に始まって以来、榎井氏・畠山氏・肝付氏・島津氏など数々の領主に変遷した。

平成18(2006)年以降、保存整備目的で継続的に発掘調査が行われ、華南三彩のような中世後期の中国産陶磁器や東南アジア産陶器も出土している。

この他市内には建久(1190~1198)年に地頭弁済使安楽平九郎為成の居城とされる安楽城跡、文治4(1188)年に平重頼によって築かれたとされる松山城跡、南北朝期(1359年)に教仁郷氏の居城とされる蓬原城跡などが存在する。

中世山城以外の調査事例では、安良遺跡が注目できる。この遺跡では、掘立柱建物や堅穴建物が見つかっている。また、中世前期の輸入陶磁器や国産陶器のほか、畿内系羽釜、柿垂型・和泉型瓦器碗も出土している。炭化ご飯塊と炭化卵塊の出土も注目される。安良遺跡から約1km北に位置する安楽城跡や明治26(1893)年に境内から青白磁四耳壺の藏骨器や鏡・太刀・青白磁合子などが見つかっている安楽山宮神社を含めて、その歴史的背景が注目される。

長田遺跡や仕明遺跡では、中世墓が見つかっている。宇都上遺跡では、石塔類や輸入陶磁器、国産陶器、そしてタイ産四耳壺等が埋まっていた大型土坑が検出された。

近世

日向国諸県郡志布志郷とされ、東を秋月藩と接することから陸海ともにきわめて重要な郷であった。

現在の志布志小学校に地頭仮屋がおかれて、その周辺には

武家屋敷が建ち並ぶ「麓」を形成していた。この「志布志麓」は、令和元(2019)年5月に日本遺産に認定された。

藩米等の集積・積出港であった前川河口には、津口番所が置かれていた。藩政末期には琉球を通しての密貿易が行われ、その商人であった中山宗五郎の屋敷は密貿易屋敷と呼ばれていた。

これら地頭仮屋跡・津口番所跡・密貿易屋敷跡では、確認調査が行われ、陶磁器類が出土している。

船追遺跡では、県内遺跡からは初の出土例となった二分金が見つかっている。

近代

明治4(1871)年の廃藩置県によって、鹿児島県諸郡志布志郷となり、同年11月には新設の都城県に属した。明治6(1873)年には宮崎県の所管に移されたが、明治9(1876)年に宮崎県が鹿児島県に編入されることに伴い再び鹿児島県に属することになった。そして、明治16(1883)年宮崎県再設置の際は鹿児島県に残り、鹿児島県南諸郡に属した。

この時期の遺跡では戦争遺跡が注目できる。太平洋戦争末期、連合軍の南九州上陸作戦(オリンピック作戦)を予想した日本軍は志布志湾沿岸に洞窟式の地下陣地を造った。その現存している一つが、権現島水陸陣地跡である。また、野井倉台地には昭和20(1945)年に海軍航空隊志布志基地(野井倉飛行場)が建設された。

(参考文献)

※発掘調査報告書は削除した。

有明町誌編さん委員会 1980『有明町誌』

梅原末治 1944「大隅発見の異形石器」『人類学雑誌』59-7

大木公彦・内村公大 2012『夏井海岸の地形・地質調査報告書』

志布志市教育委員会

小畠弘己・真鍋彰・國木田大・相美伊久雄 2022「土器包埋炭化物測定法による南九州最古のイネの発見—志布志市小泊遺跡出土のイネ圧痕とその所属時期について—」『日本考古学』54 日本国考古学協会

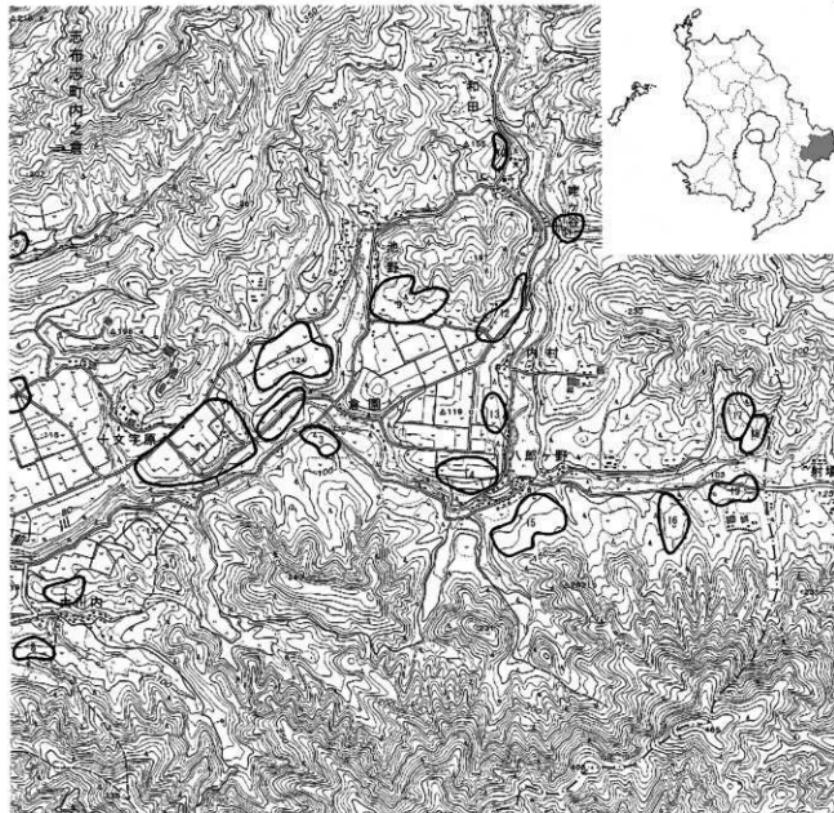
黒川忠広 2018「瀬戸口望コレクションの紹介～志布志市坂之上遺跡～」『黎明館調査研究報告』30

志布志町誌編集委員会 1972『志布志町誌』上巻

志布志町教育委員会 1985『志布志の埋蔵文化財』

瀬戸口望 1974「倉庫遺跡採集の指宿式土器とその他について」

『鹿児島考古』10 鹿児島県考古学会



第3図 遺跡位置及び周辺遺跡 (1 : 12,500)

第1表 周辺遺跡地名表

%	遺跡番号	遺跡名	所在地	前有者 調査 部	調査 部	発生 部	古墳 部	古代 部	中世 部
1	221-171	食闇A	志布志町内之食字大原	○	○				
2	221-96	食闇B	志布志町内之食字池野	○	○				
3	221-264	食闇C	志布志町内之食字原原	○					
4	221-172	十文字	志布志町内之食字十文字	○					
5	221-173	向闇	志布志町内之食字向闇ほか	○					
6	221-156	片野側穴	志布志町内之食字官前	○	○				
7	221-154	風穴	志布志町内之食字風穴ほか	○					
8	221-175	平原	志布志町内之食字平原	○					
9	221-176	池野	志布志町内之食字大原	○					
10	221-250	和田	志布志町内之食字和田	○					

%	遺跡番号	遺跡名	所在地	前有者 調査 部	調査 部	発生 部	古墳 部	古代 部	中世 部
11	221-167	鍵ヶ谷	志布志町内之食字鍵ヶ谷				○	○	
12	221-169	井手平	志布志町内之食字井手平				○	○	
13	221-216	八郎ヶ野B	志布志町内之食字向原				○	○	
14	221-97	八郎ヶ野A	志布志町内之食字向原				○	○	
15	221-196	八郎ヶ野C	志布志町内之食字八野				○	○	
16	221-97	八野	志布志町内之食字八野				○	○	
17	221-218	東黒土田B	志布志町内之食字東黒土田				○		
18	221-93	東黒土田	志布志町内之食字東黒土田				○	○	
19	221-168	東黒土田C	志布志町内之食字東黒土田				○	○	

第3章 調査の方法

第1節 発掘調査の方法

1 発掘作業の方法

調査範囲は、は場整備によって埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲である。具体的には、2・8トレンチ周辺である。

調査対象表面積は、調査中に確認トレーンを設定して調査範囲の絞り込みを行った結果、1,000m²となった。

工事の掘削深度の関係上、アカホヤ火山灰層（IV層）以下については調査を行っていない。

調査区の基準軸は、業者に委託して設定した。南北方向にA～D、東西方向に1～17とする10×10mのグリッドを設定している（第4図）。

このグリッドを基にして、遺構・遺物の測量作業を行った。トータルステーションで測量作業を行う場合、測量座標はA-17区の右上を原点（0, 0）とし、縦軸をX、横軸をYとした。

レベルは、委託業者が設置した基準点（H=73.183m）を用いた。

発掘作業は、表土（I層）を重機により除去し、表土最下部から人力（鍛籠・山鉢）による掘り下げを行った。人力掘り下げの際、出土遺物が少ない場所では鍛籠を中心に用い、遺物が集中している場所はねじり鎌を用いた。

出土した遺物はトータルステーションを用いて、番号を付して取り上げた。番号を付したものは、包含層と遺構内出土合わせて約19,200点である。小型の遺物や特徴のない遺物は、グリッド毎に一括して取り上げた。一括取り上げ分を含めると、40,000点以上（コンテナケース70箱分）になる。

遺物出土状況の写真撮影は、時期比定可能なものなど、特徴的なものを主な対象とした。なお、遺構調査状況を含め、撮影時に使用したフィルムは、白黒・カラーリバーサルの2種類である。デジタルカメラもを使用した。

土層断面図は、調査区の地形が表現できる箇所を選んで実測した（1/20スケール）。

2 遺構の調査方法

検出した遺構には、集石、土坑、溝状遺構がある。遺構のほとんどは、IV層上面で検出した。当時の掘り込み面に限りなく近いレベルでの検出ができるように調査を行ったものの、結果的に判別しやすい地層面での検出となった。

遺構を検出した順に集石は「SS」の略記号を、土坑は「SK」の略記号を、溝状遺構は「SD」の略記号を用いた。

これらの遺構は、検出状況の写真撮影後、土層観察用ベルトを設定し、掘り下げ、出土遺物の写真撮影・取上げ、土層断面実測・撮影、完掘、完掘状況実測・撮影を行った。

土坑の掘り下げには半截法を、溝状遺構の掘り下げには任意の箇所にベルトを残す方法を用いた。そして、埋土の違いを比較しながら移植ゴテで掘り下げた。

出土遺物は、トータルステーションを用いて、番号を付

して取り上げた。なお、小型の遺物や特徴のない遺物は、一括取り上げを行った。集石の礫も番号を付して取り上げた。

実測について、集石と土坑は1/10スケールで行った。溝状遺構は、トータルステーションを用いた。

調査中及び終了後、遺構の検出層や埋土状況、遺構内出土遺物、土層断面等の情報から、遺構の形成時期や性格等の検討を行った。

3 整理作業の方法

図面整理は、土層断面図と遺構実測図に区分し、さらに遺構実測図は種類別に仕分けを行い、台帳や遺物との照合及び再確認を行った。

洗浄について、土器・礫石器・礫はブラシを用いて、剥片石器は超音波洗浄器を用いて土の除去を行った。

注記は、遺跡名を表す「KRZ_A」を頭に、包含層出土遺物は続けて「グリッド区」「層」「取上番号」の順で記入した。遺構出土遺物は「KRZ_A」に続けて「遺構記号」「取上番号」の順で記入した。なお、剥片石器は注記を行っていない。包含層及び集石の礫は注記を行わず、観察後破棄した。

土器の接合は、時代ごとに大きく分類した後、型式ごとに細分して行った。接合後、報告書掲載遺物の選別を行い、実測・拓本・トレースを行った。

石器は、器種ごとに細分した。分類後、報告書掲載遺物の選別を行い、実測・トレースを行った。一部石器の実測・トレースは、作業の効率化を図るために業務委託を行った。

実測遺物には、実測番号を付して作業管理を行った。遺物のトレースは、ロットリングペンを用いた。遺構図のトレースは、ロットリングペンを用いた。土層断面図と遺構配置図は、デジタルトレースを行った。

4 出土遺物の分類・選別の方法

（1）土器

土器は主にアカホヤ層上位のⅢa層とⅢb層から出土しており、そのほとんどが縄文前期～弥生初頭に属する。分類は、既存の型式にあてはめて行った。

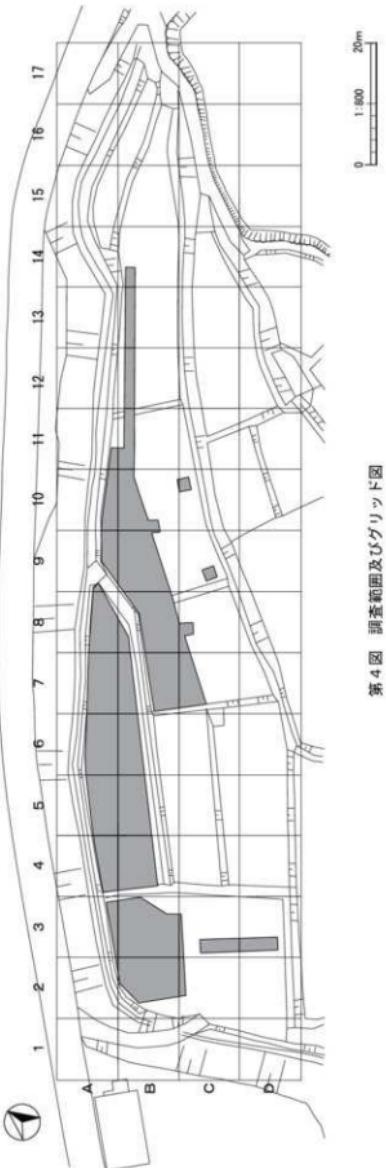
特徴がない、あるいは小片のため判断できないものは、「無文土器」や「条痕文土器」として扱っている。分類の詳細は、第4章において述べる。

報告書掲載遺物の選別について、各類の中で数量が多いものは、口縁部や底部など特徴的なものを優先した。小片であっても、各類の中で少数のものや時期比定可能なものはできるだけ選んでいる。

（2）石器

石器も土器と同じくⅢa層とⅢb層から出土しており、そのほとんどが縄文前期～弥生初頭に属すると考える。

出土石器は器種ごとに分類し、さらにその器種内で石材分類を行った。詳細は、第4章において述べる。



第4図 調査断面及びグリッド図

報告書掲載遺物の抽出は、器種の中で数量が少ないものはそのほとんどを抽出し、数量が多いものは特徴的なものを優先した。

(3) 石材分類

石材分類について、肉眼観察によってある程度石材産地が推定できる黒曜石は細分を行った。チャートも主に色調により細分を行った。

このほか、ギョクズイ、鉄石英、珪質頁岩、頁岩、砂岩、凝灰岩、花崗岩などが認められる。主な石材の詳細は以下のとおりである。

黒曜石1類

透明感があり、不純物を多く含むもの。アメ色～青味がかいた灰色を呈する。鹿児島県三船で採取される黒曜石に類似する。

黒曜石2類

不純物を多く含み、漆黒で光を通さないもの。鹿児島県上牛鼻などで採取される黒曜石に類似する。

黒曜石3類

アメ色～黒色を呈し、不純物を含まない良質なもの。佐賀県腰岳で採取される黒曜石に類似する。

黒曜石4類

青灰色を呈し、不純物を少し含むもの。長崎県東浜で採取される黒曜石に類似する。

黒曜石5類

灰白色で少し光を通し、黒色の粒状不純物を含むもの。大分県姫島の黒曜石に類似する。

チャート1類

基調が白色系の色調を呈するもの。

チャート2類

基調が青灰色～緑色系の色調を呈するもの。

チャート3類

基調が黒色～黒褐色系の色調を呈するもの。

玻璃質安山岩

元来は黒色を呈するが、風化すると灰白色を呈するもの。不純物をほとんど含まない。

ギョクズイ

珪質分に富み、白色系の色調を呈するもの。

鉄石英

珪質分に富んで透明感がなく、赤色を呈するもの。

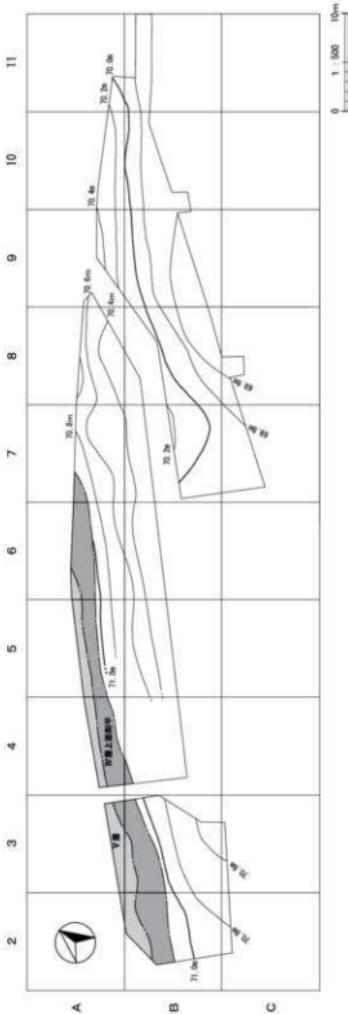
珪質頁岩

表面にぬめりをもち、油脂光沢があるもの。黒色及び白色を呈する。

粘板岩

薄く板状に剥離するもので、暗灰色～黒色系の色調を呈する。赤化した鉄分が、表面に付着する。

第5図 IV層(アカホヤ層)上面地形測量図



第2節 地形と層位

1 地形

本遺跡の発掘調査前の状況は、南側の前川に向かって下がっていく段々の田畠が広がっていた。旧地形もアカホヤ上面での地形測量図（第5図）で示したように、北から南へ傾斜していたことがわかる。

なお、北へ向かうほど傾斜は急になっている。そのため、調査範囲の最北部は表土除去後にIV層途中あるいはV層が検出されている（網ふせ箇所）。

2 層位（第6～10図）

基本層位は、平成30年度に実施した確認調査時のもの参考にした。ただし、川に近いこともあって部分的に存在する地層もある。詳細は、以下のとおりである。

I層：現耕作土（Ia層）・旧耕作土（Ib層）・造成土などである。色調や含有物により、数枚に細分可能である。

Ib層下部は、鉄分が凝縮し、土が凝固していることが多い（いわゆる水田の盤である）。

IIa層：黒褐色（10YR3/2）のシルト質土で、締まっている。明黄褐色バミスをまんべんなく含み、全体的に赤味を帯びる。上面をI層に削られている。層厚は約15cm。

IIb層：黒褐色（10YR3/1）のシルト質土で、やや締まっている。黄橙色バミス（径1～2mm）をまんべんなく含み、黄橙色バミスは下位ほど多くなる。層厚は約20cm。

IIIa層：にぶい黄褐色（10YR4/3）のシルト質土で、締まっている。やや砂質気味である。下部に黄橙色バミス（径2～3mm）を多く含む。川に近いほど色調が暗くなる。層厚は約50cm。縄文前～晚期遺物包含層。

IIIa-1層：IIIa層よりも黄橙色バミスを多く含む。

IIIa-2層：にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト質土で、締まりが弱い。黄橙色の砂を含む。B-9・10区の川側に部分的に認められる。

IIIb層：褐色（10YR4/4）シルト質土で、締まっている。黄橙色バミス（径2～3mm）を含む。層厚は約20cm。縄文前～後期遺物包含層。

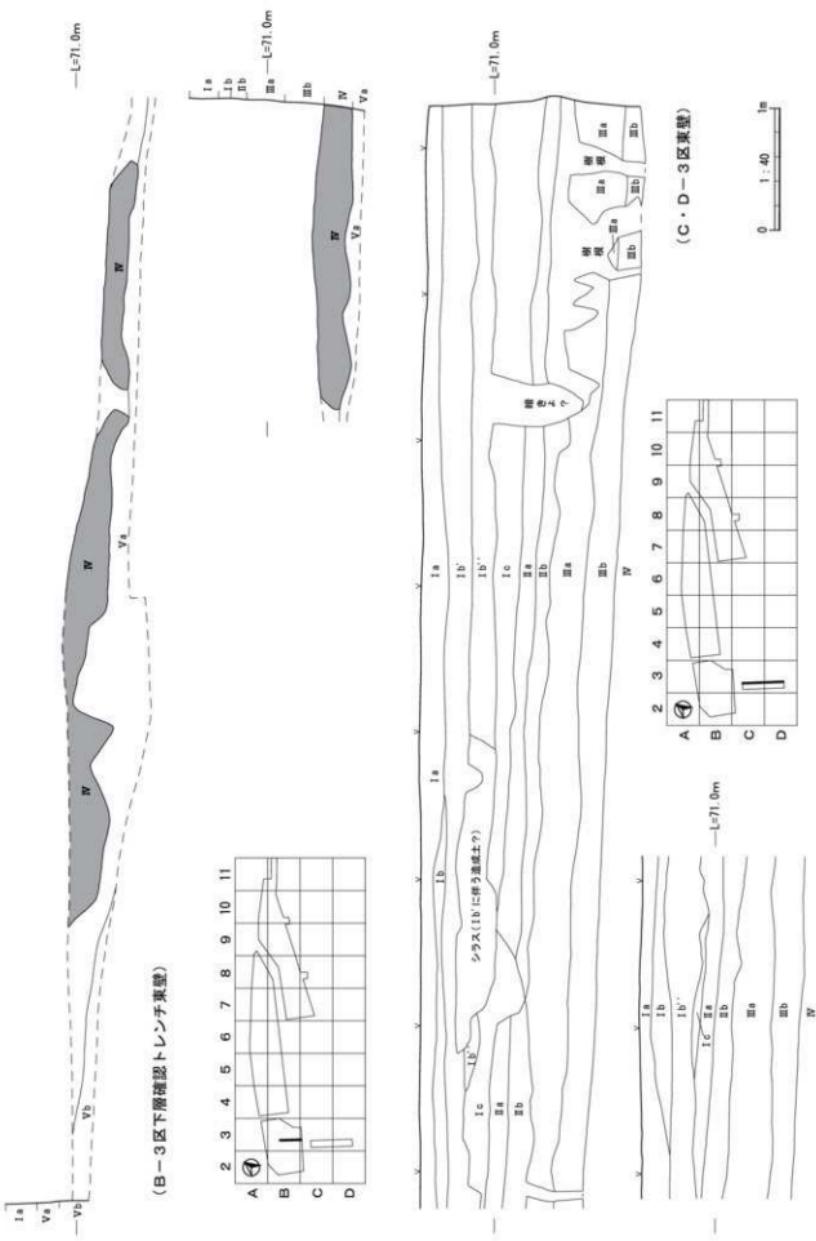
IV層：黄褐色（10YR7/8）のシルト質土で、締まっている。やや砂質気味である。アカホヤ火山灰層。川に近いほど堆積がしつかりしない。層厚は約30cm。

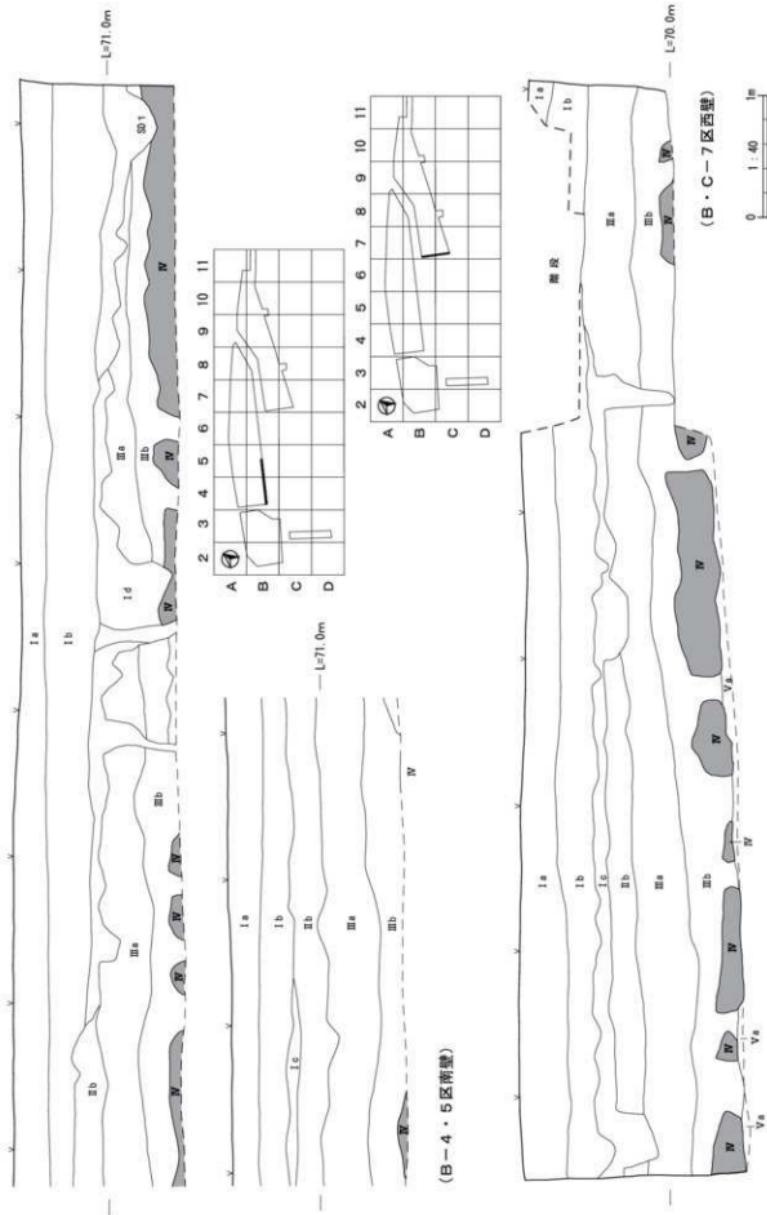
Va層：黒色（10YR2/1）のシルト質土で、締まりが弱い。白色粒子（径1～2mm）をまんべんなく含む。黄橙色バミス（径1～2mm）をわずかに含む。礫を含む。層厚は約15cm。

Vb層：暗褐色（5YR3/2）シルト質土で、締まり弱い。白色粒子と黄橙色バミスをわずかに含む。礫を含む。

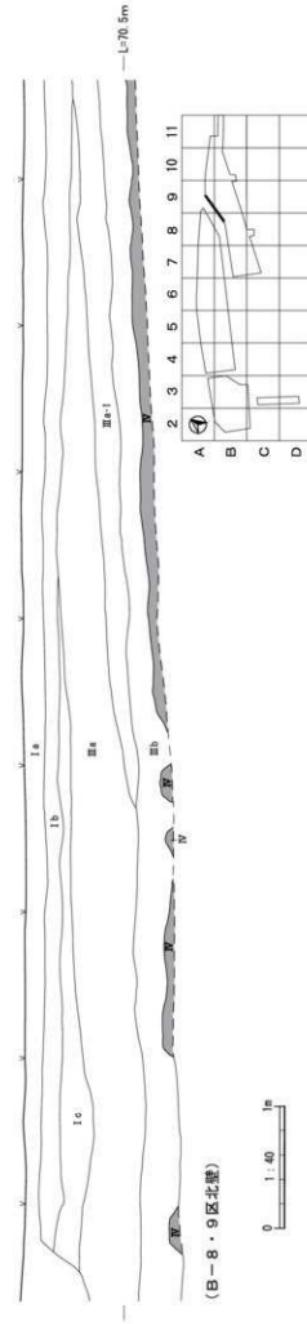
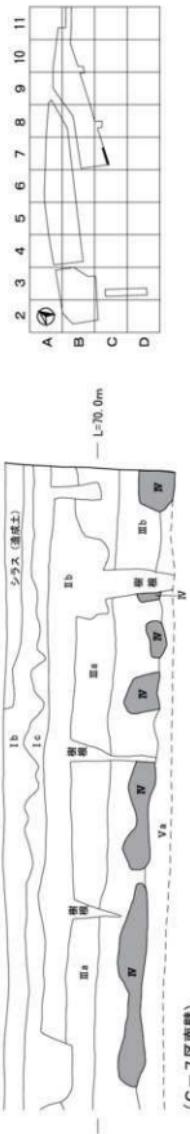
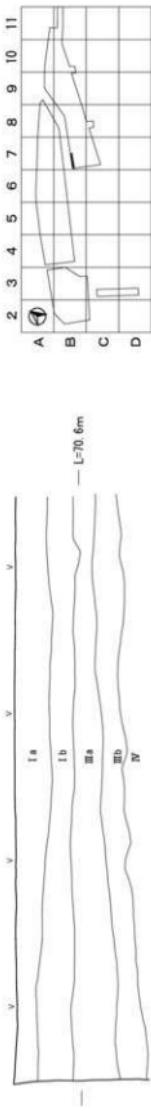
VI層：暗褐色（10YR3/3）シルト質土で、かなり締まっていている。薩摩火山灰層か？

第6図 土層断面図(1)



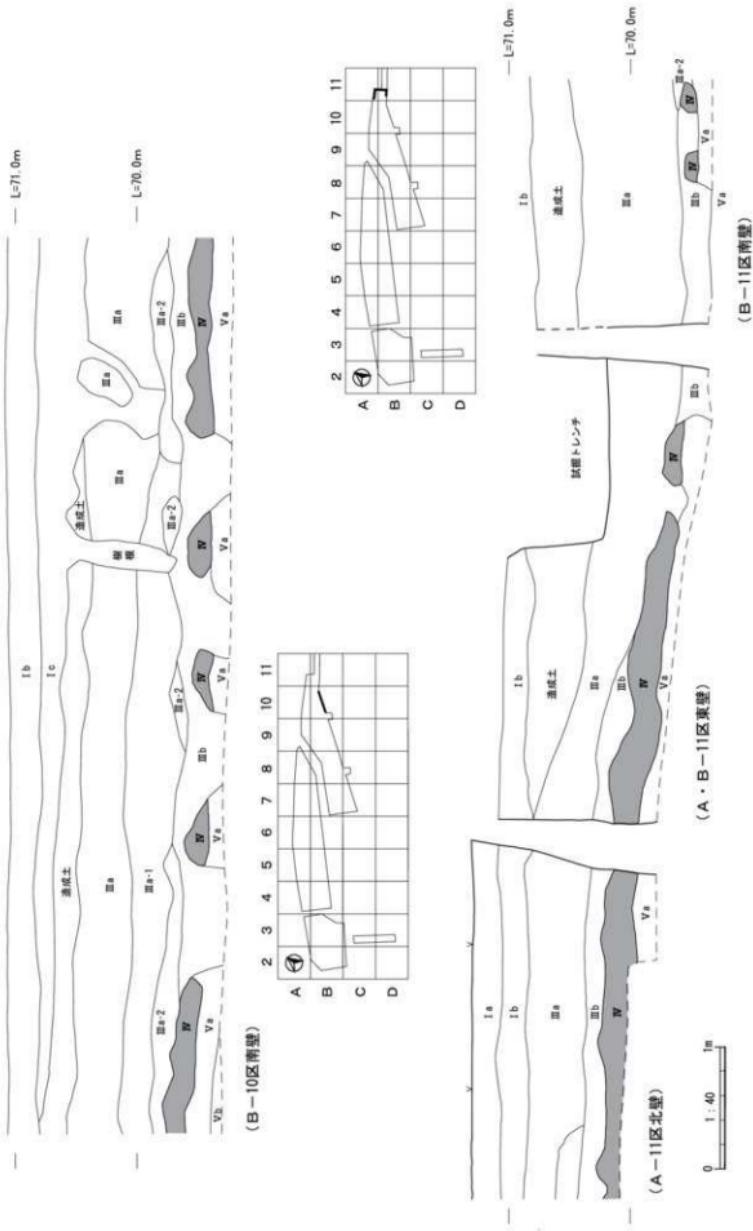


第7图 土层断面图(2)



第8図 土層断面図(3)

第9図 土層断面図(4)



第4章 調査の成果

第1節 縄文時代～弥生時代初頭の調査

1 調査の概要

は場整備工事の掘削深度の関係上、アカホヤ火山灰層(IV層)以下の調査は行っていない。そのため、縄文前期以降が対象となる。

ただし、アカホヤ火山灰上位層から縄文時代前期以降の遺物に混在する状況で、縄文早期の土器が8点確認されている。

縄文前期～弥生初頭の遺物は、主にⅢa層とⅢb層から出土しており(番号取上分で約19,200点)、調査区の7区以東からの出土が多い(第10図上)。特に8区以東は、足の踏み場がないほど多量に出土した。

遺構は、そのほとんどが標高の高いA・B-5～8区で認められた(第10図下)。遺構は、遺物分布の薄い場所で検出されている。

2 遺構

(1) 土坑(第11～13図)

人為的に掘り込まれた遺構を土坑と、7基認定した。当初土坑として調査を行ったものの、平面形や床面がいびつである等の理由から人為的なものではないと判断したものもある。

全てIV層(アカホヤ火山灰層)上面で検出している。掘り下げは半裁法を用いて、埋土の違いを確認しながら移植ゴテで行った。

平面形態は梢円形もしくは不定形で、全て単独で検出されている。埋土内から土器が出土したものもある。

土坑1号(SK1)

A-5区IV層上面で検出した。平面形は $1.4 \times 1.25m$ の不定形を呈する。最深は0.4mを測り、床面はVa層、一部はVI層上面まで達している。

埋土は、ぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質土で、締まっている。下部ほど黒味を帯びる。Ⅲa層に類似する。

土坑2号(SK2)

A-5区IV層上面で検出した。平面形は $1.2 \times 0.7m$ の細長い不定形を呈する。最深は0.2mで、床面はVa層となる。

埋土は褐色(10YR4/6)シルト質土で、やや締まっている。Ⅲa層に類似する。

土坑5号(SK5)

B-6・7区IV層上面で検出した。平面形は $1.95 \times 0.5m$ の長梢円形を呈する。北側にはテラスをもつ。最深は0.3mを測り、床面はV層となる。

埋土は、灰黄褐色(10YR4/2)シルト質土で、締まっている。灰白色バミス・黄橙色バミスを含み、アカホヤ層ブロックをわずかに含む。Ⅲb層に類似する。

土坑6号(SK6)

B-7区IV層上面で検出した。平面形は $1.3 \times 0.6m$ の長梢円形を呈する。最深は0.3mを測り、床面はVa層となる。

埋土は、灰黄褐色(10YR4/2)シルト質土で、締まっている。灰白色バミス・黄橙色バミスを含み、アカホヤ層ブロックをわずかに含む。Ⅲb層に類似する。

土坑7号(SK7)

A-7区IV層上面で検出した。Ⅲa層掘り下げ時から黄橙色バミスが密集していたため、何らかの遺構が存在することとは予想できていたものの、平面プランが明瞭となったのはIV層上面であった。

平面形は $1.3 \times 1.25m$ の不定形を呈する。掘り過ぎたため、上場ラインが不明な箇所が一部ある。最深は0.45mを測り、床面はVa層となる。

埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。Ⅲb層に類似する。

土坑8号(SK8)

A-8区IV層上面で検出した。平面形は $1.3 \times 0.8m$ の長梢円形の不定形を呈する。最深は0.4mを測り、床面はVa層となる。

埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質土で、締まっている。灰白色バミス・黄橙色バミスを多く含み、アカホヤ層ブロックを含む。Ⅲb層に類似する。

土坑10号(SK10)

B-C-7区IV層上面で検出した。平面形は $1.85 \times 1.4m$ の不定形を呈する。最深は0.4mを測り、床面はVa層となる。

埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まっている。径1cm程の黄橙色バミスを含む。Ⅲb層に類似する。

埋土内からは、土器24点、石器1点が出土した。土器は、そのほとんどが型式不明の胴部片であるが、3種類土器1点(第22図8)と9種類土器1点(第25図48)が認められる。石器は、黒曜石1種類の剥片である。

(2) 集石(第14図)

1基確認した。前川が近いこともあり、Ⅲa層とⅢb層からは礫が多数出土したが、礫がある程度まとまっている場所は1箇所のみで、そこを集石と認定した。

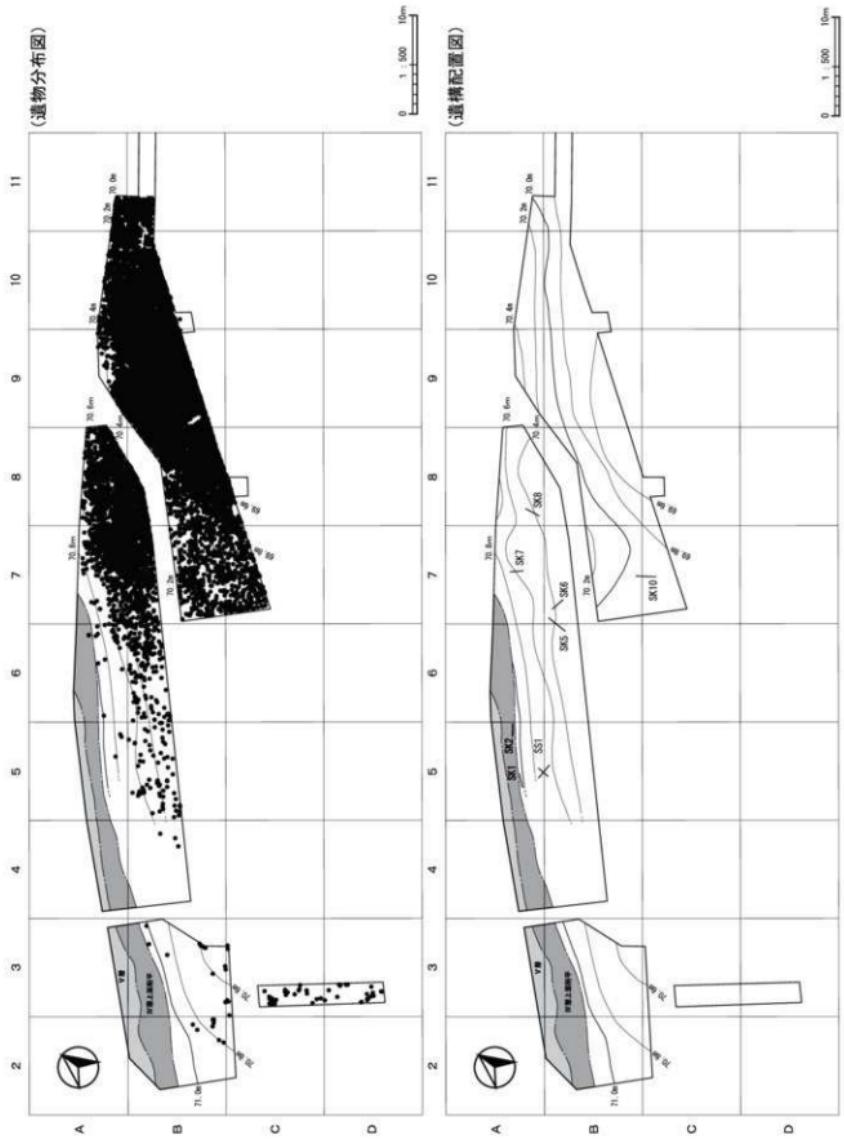
集石の認定後、礫の集中している箇所を集石の中心部と想定し、そこを基準に軸を設定し、平面図と見通し断面図一面を作成しながら、礫を取り上げた。礫は番号を付して取り上げた。礫の取上後、実測ポイントを残しながら、掘り込みの有無の精査をIV層上面まで行った。

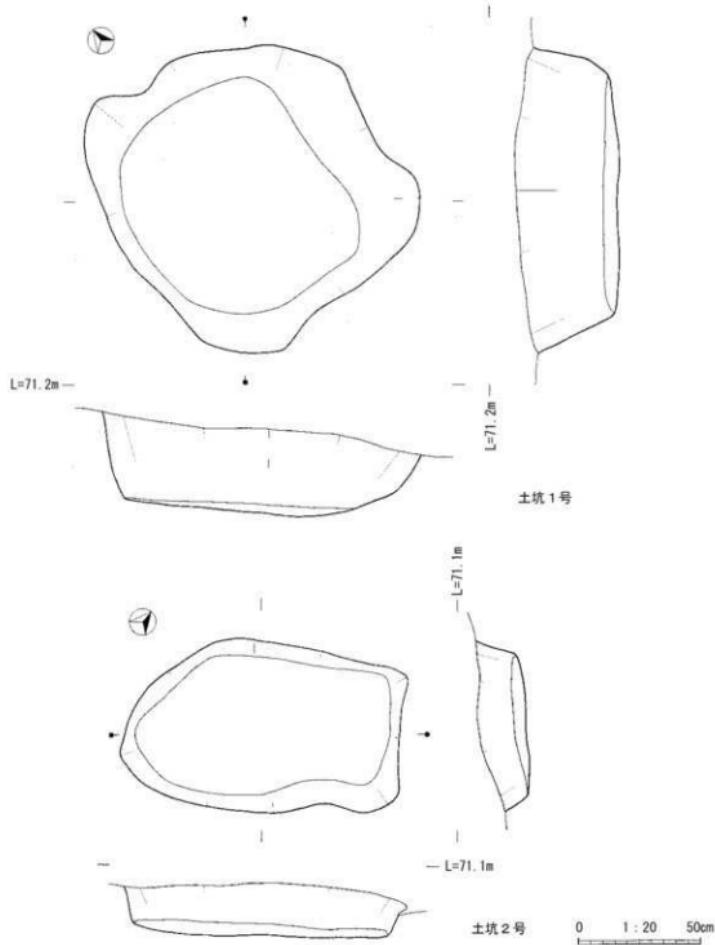
集石1号(SS1)

A-B-5区Ⅲa層下位で検出した。 $1.8 \times 1.5m$ の範囲に礫が広がる。中心の土壌は、やや黒味を帯びる。礫は0.3mの厚さで分布し、下部の礫はⅢb層に達する。掘り込みは、確認できなかった。

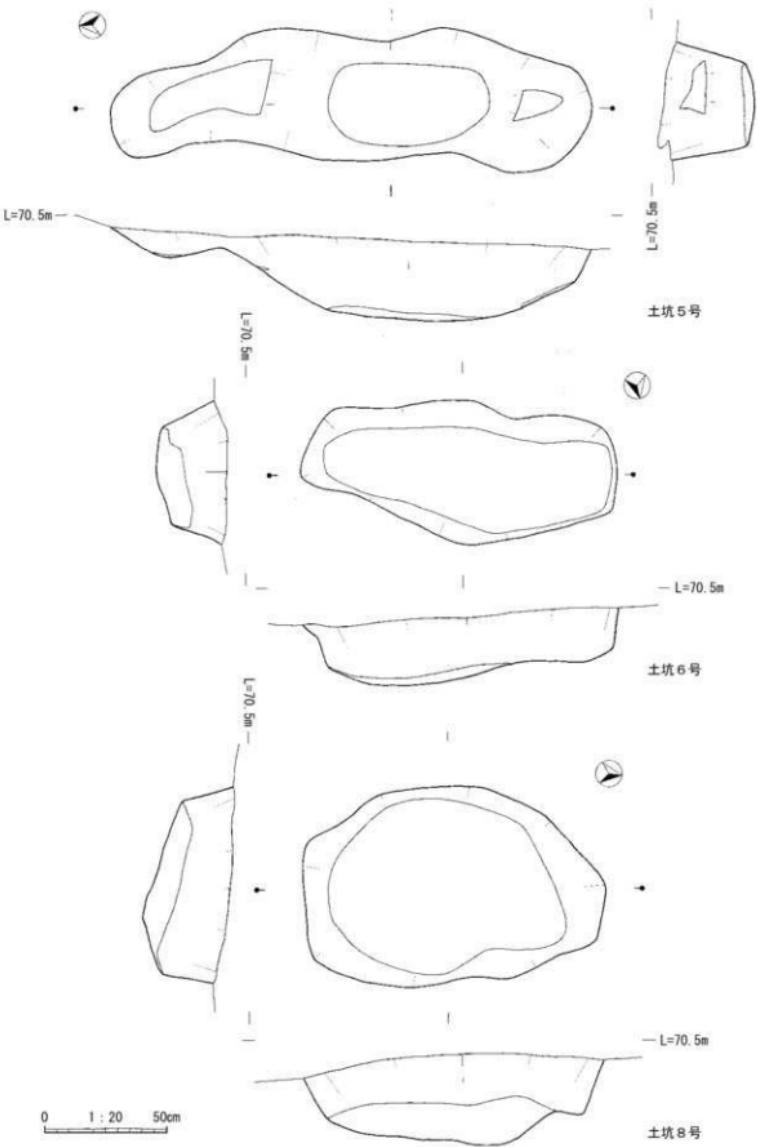
礫は、91点取り上げた。礫のほとんどは、被熱により破碎・赤化しており、黒化しているものもある。石材は、砂岩(72点)と頁岩(19点)からなる。

第10図 遺物分布図及び遺構配置図

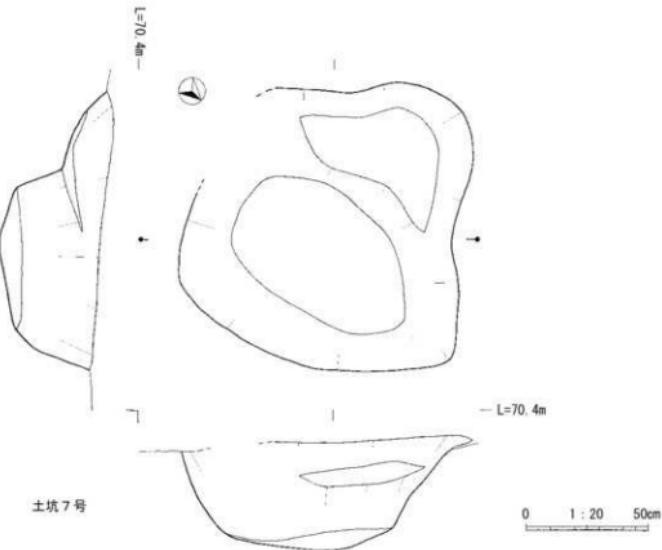




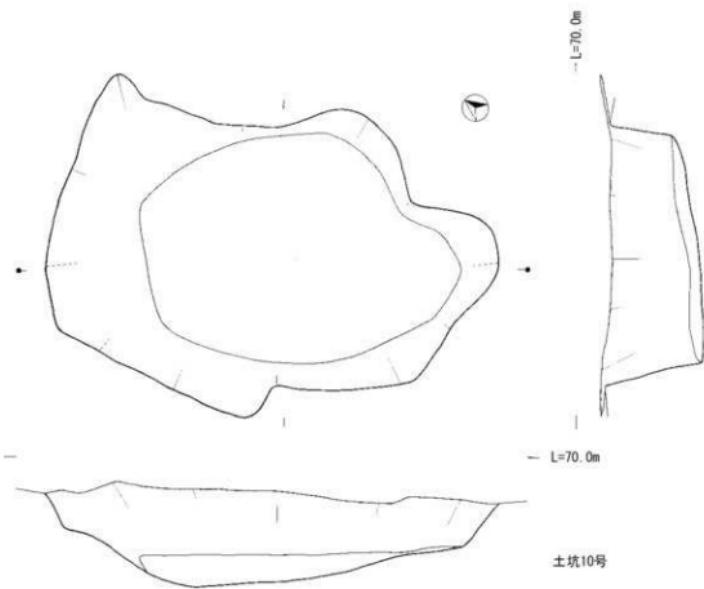
第11図 土坑 (1)



第12图 土坑 (2)

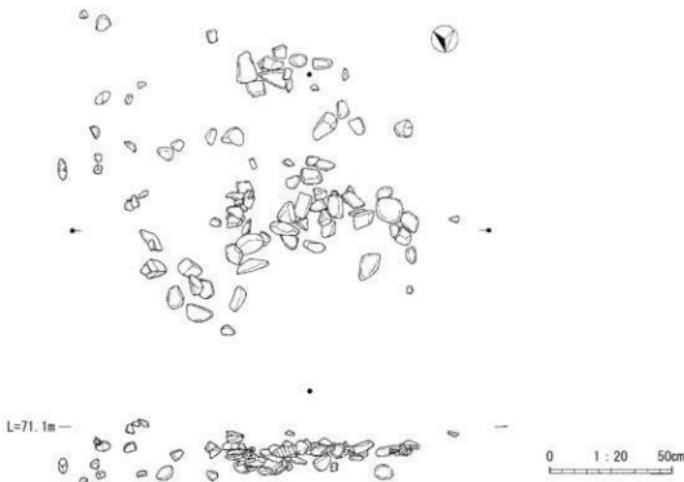


土坑 7号



土坑 10号

第13図 土坑 (3)



第14図 集石遺構

砾の総重量は、11923.9 g である。砾重量の平均値は131.0 g、中央値は100.6 g、最大値は606.0 g、最小値は4.6 g。砾最大長の平均値は7.0cm、中央値は6.8cm、最大値は12.8 cm、最小値は2.9cmである。

集石の範囲内から、無文の胴部片が3点出土した。

3 土器

土器は、主にIIIa層・IIIb層から、番号取上分で約16000点出土した。

土器の大半は、縄文時代前期～後期に属すると考える。少量だが、縄文時代早期にまで遡るものや、弥生時代初頭に該当するものも確認されている。平面分布図を見ると、6区以東で多く認められる。

文様などから、1～23類に大別した。このうち、1～4類は早期に、5類は前期に、6～10類は前期末～中期に、11～19類は後期に、22類は中～後期に、20類は晚期～弥生初頭に位置づけられる。

以下、各類について報告する。

1類土器（第22図1～5）

胴部に横位・斜位の貝殻条痕が施され、直行する口縁部に刺突文を施すことを特徴とする。5点確認し（番号取上分）図示した。

1は、棒状もしくはヘラ状工具による浅い刺突文を、2列に施す。2・3は、貝殻腹縁刺突文を施す。4・5は胴

部で、粗い貝殻条痕が確認できる。

2類土器（第22図6、7）

胴部に貝殻腹縁刺突文を、密接して施すことを特徴とする。2点確認し（番号取上分）、全て図示した。

6・7は、胴部に貝殻条痕などはみられず、丁寧なナゲ調整を施した後に、貝殻腹縁刺突文を施す。

3類土器（第22図8）

器面全体に、貝殻腹縁刺突文を羽状に施すことを特徴とする。1点のみ確認し（番号取上分）、図示した。

文様は、ナゲ調整後に施文しており、貝殻腹縁刺突文は羽状に施す。胎土は粗く、内外面に石英・長石・礫類が目立つ。

4類土器（第22図9）

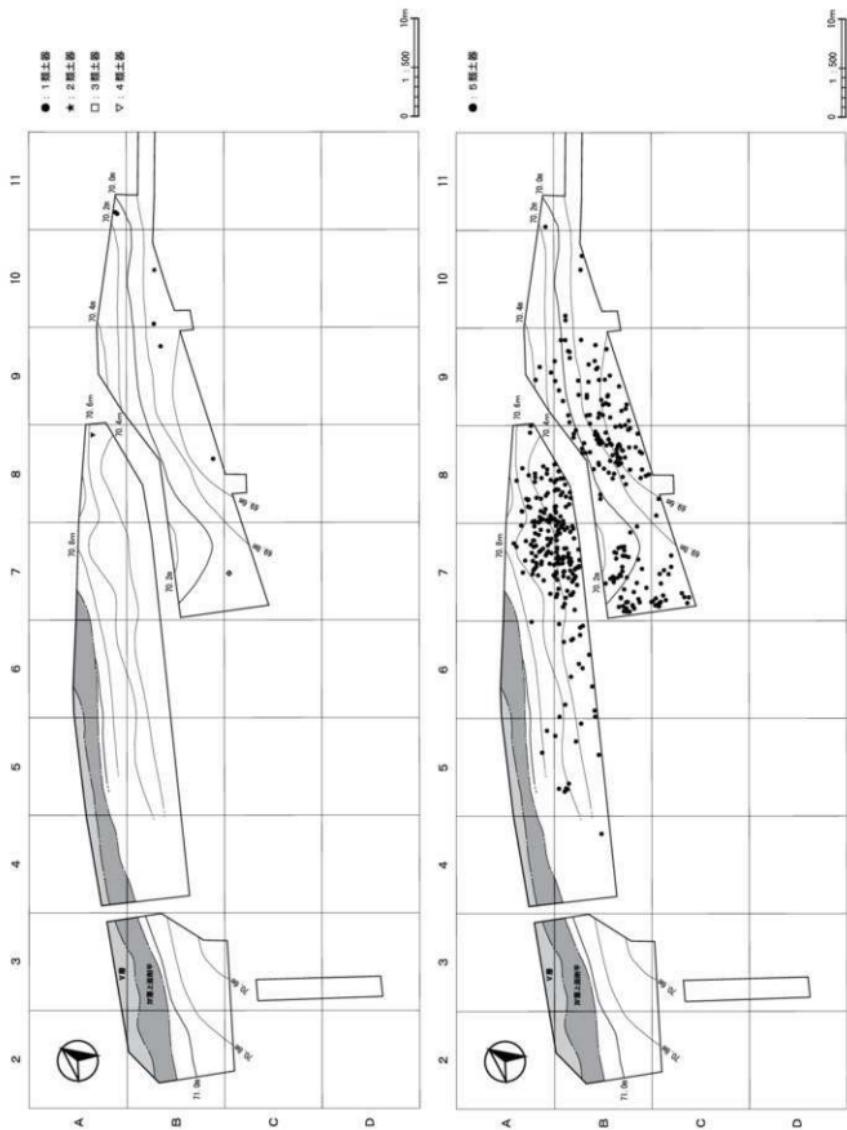
沈線による区画内に、撚糸文を施すことを特徴とする。1点のみ確認し（番号取上分）、図示した。

区画ごとに撚糸文は、横位・縦位・斜位へと変化する。斜位の撚糸文を施す箇所の、沈線を挟んだ両側の区画は、無文と考えられる。色調は、白色に近い明褐色を呈す。

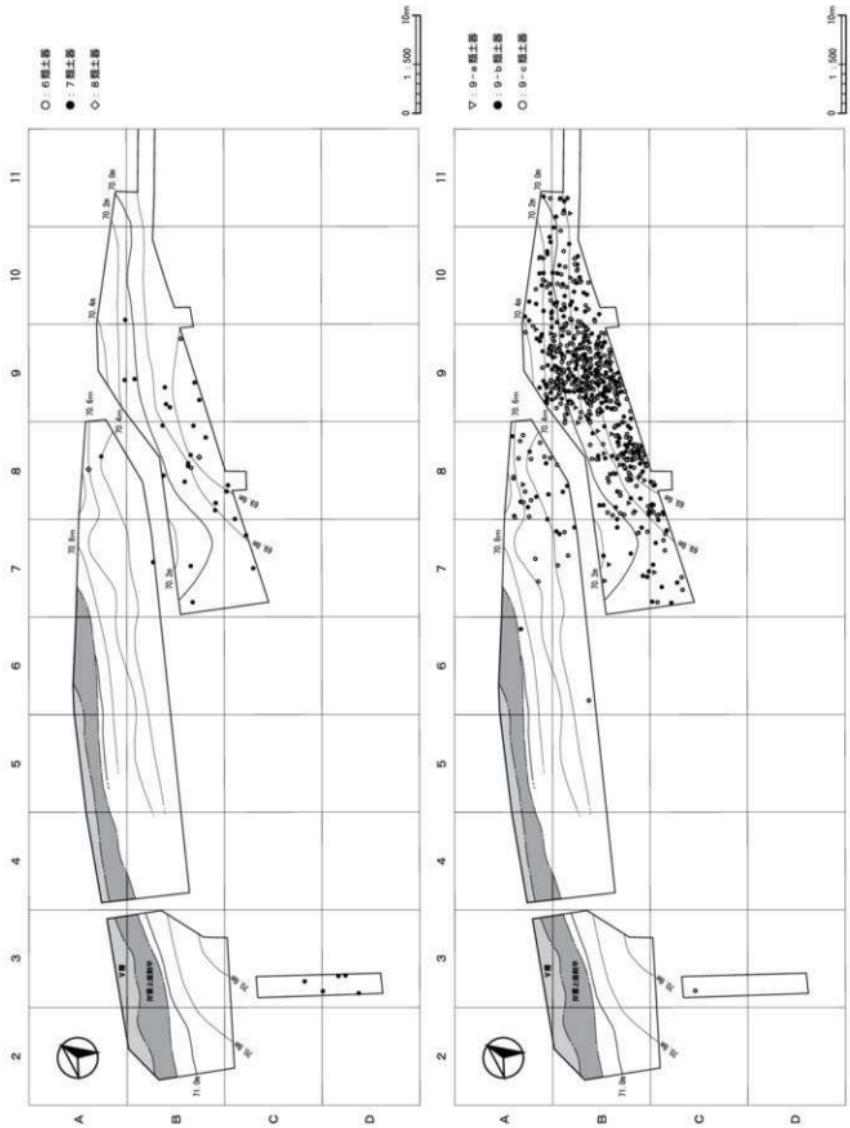
5類土器（第22～24図10～32）

外面全体と口縁部内面に、棒状もしくはヘラ状工具で幾何学的な沈線文を、密接して施すことを特徴とする。405

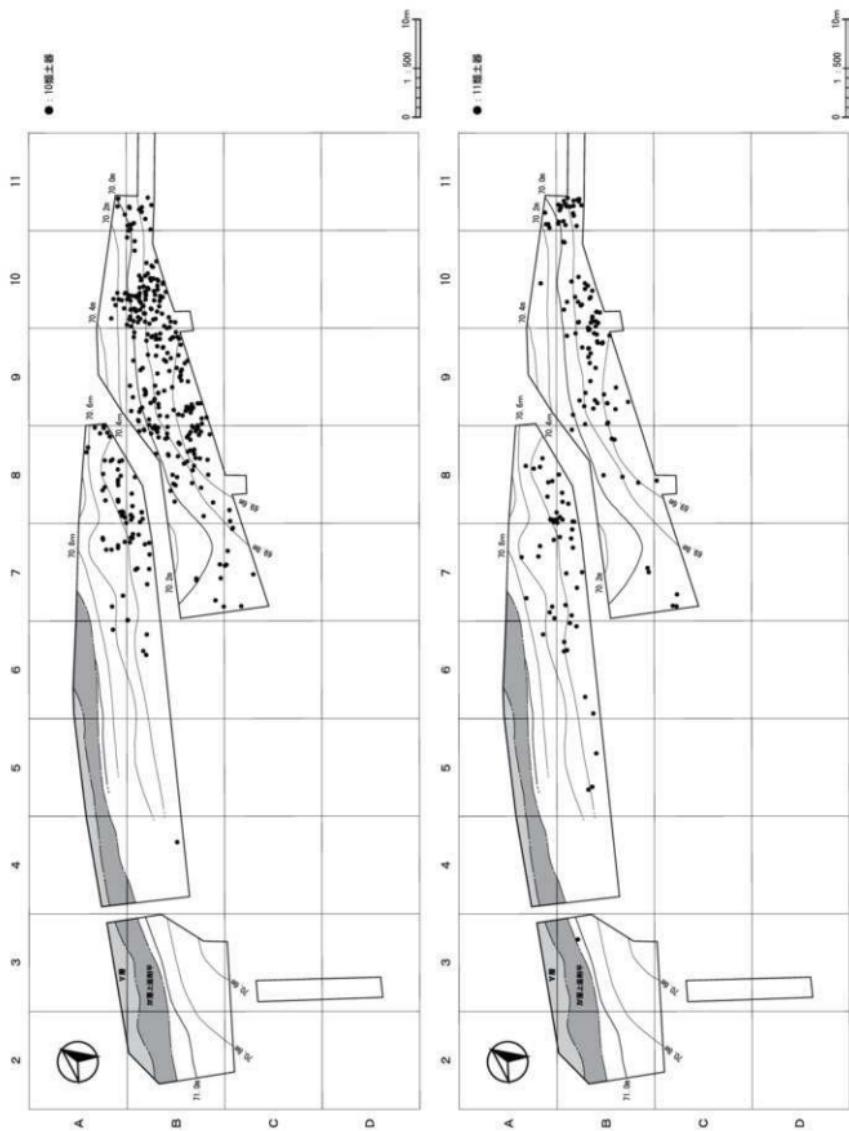
第15図 土器分布図(1)



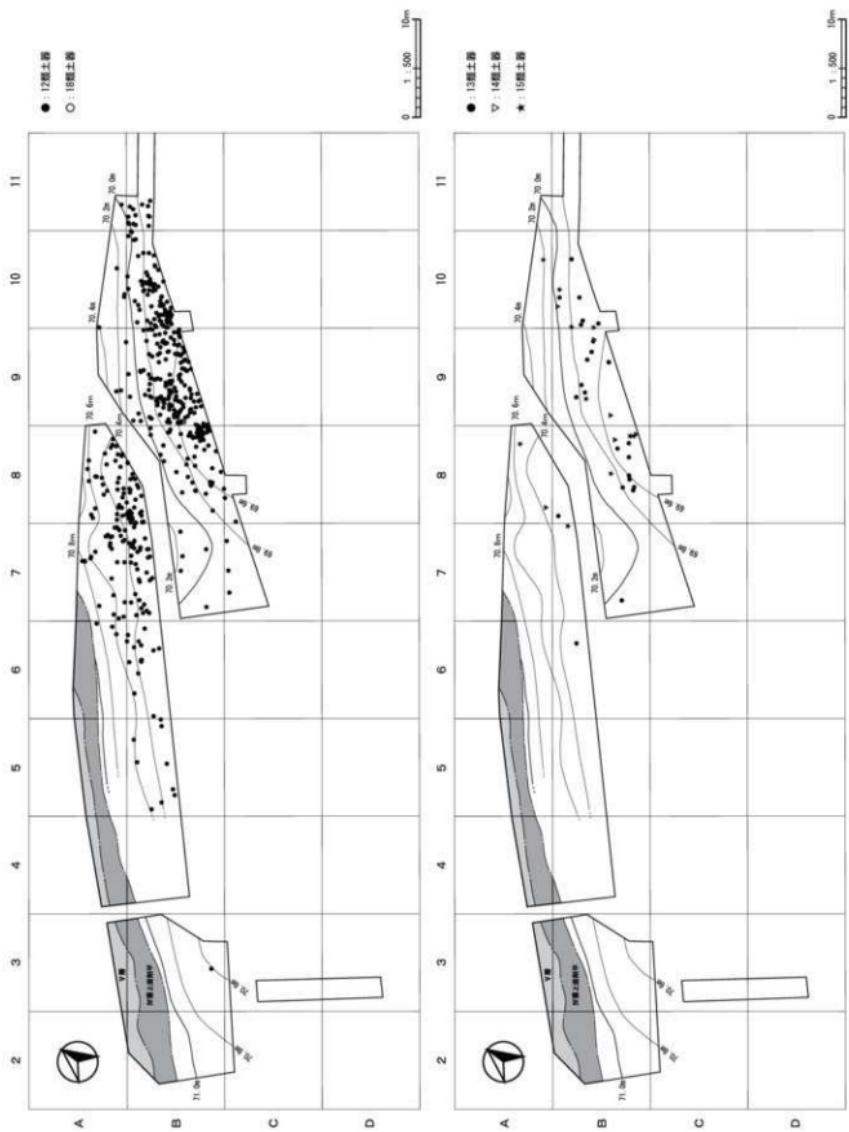
第16図 土器分布図(2)



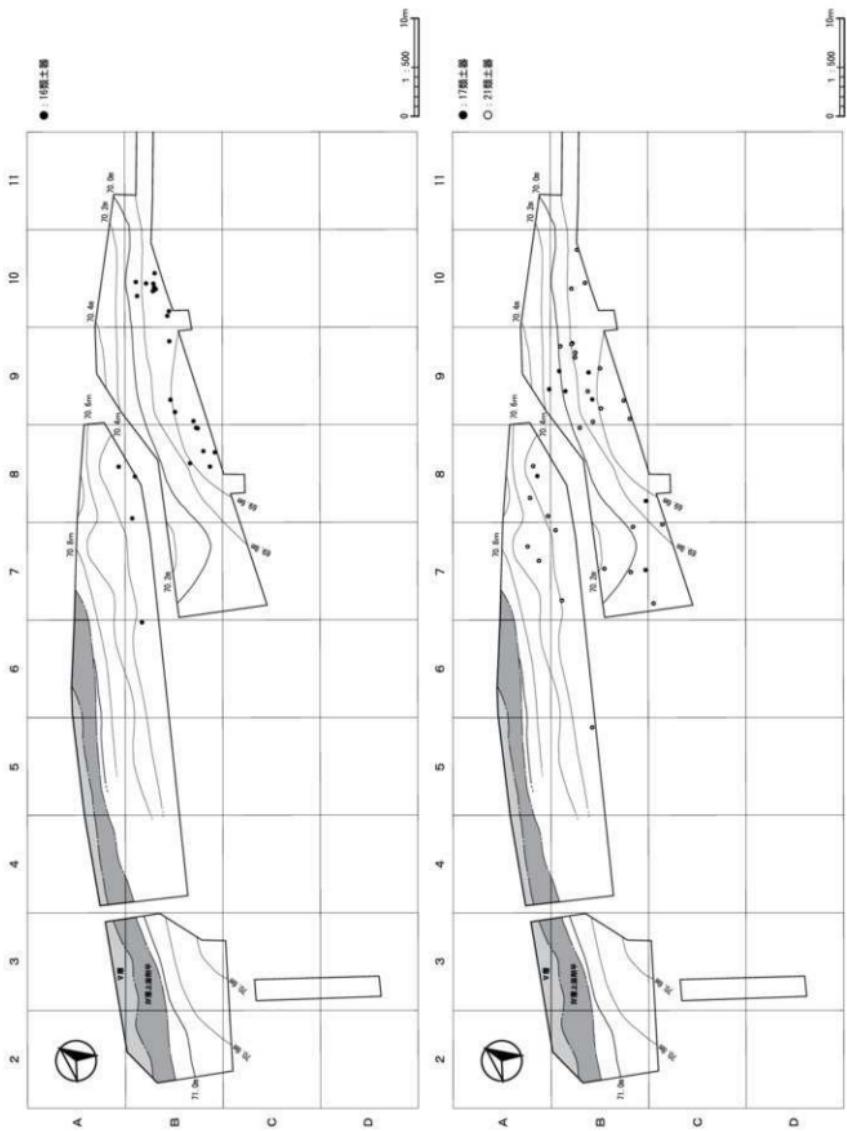
第17図 土器分布図(3)



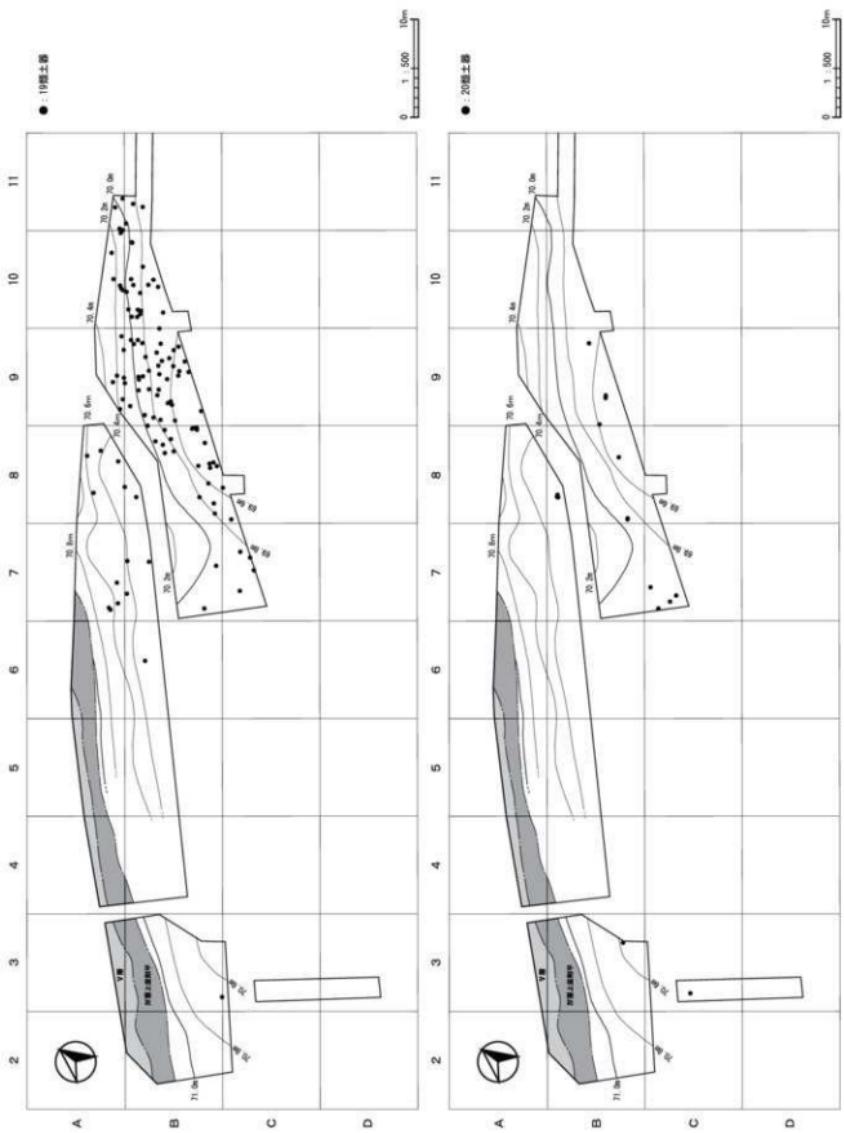
第18図 土器分布図(4)



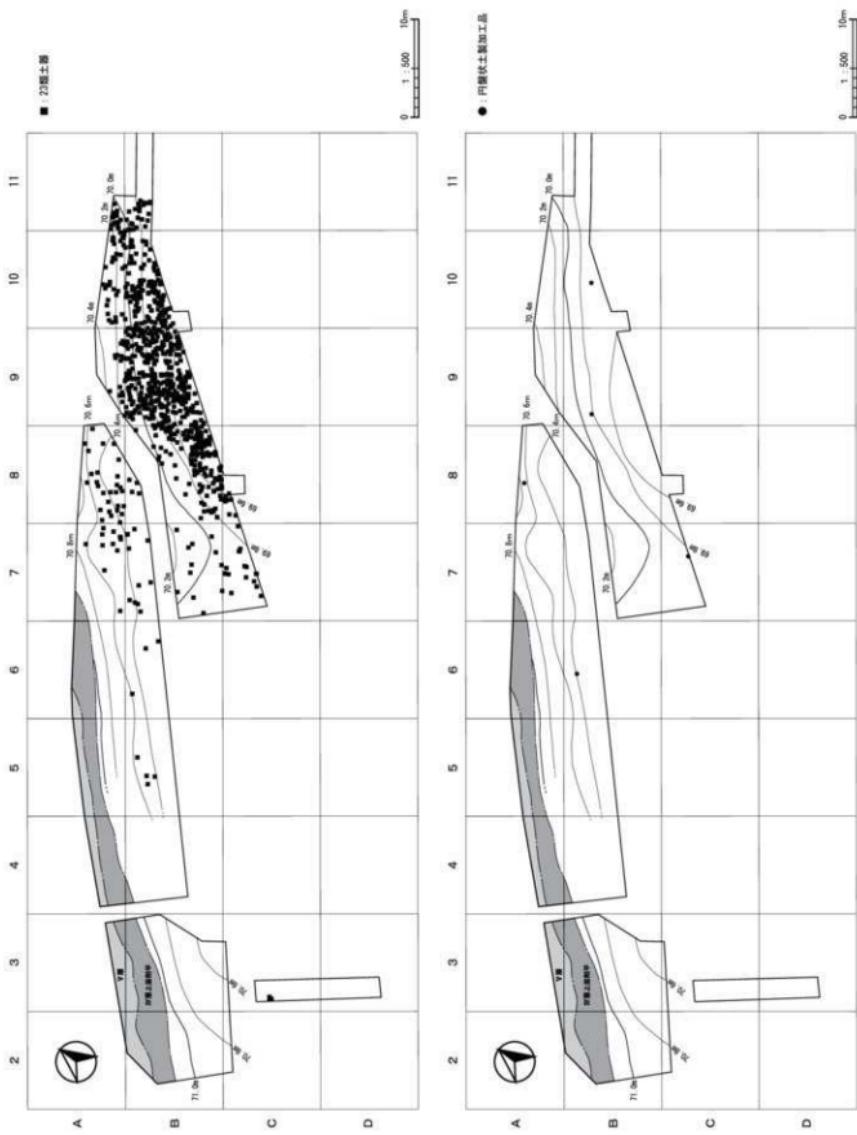
第19図 土器分布図(5)



第20図 土器分布図(6)



第21図 土器・土製品分布図



点確認し(番号取上分)、23点図示した。

口縁部は、ほとんどが直行もしくは外反する。底部は丸底である。10~18は口縁部で、口唇部に刻みや連点文を施す。10・12・13は、口縁端部まで斜線が施されている。13は、沈線文と連点文を組み合わせている。11・14~18は、口縁部に横位沈線文を施す。

19~28は胴部で、斜線の上に曲線・波状文及び三角・四角組み合わせ文を施す。

29~32は底部であり、沈線により綾杉文や十字文を施す。特に十字文は、交差する箇所が底部の中心部に位置するように、意識して施されている。

器面調整は、ナデ調整を行うものがほとんどであるものの、15・27・28のように、内面に貝殻条痕が認められるものもある。26と32、27と28は、同一個体の可能性がある。

6類土器 (第24図33、34)

貝殻連点文や細い突帯文を、幾何学的に施すことを特徴とする。2点確認し(番号取上分)、全て図示した。

特徴から、2類に大別した。

6-a類 (第24図33)

33は、貝殻腹縁刺突による連点文を施している。連点文は浅く施されており、連点文の間隔は密である。

6-b類 (第24図34)

34は、突帯を字状に貼付している箇所が確認できる。突帯は、貼付後に貝殻による刺突文と、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。

7類土器 (第24~25図35~41)

ミミズばれ状で貼付が甘く、つまみ上げによる指痕が明瞭に確認できる突帯文を有し、底部が尖底となることを特徴とする。32点確認し(番号取上分)、7点図示した。

突帯は、基本的に口縁部に対して横位に貼付を施すが、波状のもの(36)や、口縁端部に向けて横位から縦位に変わるもの(39)もある。口縁部は直行または外反し、内外間に丁寧な貝殻条痕を施す。または、口唇部に刻みを施すものもある。

35は、基本的に横位の突帯が、口唇部や胴部に向かって縦位に向かって変わっている。縦位の突帯は、わずかに口唇部にはみ出している。37は、V字状に不規則な貼付となっている。37・40は、突帯の貼付部位において、ナデ調整後に貼付を施す。

8類土器 (第25図42)

外面に粗い縄文を施すことを特徴とする。1点確認し(番号取上分)、図示した。

内面は丁寧なナデ調整を施すのに対して、外面は固い織維を原体とする縄文を施したと考えられ、全体的に筋が目立つ状態となっている。胎土も特徴的で、石英・長石類が多く量に含まれる状態が、土器の表面や断面に確認できる。色調は、灰褐色を呈す。

9類土器 (第25~36図43~118)

口縁部が、キャリバー形に内湾、または直行・外反し、地文に貝殻条痕が施され、器壁は薄手で、底部は平底または上げ底を特徴とする。668点確認し(番号取上分)、76点図示した。

波状口縁を呈するものも多い。文様は、無文のものや突帯を有するもの、沈線文を施すものなどがあり、施文手法は多様である。突帯を有するものは、突帯を貼り付けただけのものは確認できず、突帯上に刺突文や押引文、沈線文を施すなど、多重に施文している。突帯は、口唇部まで至るものも多い。文様は口縁部に集中して施され、胴部まで広がるものは確認できない。口唇部に刻みを施すものもある。

内面は、基本的に横位の貝殻条痕がみられ、外面は口縁部で横位、胴部で斜位の貝殻条痕を施すものが大半である。口縁部形態から、3類に大別した。

9-a類 (第25~26図43~53)

最もキャリバー形口縁の形態が発達し、口縁部が強く内湾するもの。

43は無文で、口唇部に部分的な刻目を有するのみである。44は、横位の押引文を2列に施す。45~48は突帯を有する。45・48は、突帯上に貝殻腹縁刺突文を施す。49~53は、沈線文を施す。46・49・50・53のように、沈線文を施した後に、沈線内もしくは沈線に沿うように、刺突文を細かく施すものが多い。51は、2列に押引文を施す。

9-b類 (第26~30図54~83)

口縁部が緩く屈曲するもの。

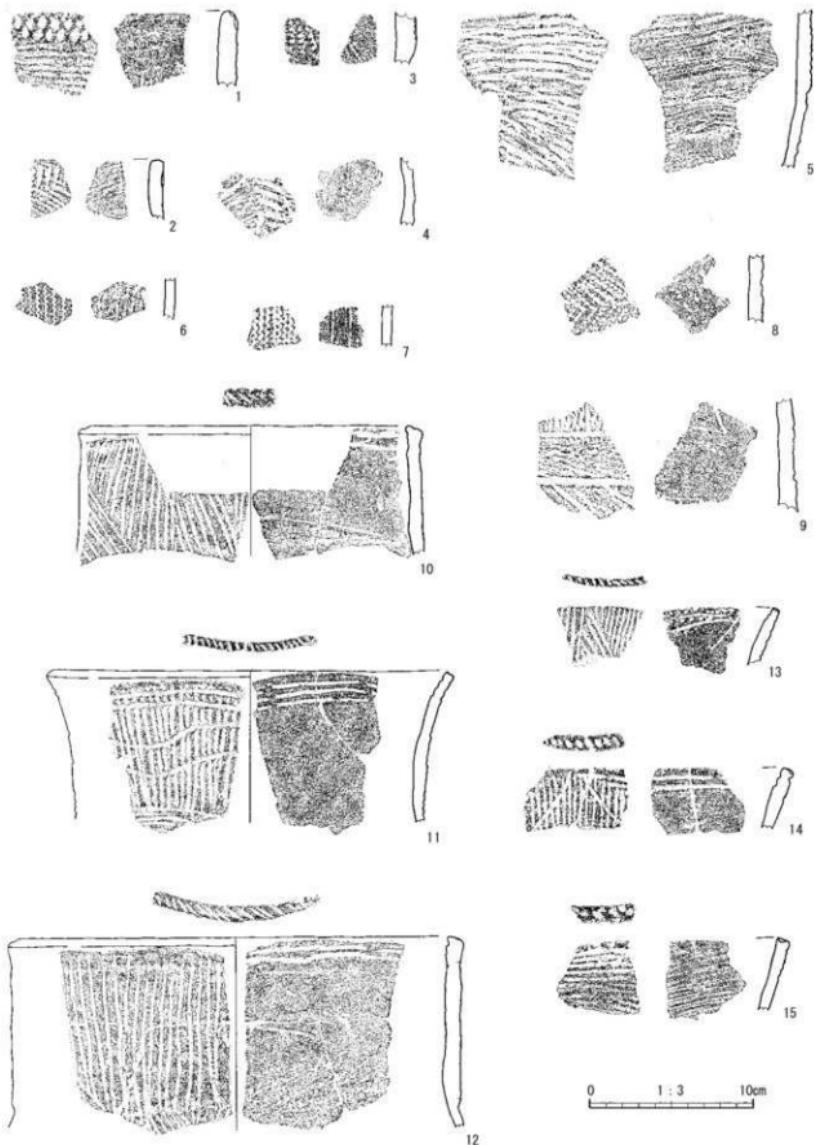
54~55は無文である。56~60は、押引文を施す。押引文は、間隔が狭く細かいものが多い。54・58は、波状口縁の波頂部である。

61~72・74は沈線文を施す。63・71は口唇部に押引文、61・62は口唇部に刺突文を施す。65は、沈線内刺突文と、口唇部に貝殻腹縁刺突文を施す。73・75~80・82は突帯文を施す。73・76・79は、貝殻押引文を突帯上に密接して施す。75・82は、突帯上に貝殻腹縁刺突文を施す。81のみ、口縁部から底部まで復元可能な個体である。口縁部に浅い刺突文を2列に施す。器形が歪んでおり、胴部が片側に膨らむ。

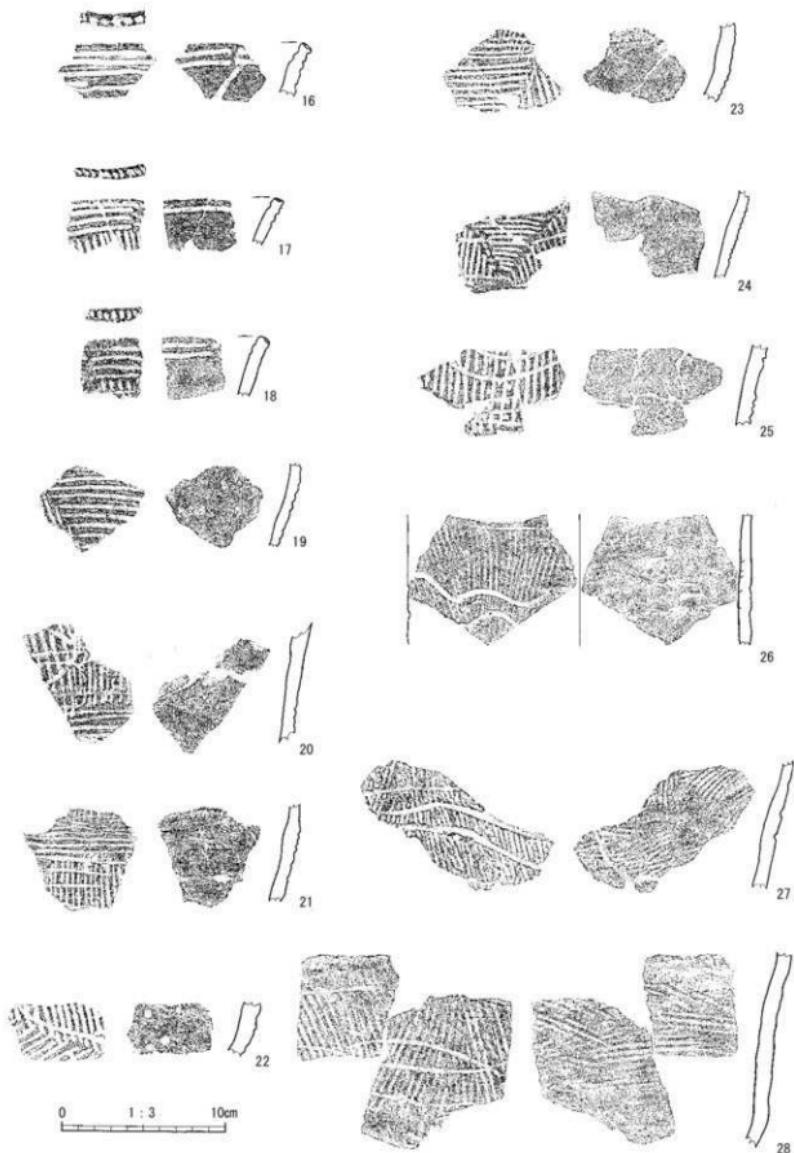
9-c類 (第30~36図84~118)

口縁部が直行・外反するもの。

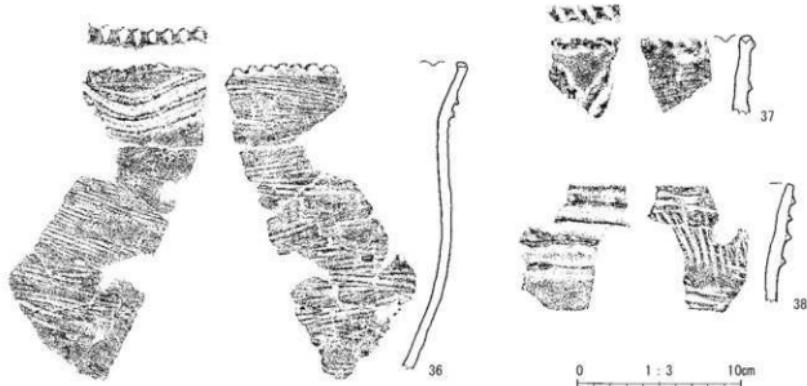
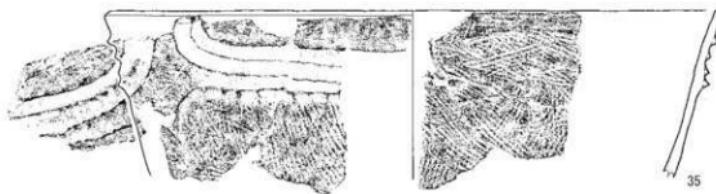
84~86~89は沈線文を施す。86~88は、沈線に沿って刺突文を施す。85は、口縁部と口唇部に刺突文を施す。90~100・117は無文である。101~116・118は突帯文を施す。101は、横位に1本の突帯を貼り付け、突帯上に貝殻腹縁刺突文を施す。102は、口縁部と口唇部に深く細かな押引文を施す。104は、2本の突帯上に棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。105は、1本の突帯上に貝殻腹縁による押引文を施す。106は、横位に突帯を1本貼り付け、2本の突帯を縦位に貼り付ける。口唇部と横位の突帯上に、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。107は、2本の波状の突帯上に、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を深く施す。110は、波状の突帯上に、棒状もしくはヘラ状工具によ



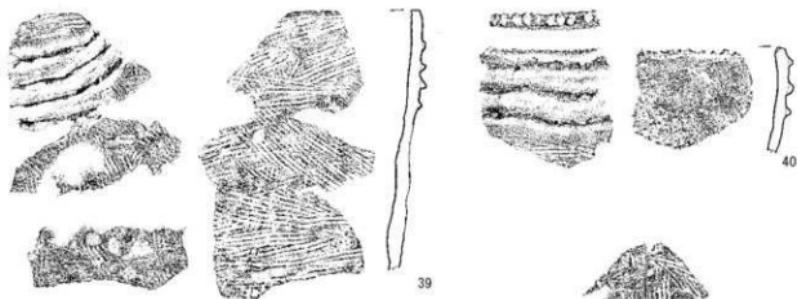
第22図 1～5類土器



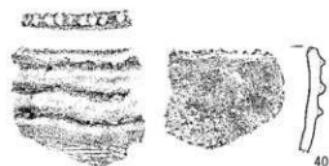
第23図 5類土器



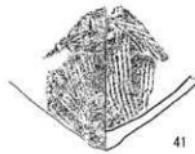
第24図 5～7類土器



39



40

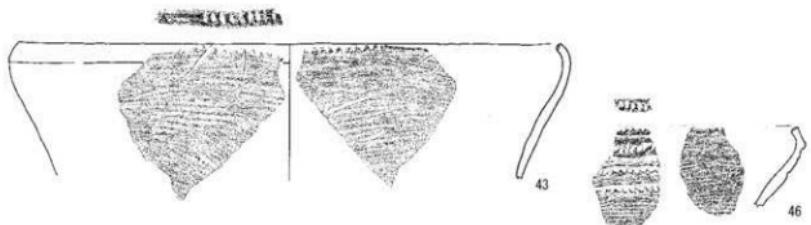


41



42

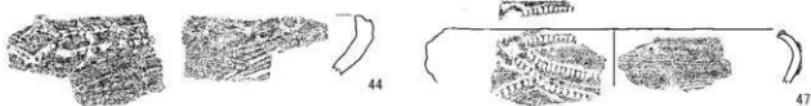
0 1 : 3 10cm



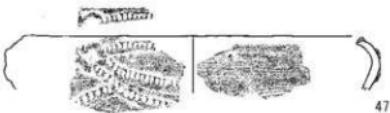
43



46



44



47

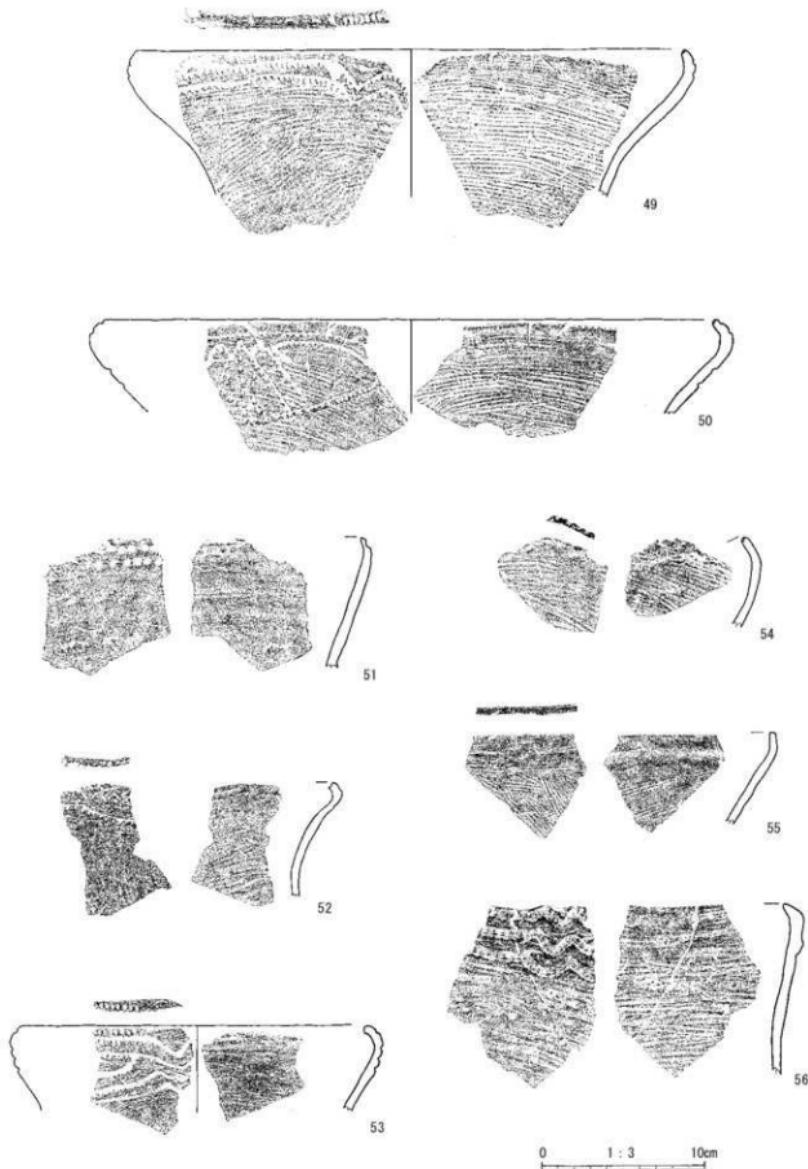


45

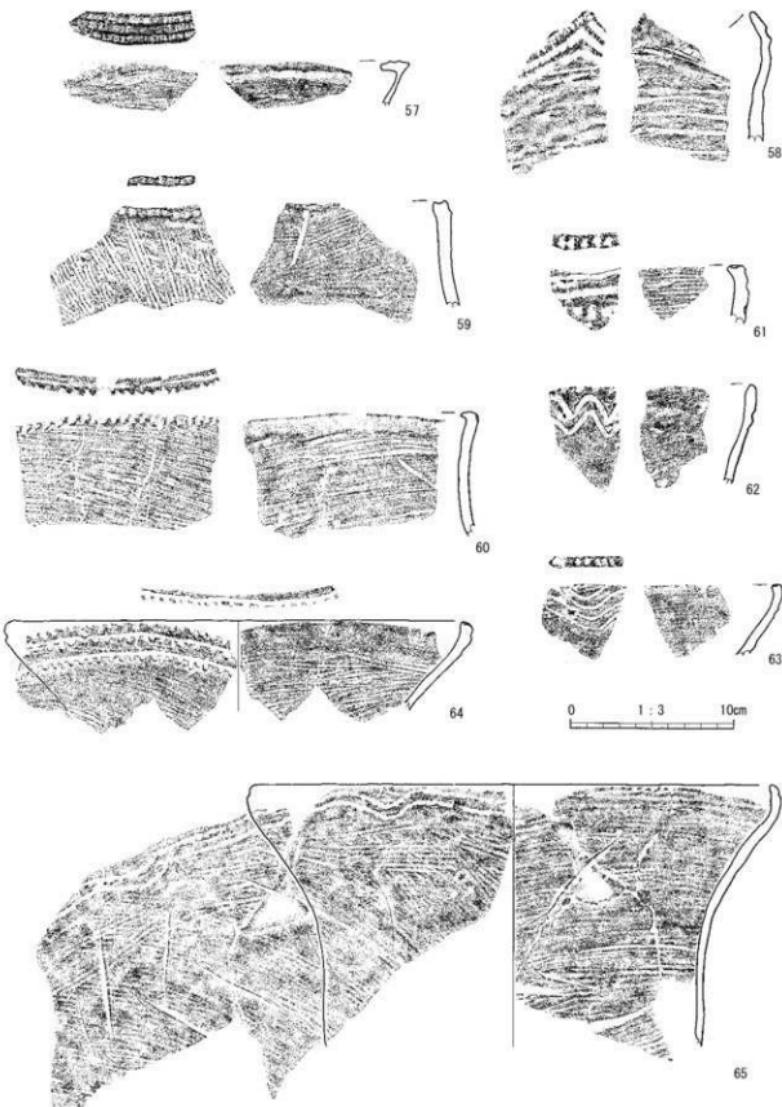


48

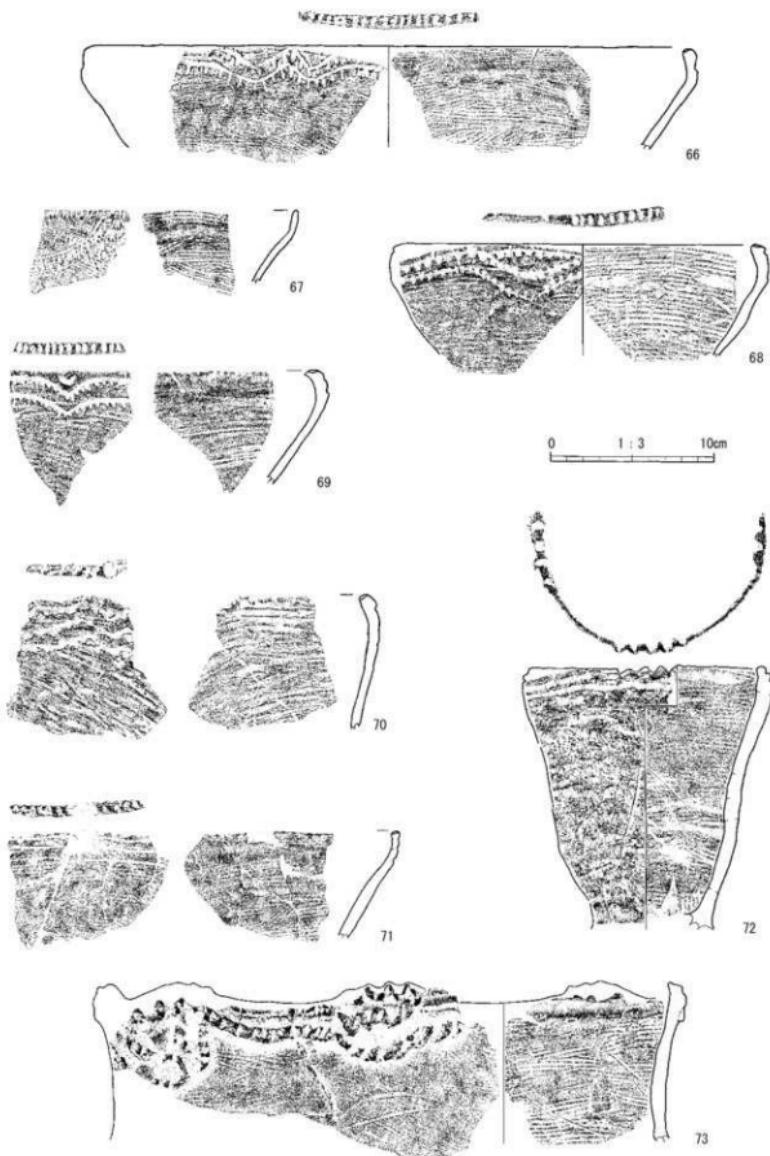
第25図 7～9類土器



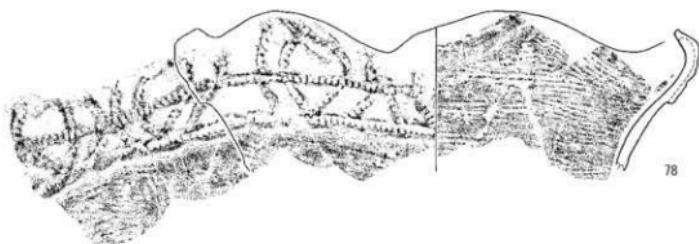
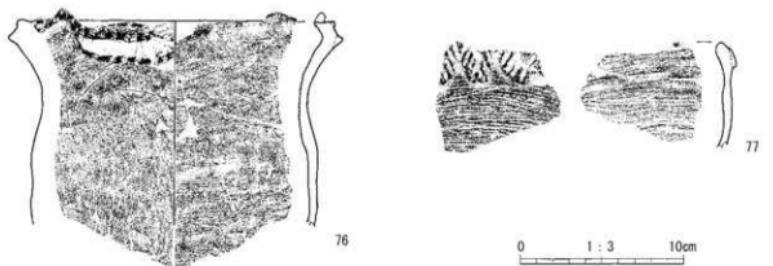
第26図 9類土器



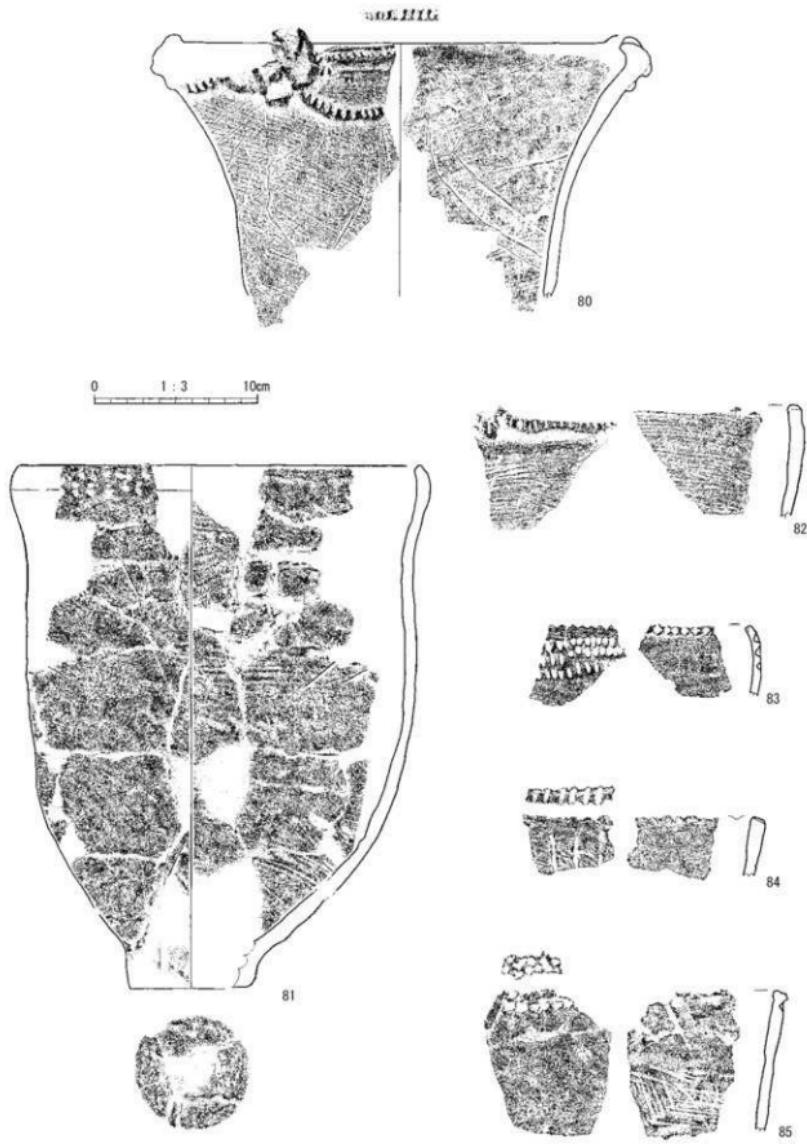
第27図 9類土器



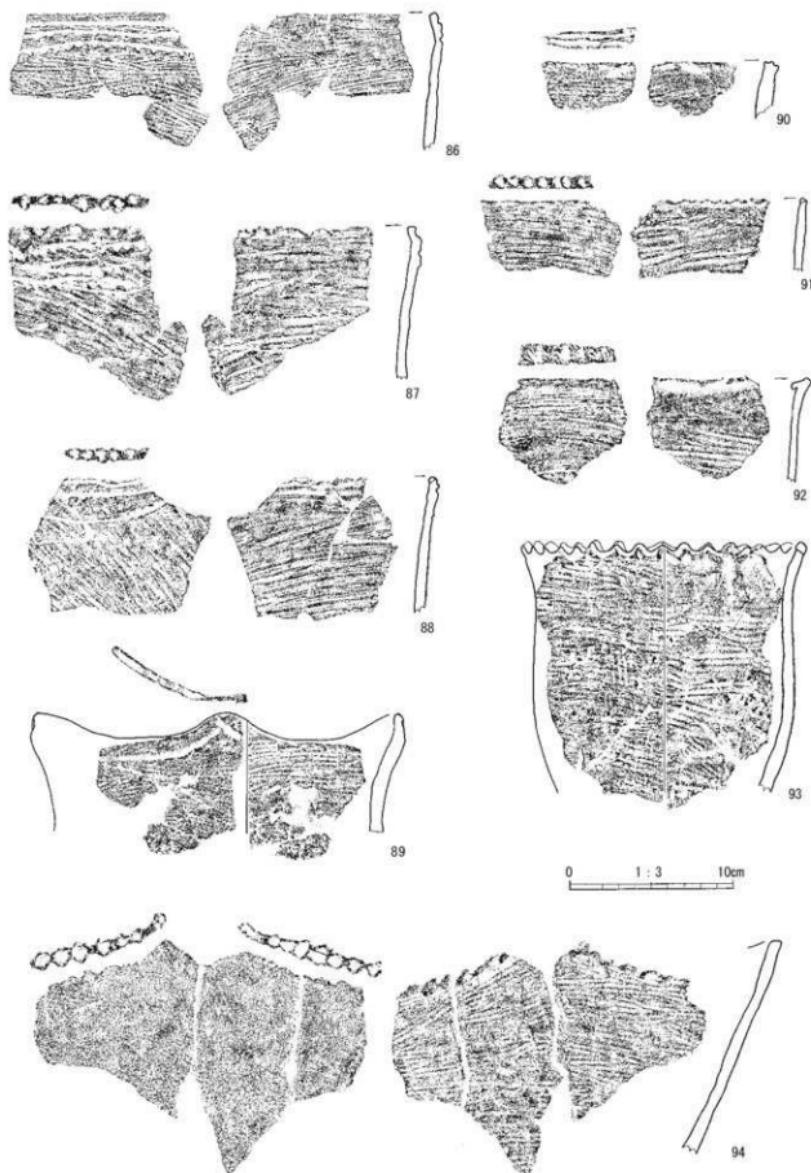
第28図 9類土器



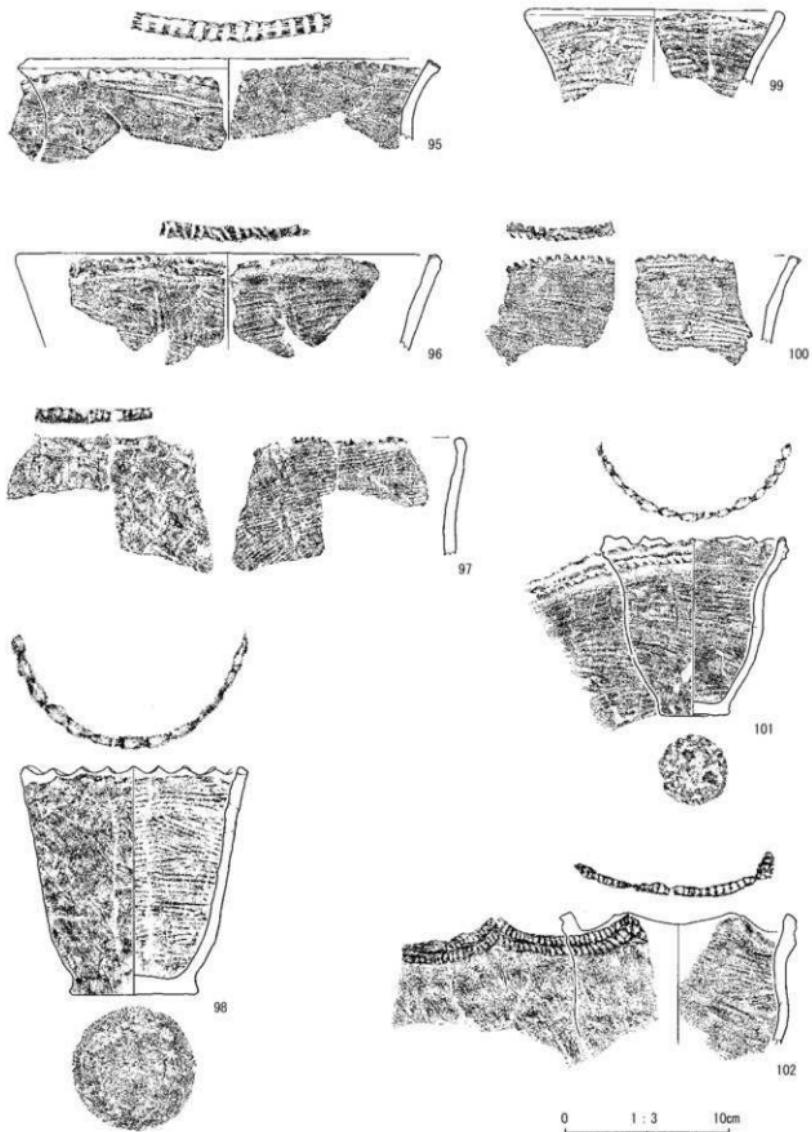
第29図 9類土器



第30図 9類土器



第31図 9類土器

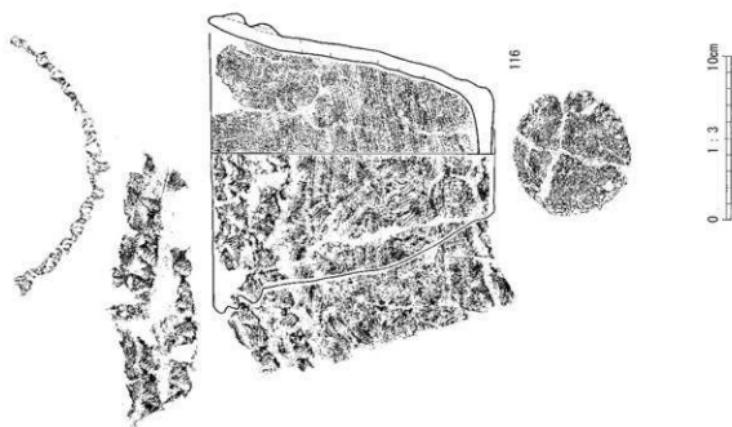
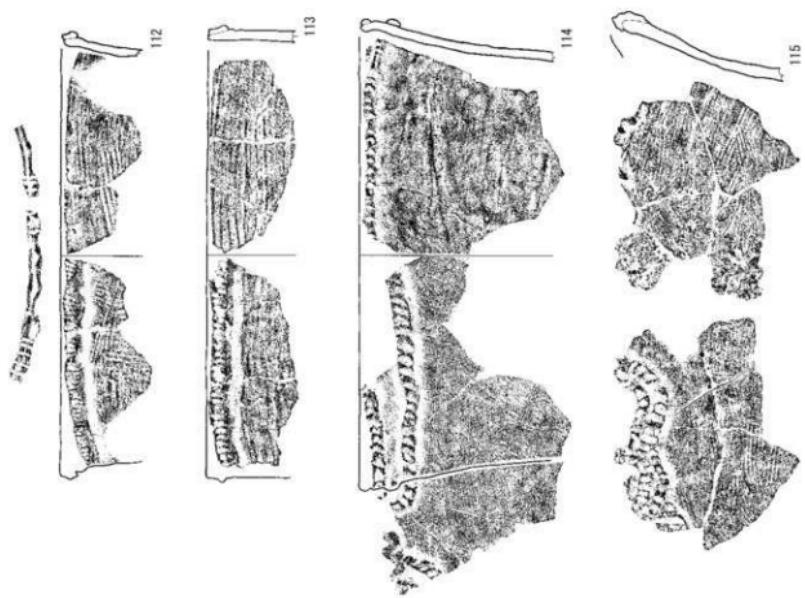


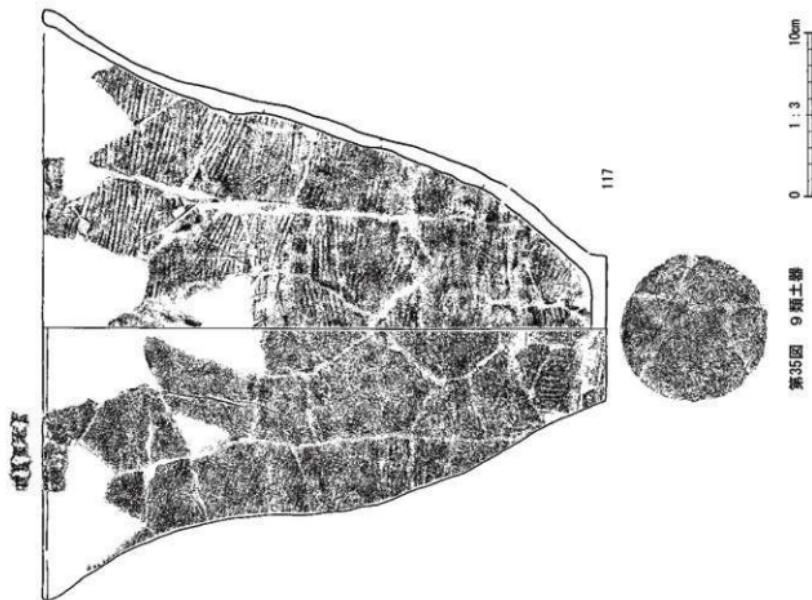
第32図 9類土器



第33図 9類土器

第34図 9類土器





第35図 9類土器

る刺突文を浅く施す。111は、1本の突带上に、貝殻押引文を施す。112は、1本の突带上に、貝殻押引文を施し、口唇部には貝殻腹縁刺突文を施す。113は、1本の突带上に貝殻押引文を施す。111～113は、同一個体の可能性が高い。114は、不規則な突帶を2列で横位に貼り付けており、突带上に棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。口唇部には、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。115は、波状に貼り付けた突带上に、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。

c類は、93・98・101・118のように、細かな波状口縁を呈するものが多い。94・117は、胎土や色調から同一個体の可能性が高い。94は、波状口縁の波頂部のため、117も波状口縁を呈する可能性が高い。98は、外面全体にナデ調整を施しているのに対し、内面は貝殻条痕が明瞭に確認できる。

116は、突带上に貝殻を押引状に施す。突帶は基本的に横位に貼り付けられているが、口唇部に向かって波状に持ち上がる箇所や、縦位に貼り付けられた突帶も確認できる。口唇部にも、貝殻腹縁押引文を施す。118は、大きさに対して器壁が薄く、滑石を胎土に含む。2本の沈線を横位に施し、沈線に沿うように棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。

10類土器 (第37~44図119~163)

口縁部に、沈線で幾何学的文様を描く文様帶を有し、口縁部下位に屈曲する段が付くことを特徴とする。374点確認した(番号取上分)、45点図示した。

器面調整は、貝殻条痕後にナデ調整を施すものが多い。特に口縁部は、丁寧なナデ調整を施した後に施文を行っている。

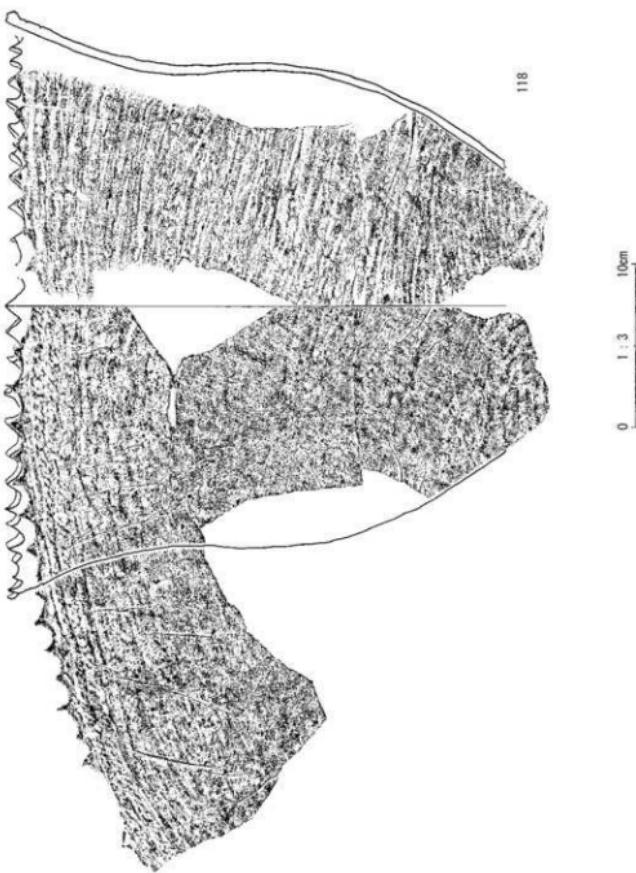
口縁部形態から4類に大別した。

10-a類 (第37~40図119~129)

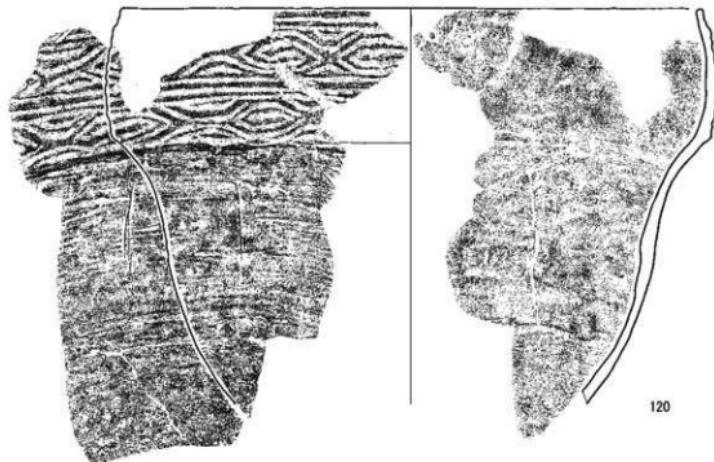
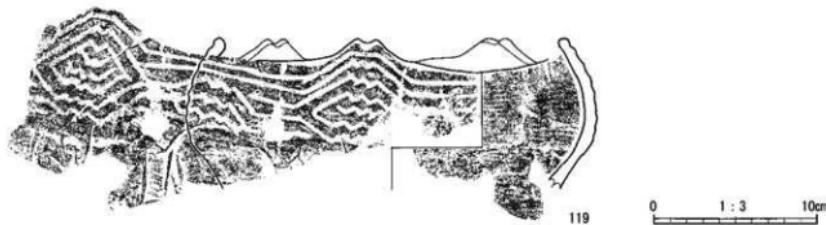
口縁部が内溝するもの。鋸齒文を多用するものが多く、沈線文が密接して施される。

119は、5つの波頂部をもつ波状口縁を呈し、波頂部は2つの突起をもつ形状である。120は、沈線文内で部分的に押引文を施文している箇所がある。121は、鋸齒文の箇所のみ器面に対して斜めから棒状工具で施文している。屈曲せずにだらかに胴部へ至る。122は、口縁部の屈曲がかなり発達しており、せり出す形態である。一見すると、沈線による施文の印象を受けるが、浅く細かな押引文を沈線状に巡らせている。内外面ともに、貝殻条痕の後にナデ調整を基本的に施している。口縁部は、部分的に煤が付着している。

121・122は、胴部に比べて口縁部を肥厚させている。128は浅い押引文を巡らせる。



第36圖 9號土器



第37図 10類土器

10-b類（第40~42図130~144）

段が明瞭で、口縁が内傾・直行・外傾するもの。文様間隔が少し広く、文様帶の無文箇所が目立つ。

131・135・136・143・144は、押引文を施す。130・131・133・134のように、口縁に対して文様を垂直方向に施すものが多く確認できる。沈線を浅く施すものが目立つ。132・140は、貝殻腹縫による条線文を施す。141は、二叉状工具による沈線文を施す。142は無文である。

10-c類（第43図145~151）

段が不明瞭なもの。

145・146・148・149は、沈線が口縁に対して垂直方向に施される。145・148のように、文様帶が広くなるものがある。149は、残存部位の形状から、口縁部が内湾するものである可能性が高い。150は、浅く細かい押引文を施す。

10-d類（第43~44図152~163）

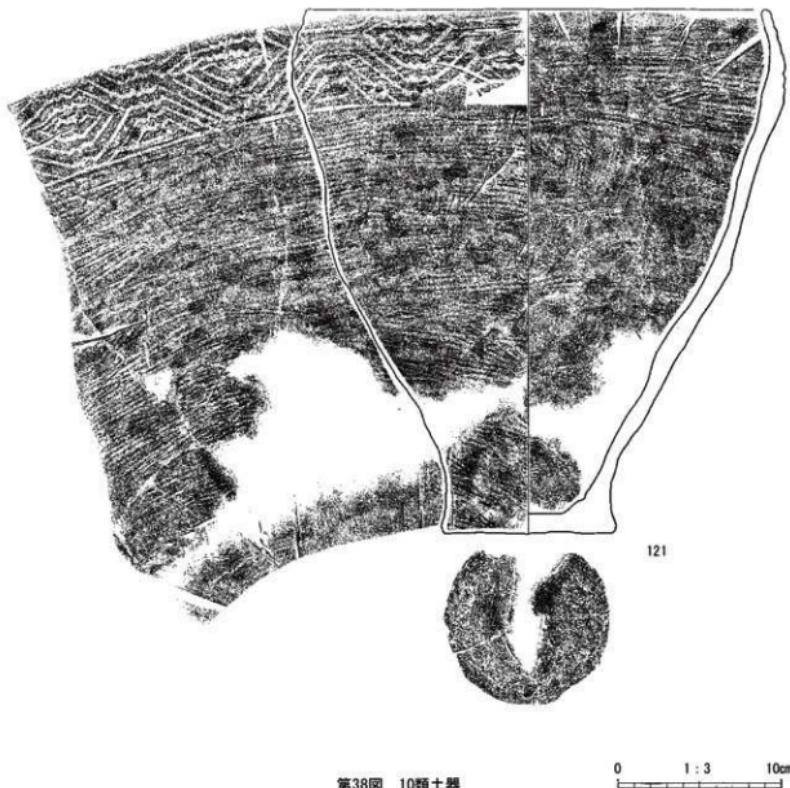
段の有無・形状が不明の口縁部を一括した。他類に比べて、施文が不規則なものも多い。

152は、口唇部に瘤状の浅い突起が付く。153は、幅の揃った細かい沈線がみられるため、櫛状工具で施文したと考えられる。154・161は、押引文を施す。155は、二叉状工具による沈線文を施す。156は波状口縁の波頂部と考えられる。156・160は、他のものと比べて幅広の工具で浅く施される。157・160・162のように、他類と比べて薄い作りのものが目立つ。

11類土器（第44~45図164~188）

指先や幅広の工具などを押し当てた凹線を描くことを特徴とする。155点確認し（番号取上分）、25点確認した。

口縁部は、直行・外傾・外反する。176は波状口縁を呈する。多くは地文の貝殻条痕が明瞭に確認できる。内面調整後に外面を施文しているため、164・165・174の凹点の部位では、内面が少し浮き出ている。より幅の狭い166・167の



第38図 10類土器

のような凹点では、内面に浮き出るものはみられない。177のみ、口縁部上位に貝殻腹縫刺突文が確認できる。178は、口縁部が緩やかに湾曲する形状を呈するため、波状口縁の可能性もある。184は、凹線内に凹点文が施される。その残存形態から、円盤状土器製加工品の可能性がある。

12類土器（第46～51図189～239）

口縁部から胴部にかけて、沈線文や細形凹線文を用いて、直線と曲線を主体とした文様を描くことを特徴とする。522点確認し（番号取上分）、51点図示した。

口径の大きな個体が多い。口縁部形態は、内済するものから外反するものまで存在する。口縁部や口唇部に、密接して刺突文を施すものも多い。平口縁を呈するものが多いが、なだらかな波状口縁を呈するものもある。そして、波頂部の口唇部に刻みを施すことが多い。

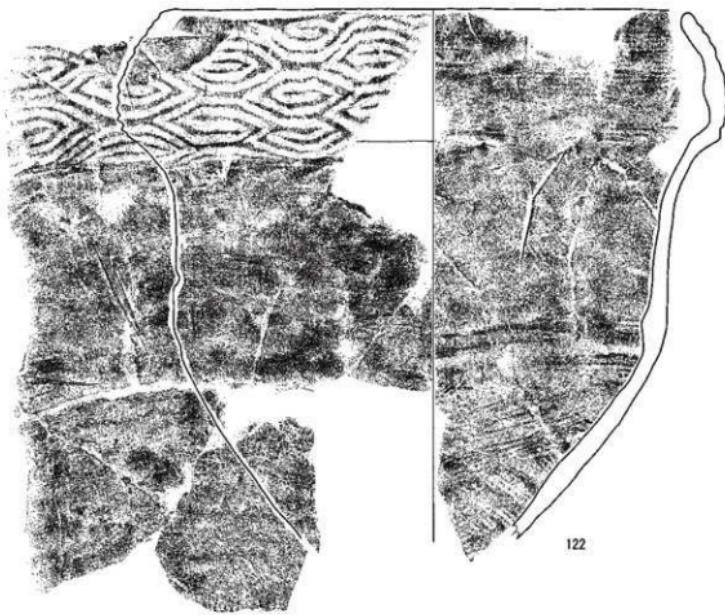
胎土に金色の雲母を含むものがある。

器面調整は、194・201のように、貝殻条痕を確認できるものがあるものの、大半にはナゲ調整を施す。

199は、肥厚した口縁部に凹点文を施した後に、板状の粘土を上から貼り付け、さらに凹線を施している。203は、口縁部がかなり肥厚する。205は、丁寧なナゲ調整を施す。外面は黒色を呈するが、内面と胎土は赤褐色を呈し、色調差が大きい。217・218は、胎土や文様などから、同一個体である可能性が高い。ともに凹線文を施文後、凹線文間に貝殻腹縫刺突文を施しており、いわゆる擬似縄文である。228も、凹線文間に貝殻腹縫刺突文を施す。

13類土器（第52～53図240～256）

口縁部が断面三角形あるいは、「く」の字形を呈することを特徴とする。29点確認し（番号取上分）、17点図示した。



第39図 10類土器

0 1 : 3 10cm

ナデ調整後に施文されているものが大半を占めており、赤みがかった褐色を呈するものが目立つ。

241・252・256は、波状口縁の頂部である。241は、器壁が厚く、内面に深い細形凹線文と刺突文を施している。244・249・250は、口唇部に押引文を施す。253は、口縁部に細かな押引文を3列に施す。248・256は、細形凹線文と貝殻腹縁刺突文を施す。252は、貝殻腹縁刺突文を2列でV字状に施す。254は、口唇部に複数の押引文を施す。255は無文である。

14類土器（第53図257～262）

貝殻腹縁刺突文を、1列あるいは2列で多重に施すことを特徴とする。6点確認し（番号取上分）、全て図示した。胎土に金色の雲母を含むものがある。

257は口縁端部で肥厚させ、その下部に斜位の貝殻腹縁刺突文を施す。260は、波状口縁の波頂部の可能性があり、斜位の貝殻腹縁刺突文を浅く施す。261のみ、刺突文の施文方向が変わる状態が確認できる。259は、若干押引状に刺突文を施す。

15類土器（第53～54図263～276）

回点文を横位に連続して施すことを特徴とする。11点確認し（番号取上分）、14点図示した。

確認できたものは全て口縁部で、口唇部でつまみ上げるように細くなるものと、肥厚したまま端部まで至るもの、肥厚せざる端部まで至るものがある。

263は、沈線を接するように細かく刺突文を施す。264は、口唇部に凹線を施す。265は、口唇部に凹線と刺突文を施す。266は、貝殻腹縁による刺突文をV字状に交差させ、口唇部には、貝殻を使用したと思われる細かな条痕が確認できる。267に施された刺突文は、中心部に表面が盛り上がる状態が確認できるため、竹管状のもので施文していることが分かる。268・276は、ともに横長の回点を施す。268は、口唇部が凹線のように若干凹む形状を呈している。

269は、沈線と浅い刺突文を施す。270は、棒状工具による刺突文を施し、貝殻腹縁による刺突文を沈線状に横位に連ねて施す。271は、半裁竹管状の工具で、押引くように回点を横位に施し、口唇部にも刺突文が確認できる。272は、口縁端部に凹線を、口唇部に細かな押引文を施す。273は、



123



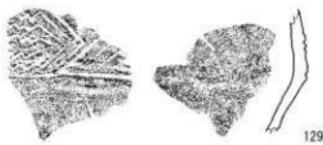
124



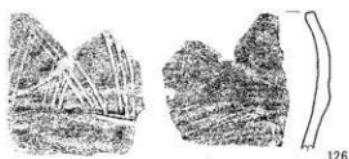
128



125



129



126



130



131



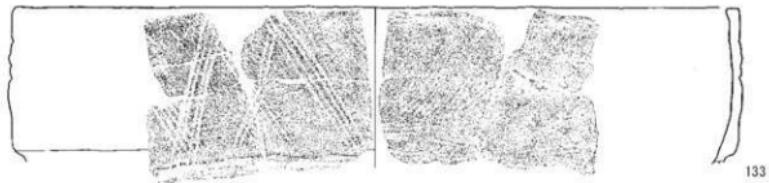
127



132

0 1 : 3 10cm

第40図 10類土器



133



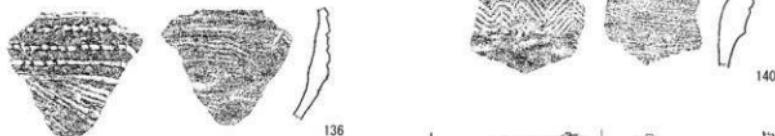
134

138



135

139



136

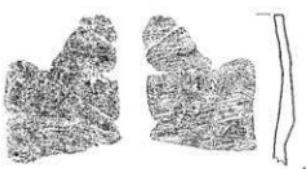
140



137

141

0 1 : 3 10cm



142

第41図 10類土器



第42図 10類土器

浅く押引文を2列に施す。274は、縦位の凹点を施し、口唇部内側にも浅い刻目を施す。275は、深い凹線文を施す。

16類土器（第54図277～291）

器壁が厚く、内外面ともにミガキもしくは丁寧なナデ調整を行ない、圓線文や沈線文を施すことを特徴とする。25点確認し（番号取上分）、15点図示した。

277・279・280・281のように、口縁部に1本の凹線を施すものが多いが、283のように口縁部が無文のものも確認できる。282のみ、沈線を施す。

285・288は、沈線を密接して施す底部である。289は底部で、外底面はミガキ調整やナデ調整は施されない。290は、口縁部の可能性がある。291は、屈曲して膨らむ箇所にススが付着している。

17類土器（第55図292～300）

縄文後期に属すると考えるが、11～16類に含まれないも

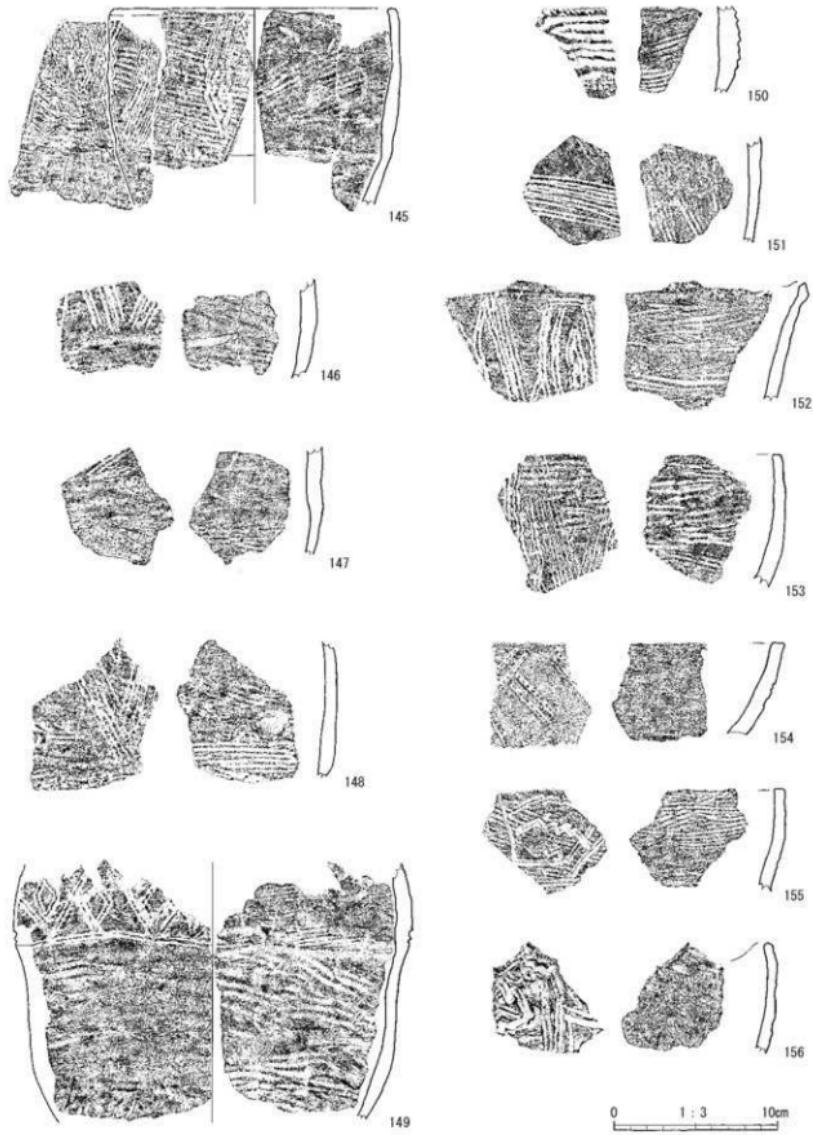
のを一括した。9点確認し（番号取上分）、全て図示した。

292は、口唇部が平坦に広がり、貝殻腹縁押引文を施す。293は、口唇部を抉るように深く凹線文を施す。294は、口唇部にヘラ状工具による回線と刻目を施す。296は、波状口縁の波頂部であり、円形に貼り付けた突堤の中心部が埋む形状となる。297は、口縁部に沈線を、口唇部に刺突文を施す。298は、肥厚する口縁上部に凹点を、口唇部に幅の広い刻目を施す。299・300は、口縁部に沈線を施す。

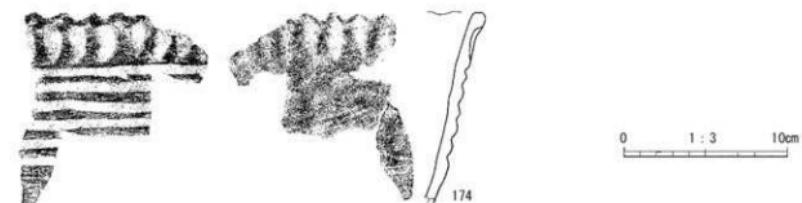
18類土器（第55図301～305）

磨消繩文が確認できるもの。5点確認し（番号取上分）、全て図示した。

いずれも内面はナデ調整を施す。301・305は、地文の繩文のみ確認できる。302は、横位の沈線の後に、斜位の沈線を施す。304は、浅い沈線が2本確認でき、2本目の沈線の下部は、繩文が磨り消され無文部となっている。

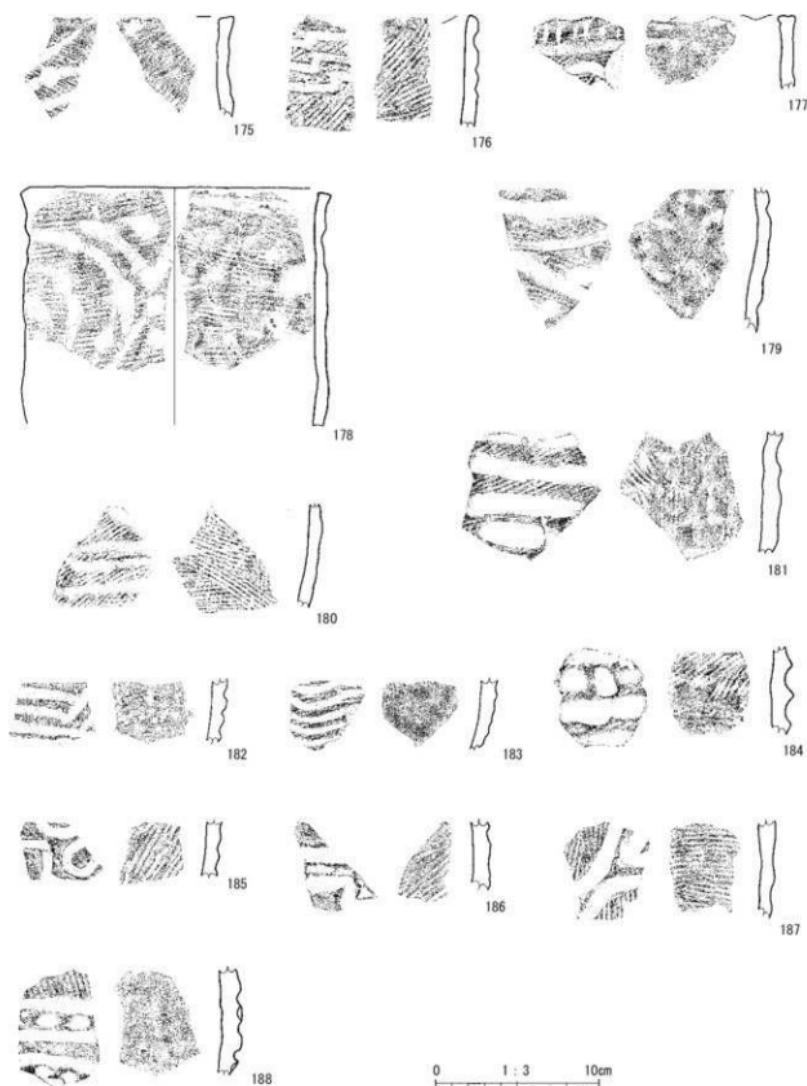


第43図 10類土器

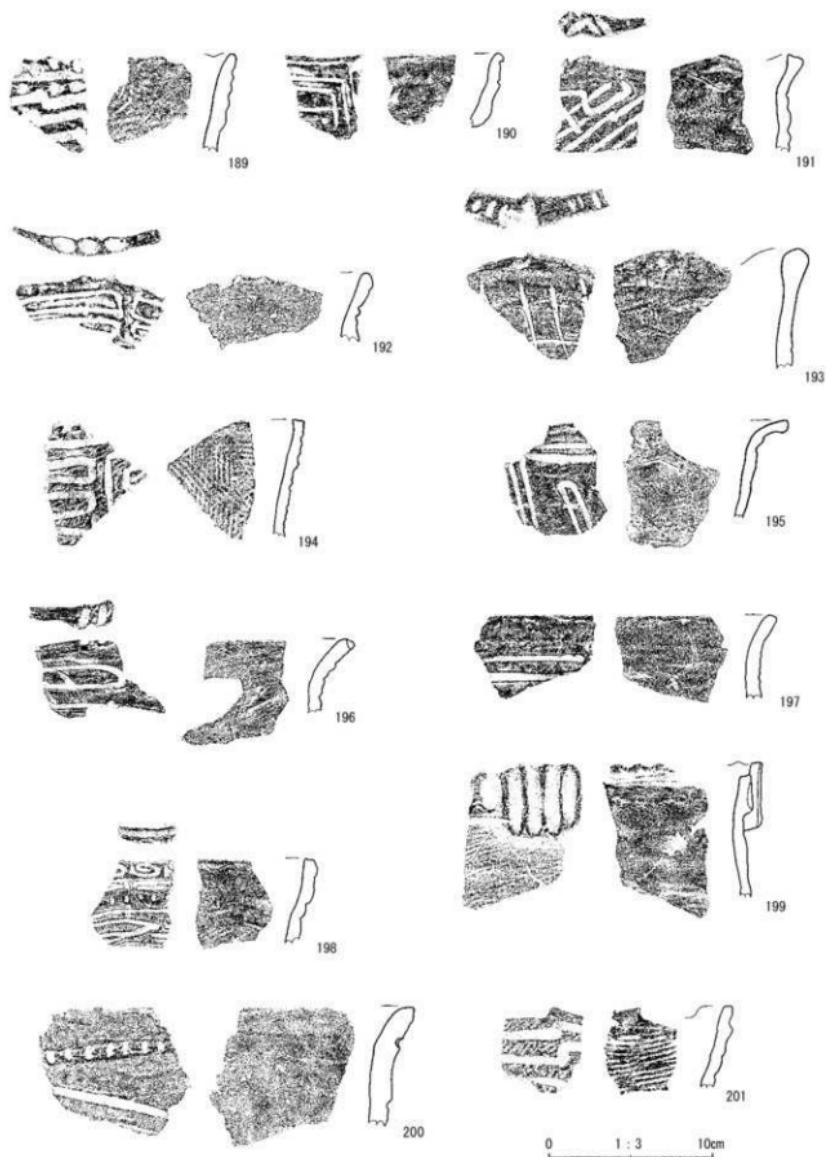


0 1 : 3 10cm

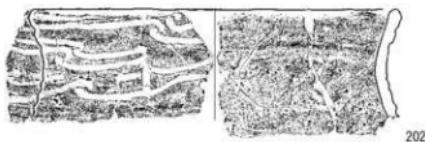
第44図 10~11類土器



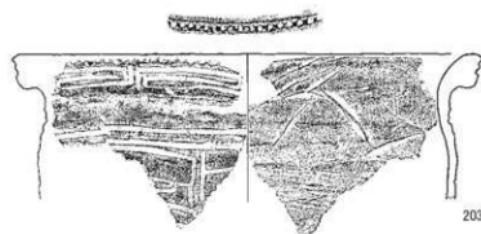
第45図 11類土器



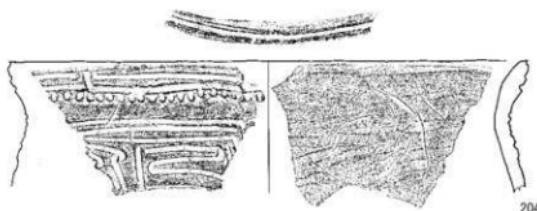
第46図 12類土器



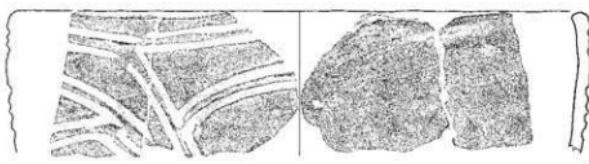
202



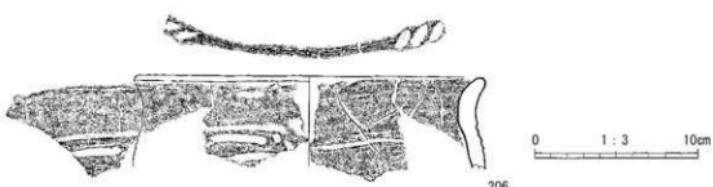
203



204



205



206

第47図 12類土器



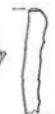
207



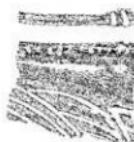
208



209



210



211



212

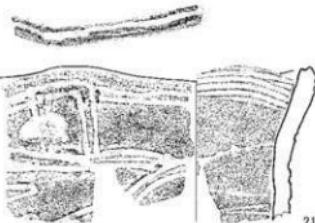


213

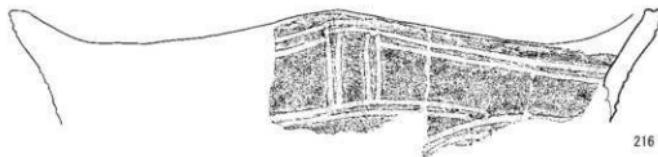
0 1 : 3 10cm



214

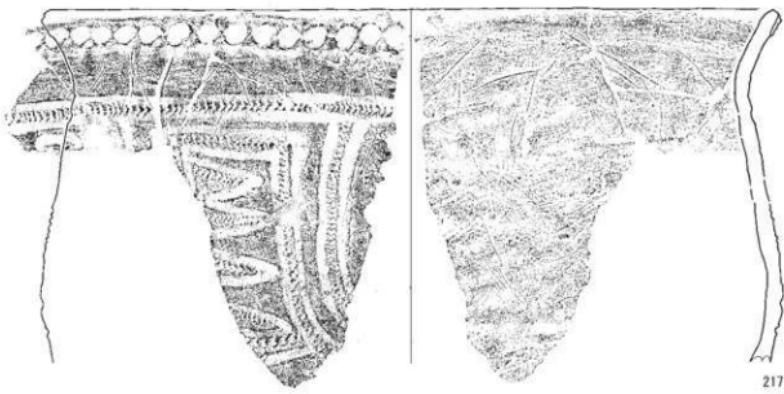


215

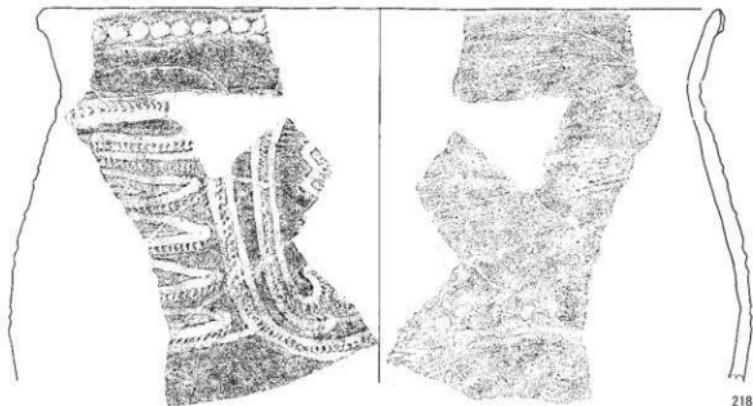


216

第48図 12類土器



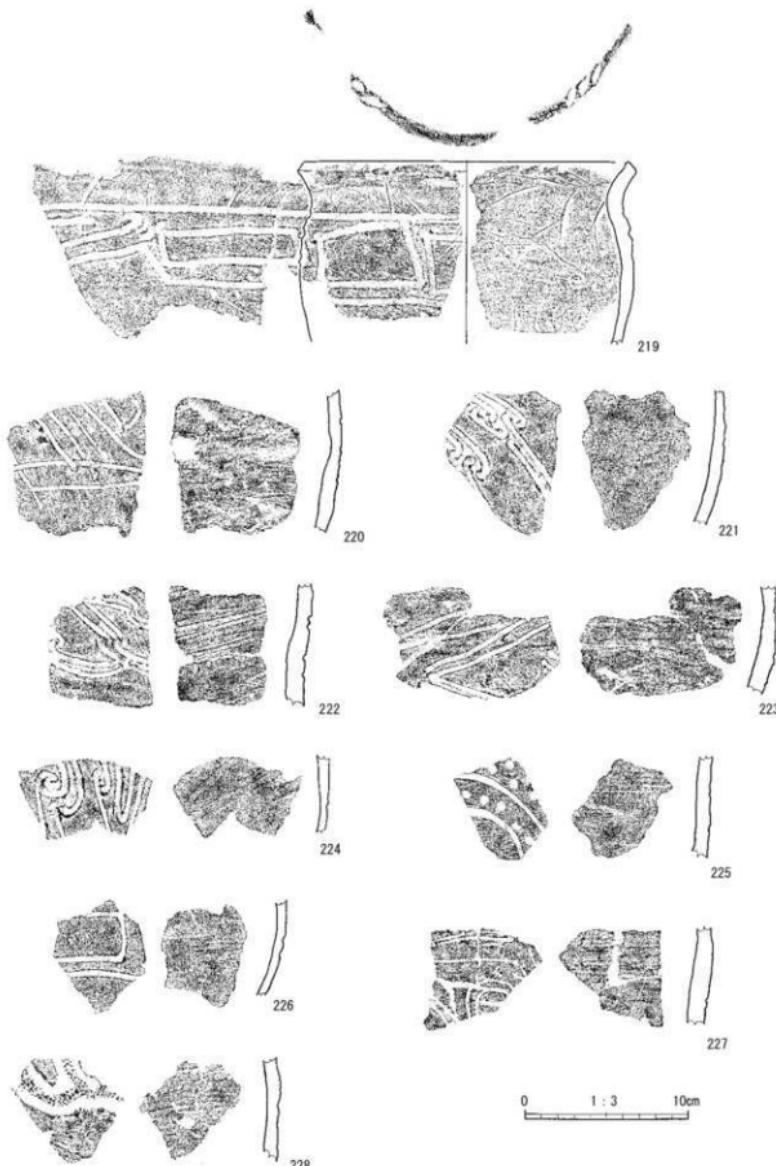
217



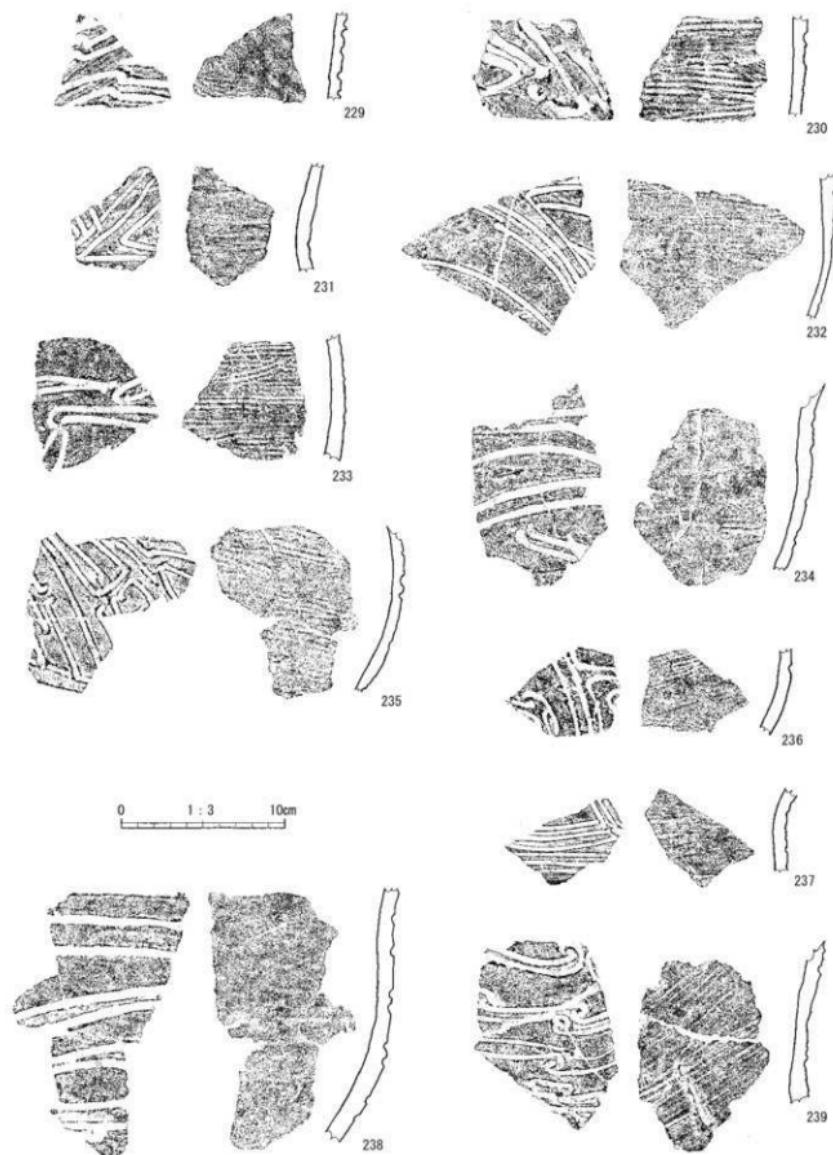
218

0 1 : 3 10cm

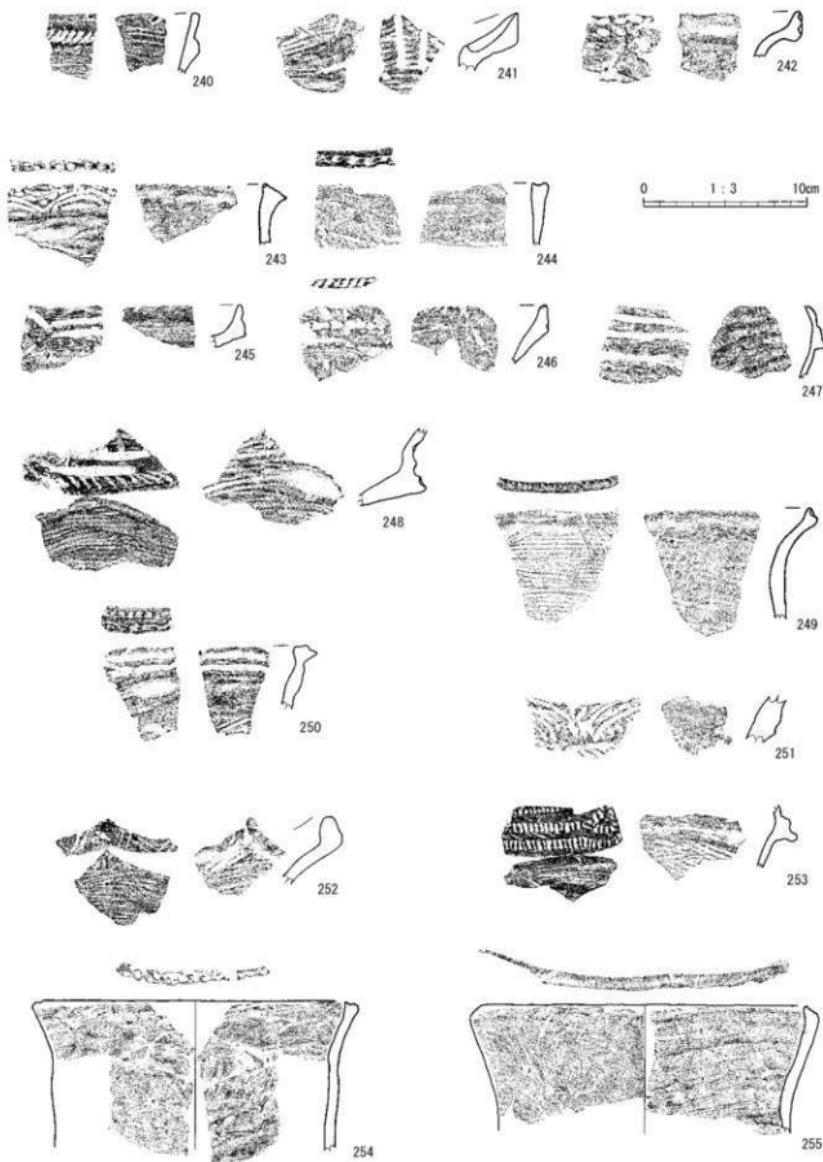
第49図 12類土器



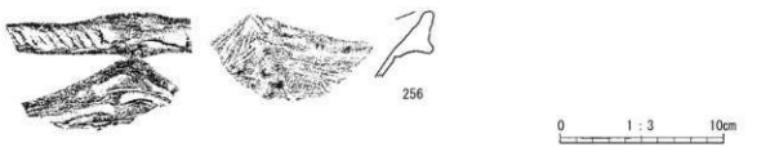
第50図 12類土器



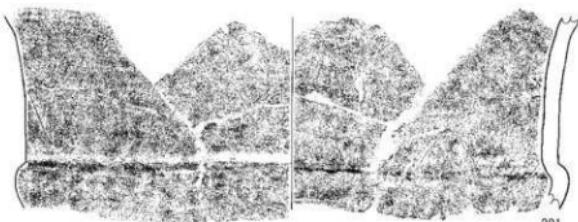
第51図 12類土器



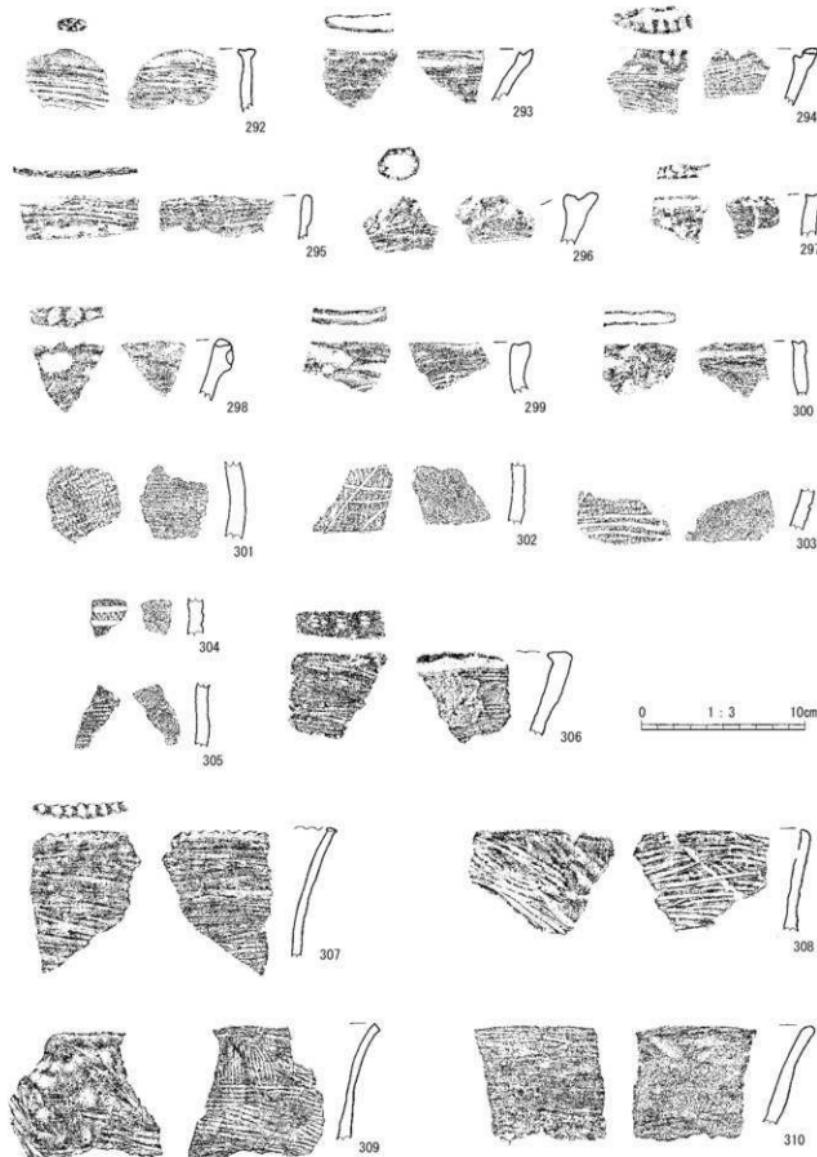
第52図 13類土器



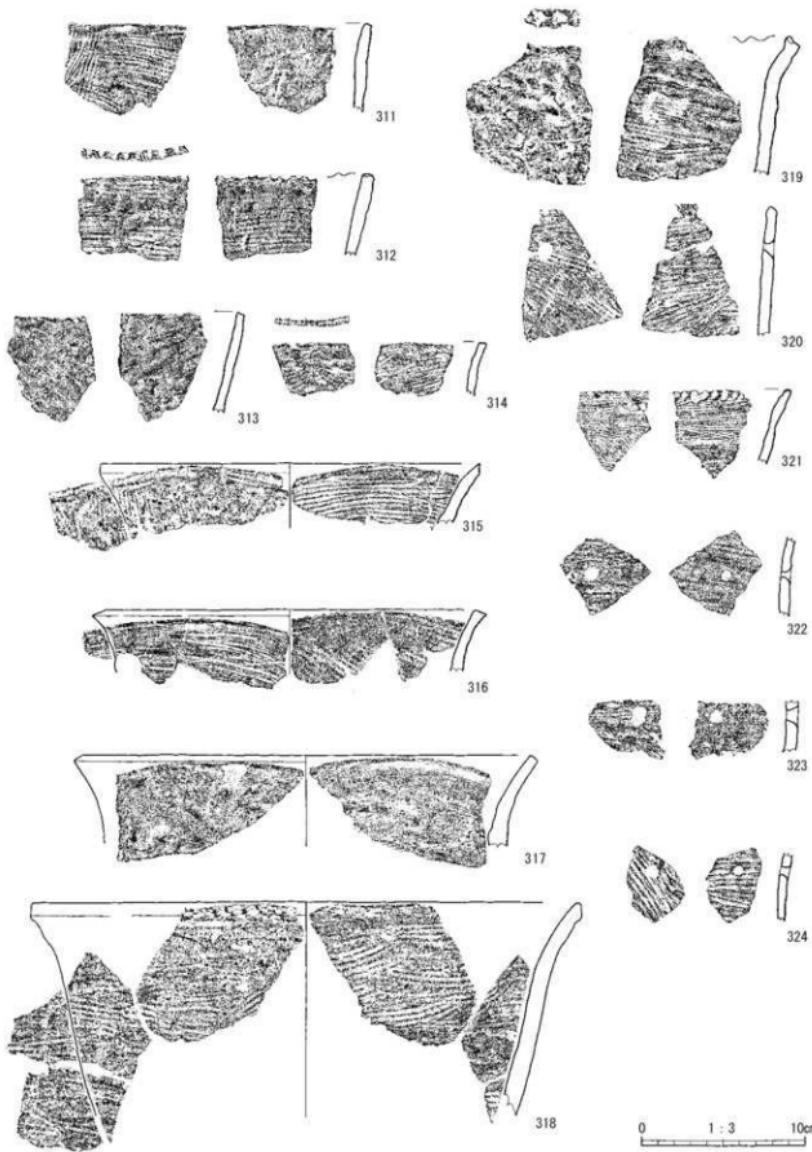
第53図 13~15類土器



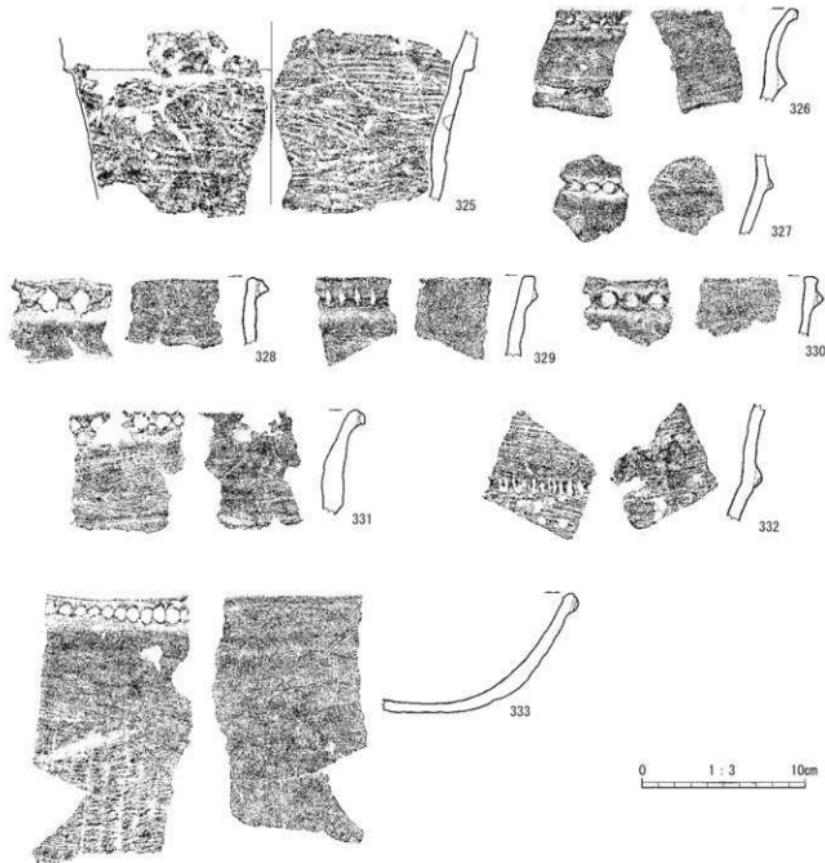
第54図 15~16類土器



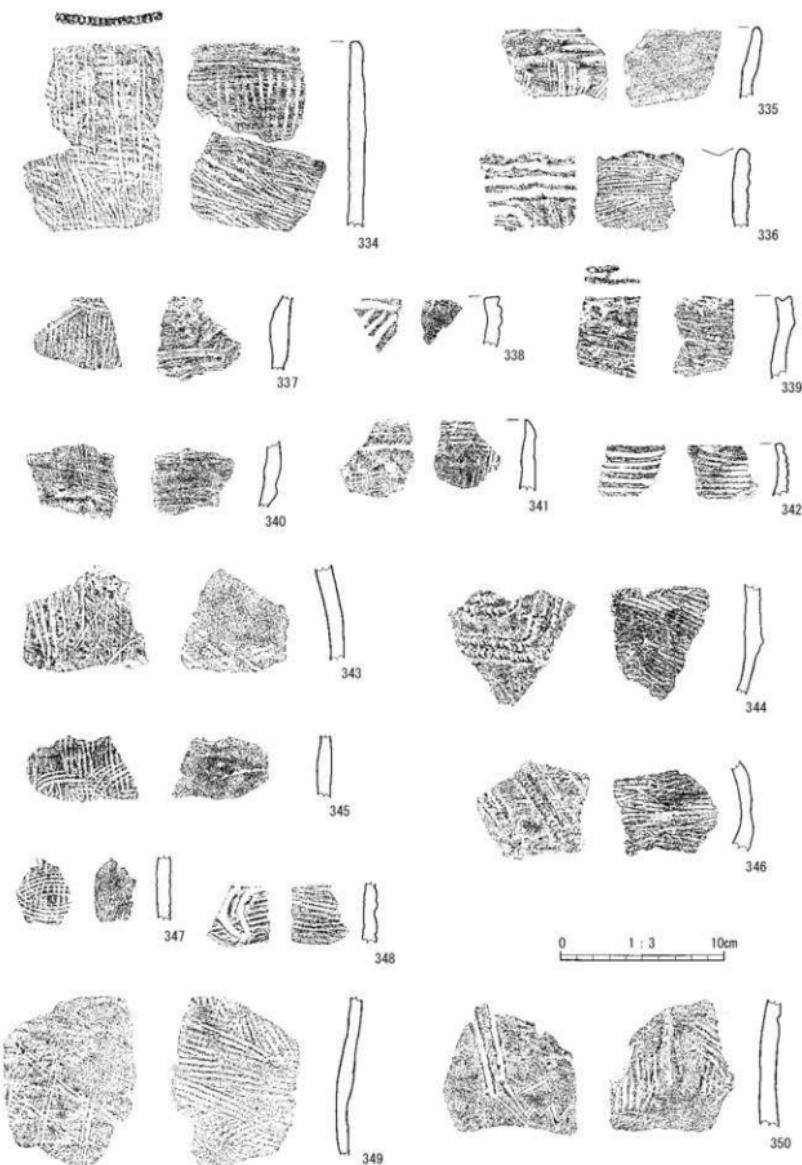
第55図 17~19類土器



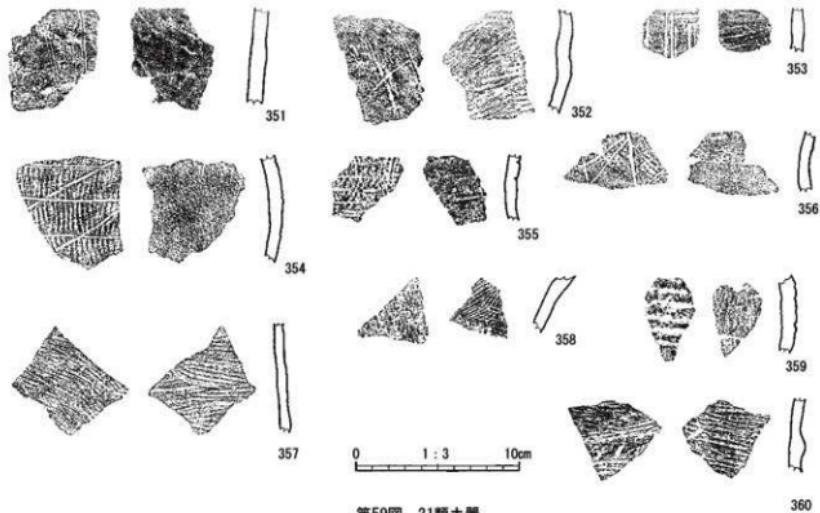
第56図 19類土器



第57図 19~20類土器



第58図 21類土器



第59図 21類土器

19類土器（第55～57図306～325）

縄文後期に位置付けられる、文様のない粗製土器を一括した。口縁部が外傾もしくは外反し、板状工具などでケズリもしくは擦るよう仕上げた後に、丁寧な調整を施さないことを特徴とする。120点確認し（番号取上分）、20点図示した。

306は、器壁が厚く口唇部が内側にせり出す形状で、口唇部にわずかに確認できる棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。307は、口唇部に棒状工具による押引文を施す。312は、口唇部に棒状もしくはヘラ状工具による刻目を施す。319は、口唇部に半裁竹管状の工具による刺突文を施す。

320・322・323・324は、補修孔が確認できる。直径は3～5mmを測る。

325は、外面に段が付くように肥厚する箇所が確認できる。また、穿孔途中の孔が確認できる。

20類土器（第57図326～333）

刻目を施した突帯をめぐらせることが特徴とする。突帯は、口縁部と胴部に施す。刻目は、指先もしくはヘラ状工具で施す。17点確認し（番号取上分）、8点図示した。

口縁部は、直行もしくは外反する形状で、刻目は突带上に密接して施す。突帯貼付後、丁寧なナデ調整を行うため、接合部は綺麗に消されている。

329・330は、口縁端部より下位に突帯が貼付される。

333は、口縁部から底部まで残存しており、底部には組織痕が確認できる。組織痕は、1cm幅のモジリ編みである。口径は復元できなかったが、残存状態から、口径は30cm以

上になると考えられる。

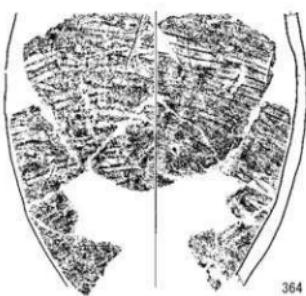
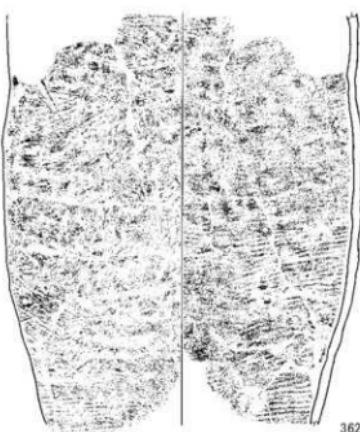
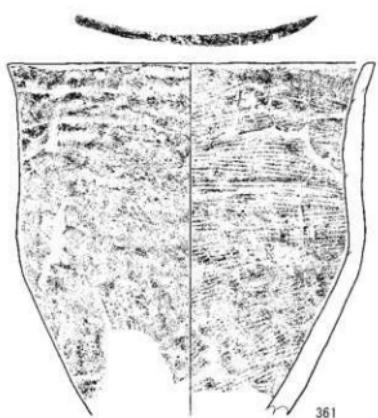
21類土器（第58～59図334～360）

沈線文などの特徴的な文様がみられるものの、1～20類に含まれないものを一括した。27点確認し（番号取上分）、全て図示した。

334は、直行する口縁部である。浅い沈線が縦位に施され、口縁部にススが付着している。350は、直線部位の沈線は深く施すことに対し、瓣齒状の部位は浅くなる。335は、横位の凹線と深い沈線を施す。336は、押引文と曲線を描く沈線を横位に施す。337は、内面に凹凸が確認でき、外面上には沈線とを考えられる施文がみられる。340は、櫛状の先端が細かいもので、表面を搔くように浅い沈線を施す。345・351も、沈線の施文手法は類似している。341は、口唇部に向かって摘み上げるように細くなり、口縁部下位に横位の沈線を施す。342は、内湾気味の口縁部に密接して沈線を施す。344・346は、押引文が器面より浮いていたため、浅い突帯を貼付してから、突帯を押し潰すように押引文を施した可能性が考えられる。349は、格子状の沈線を施す。352は、鋭い沈線を施す。354は、地文に縄文が施され、斜位の沈線の後に横位沈線を施している。船元式系の可能性がある。355は、かなり先端の細いもので刺突文を施している。360は、背の低い突帯上に貝殻腹縁刺突文を施す。

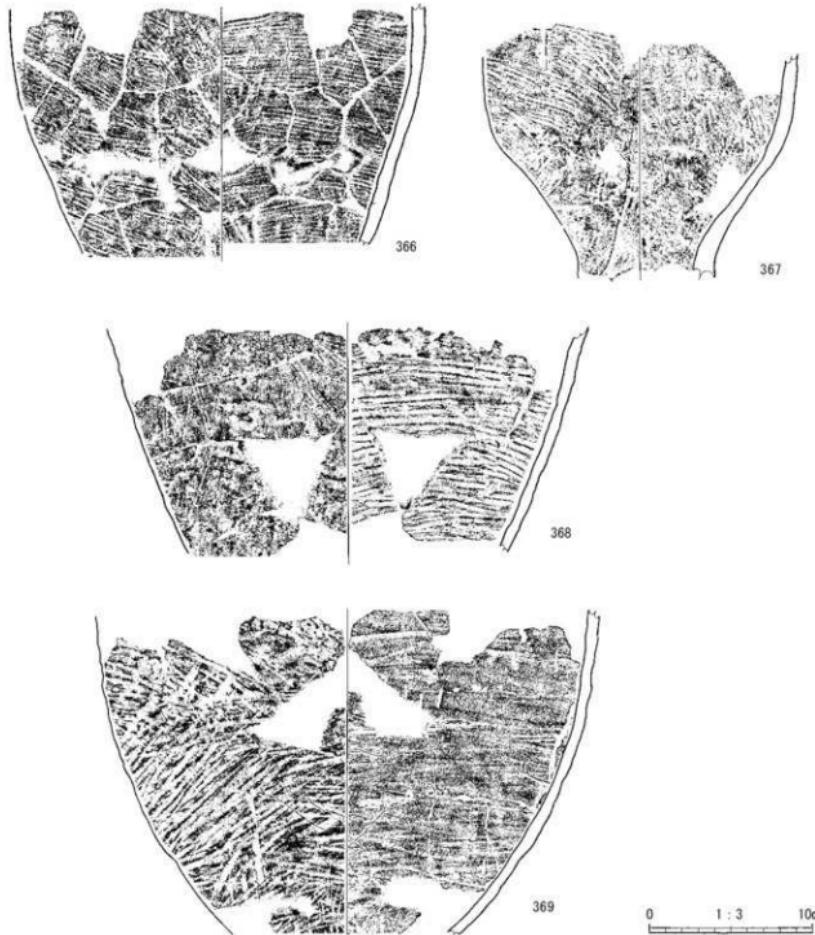
22類土器（第60～65図361～381）

口縁部から胴部、胴部から底部までがある程度復元できたものの、文様などが確認できず分類できなかった



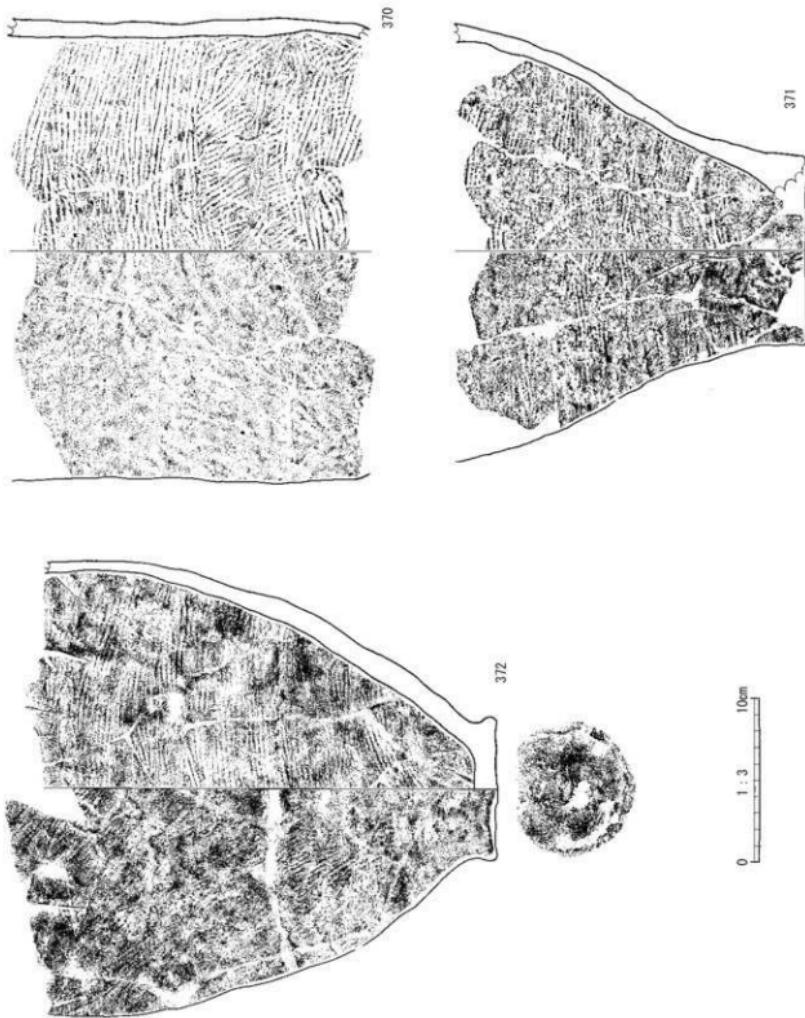
0 1 · 3 10cm

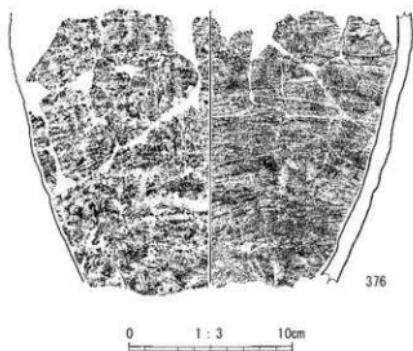
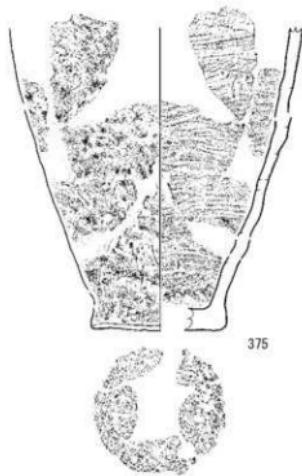
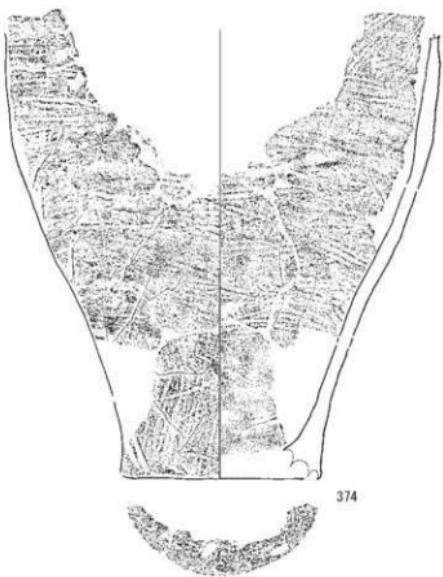
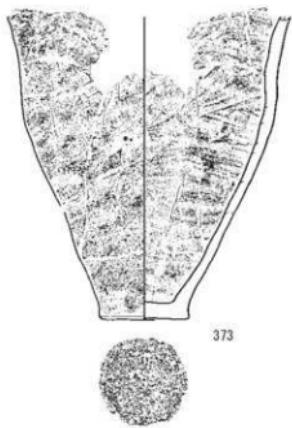
第60図 22類土器



第61図 22類土器

第62圖 22類土器





0 1 : 3 10cm

第63図 22類土器

第64図 22類土器

0 1 : 3 10cm

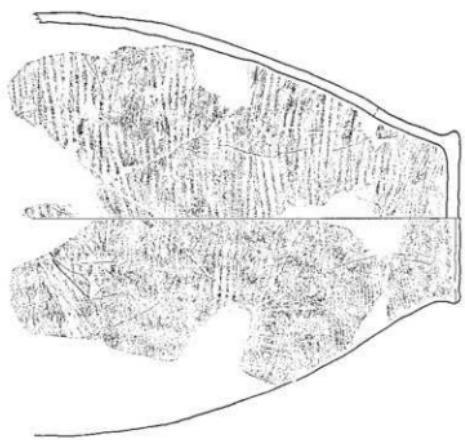
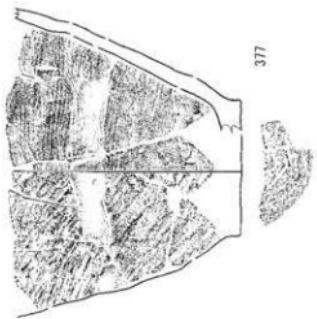
378



379



377



0 1 : 3 10cm

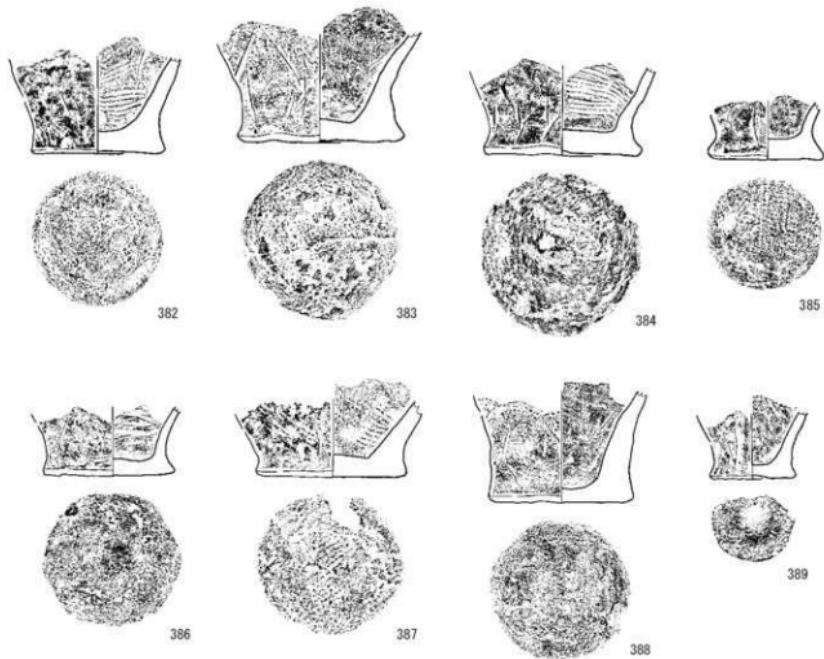
第65圖 22類土壤



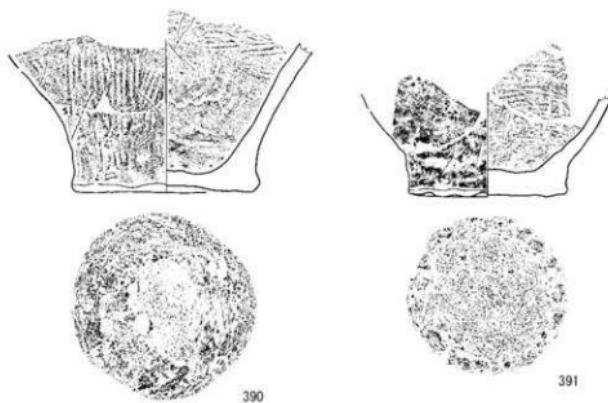
380

381

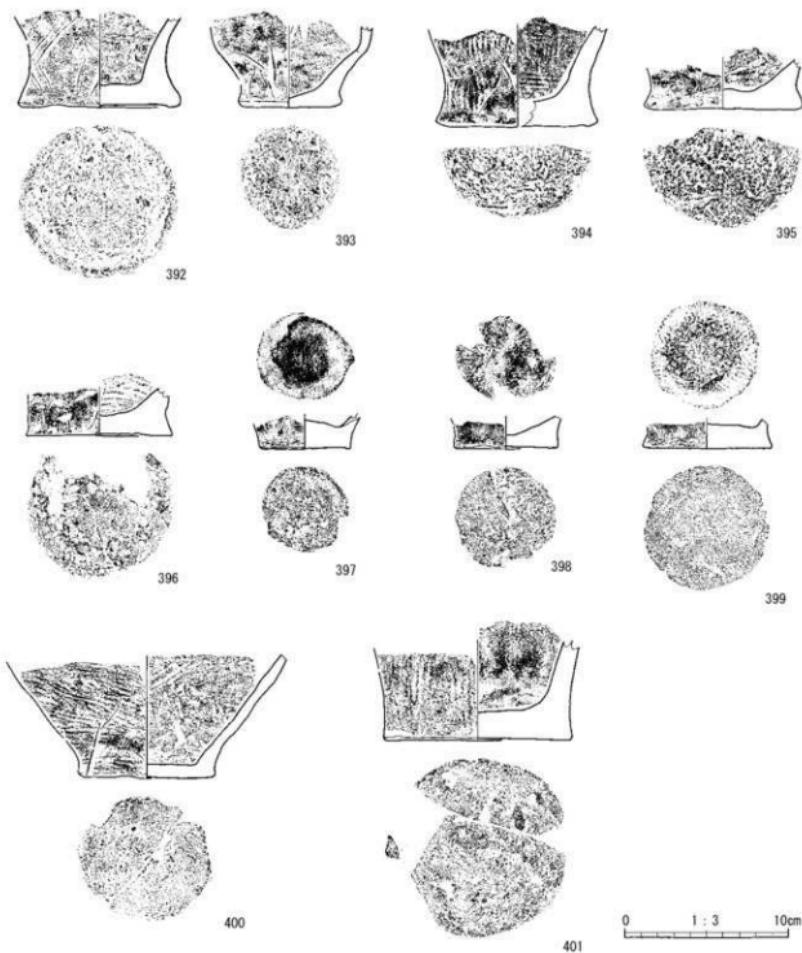




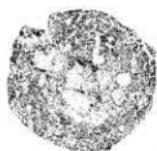
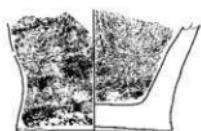
0 1 : 3 10cm



第66図 23類土器



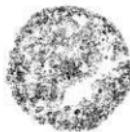
第67図 23類土器



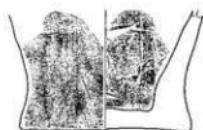
402



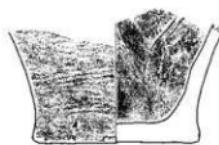
403



404



405



406



407



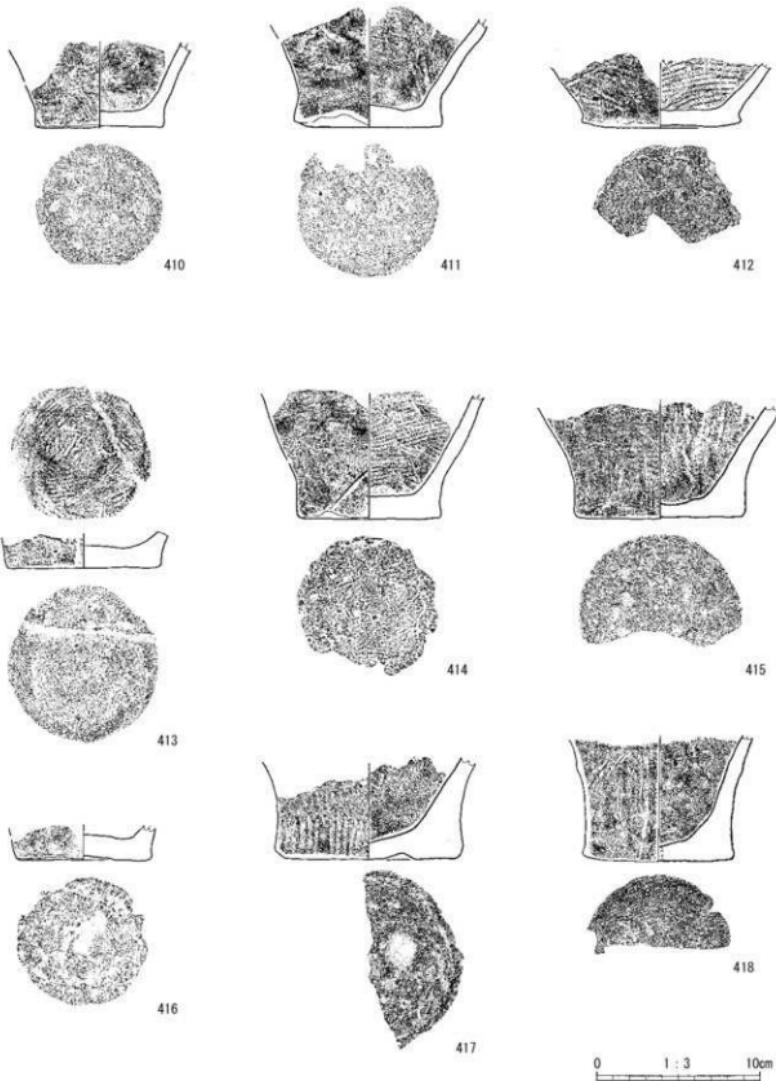
408



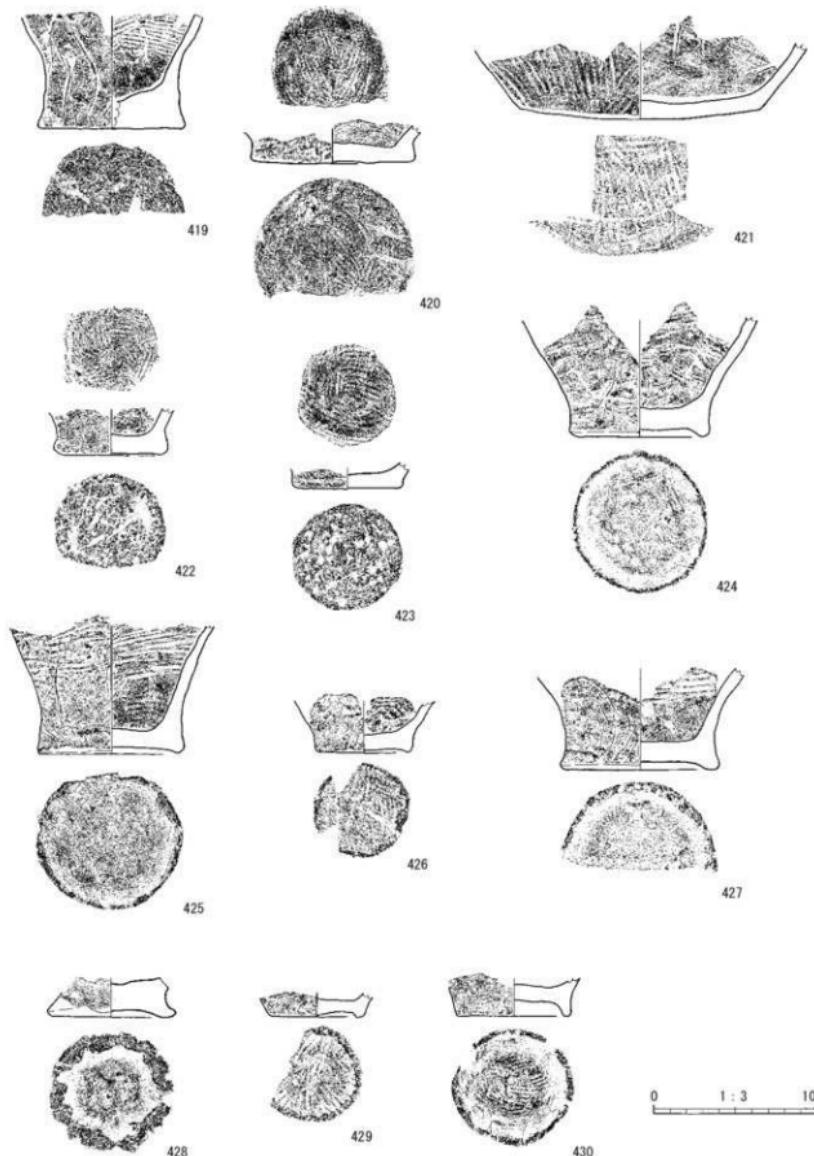
409

0 1 : 3 10cm

第68図 23類土器



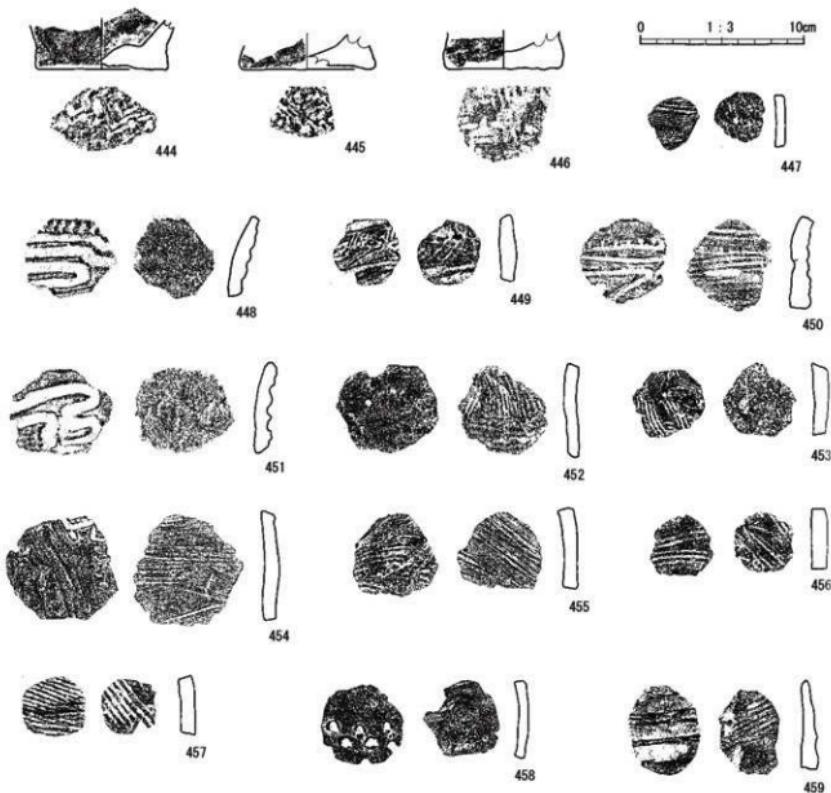
第69図 23類土器



第70図 23類土器



第71図 23類土器



第72図 23類土器・円盤状土製加工品

もの。繩文中～後期に位置付けられる。21点図示した。

361は、口縁部から胴部まで復元できる。内外面はナデ調整が施されるものの、外面は全体的に指で軽く押されたような凹凸が確認できる。365は、内面に黄褐色のシミ状の痕が全体的に確認できる。363・367は、胴部下半から底部に向かってすぼまるような形状を呈する。369は、内面は丁寧にナデ調整を施すことに対して、外面には貝殻条痕が明瞭に確認できる。370は、湾曲部がみられない直線的な胴部である。底部は、接合痕に沿って剥離している。外面は丁寧にナデ調整を施すことに対して、内面は貝殻条痕が明瞭に確認できる。371は、外面と比べて内面に胎土の粗さが目立つ。

23類土器（第66～72図382～446）

土器の底部である。875点確認し（番号取上分）、65点図示した。確認できる特徴から4類に大別した。

23-a類（第66～67図382～396、400）

平底で、底端部が強く張り出するもの。

385・389は、他の底部と比べて底径が小さい。385は、胴部へ立ち上がる箇所から器壁が薄い。389は、底面の中心部が指で押されたようにわずかに凹む。390は、今回確認できた中で最大の底部で、外縁の一部に煤が付着している。391は、底面の外縁部が不整形にわずかに盛り上がる。393は、内面が碗状に胴部へ立ち上がる。396は、内底部に貝殻条痕が明瞭に確認できる。

23-b類（第67~70図397~399、401~423）

平底で、底端部はあまり張り出さず直線的に立ち上がるもの。

409は、接合痕に沿って全周が剝離している。417は、底面に半球状の凹みがあり、堅果類の圧痕の可能性がある。421は、底径が大きく底端部に棱を持つが、丸底に近い形状を呈している。5類土器の底部の可能性がある。

23-c類（第70~71図424~436）

上げ底になっているもの。9類土器の底部と考えられる。35点確認し（番号取上分）、13点図示した。

425は、器壁が薄くなつて胴部へ立ち上がる。426は、内面に貝殻条痕の始点と考えられる痕が確認できる。428は、不整形な外底面を呈する。突き出た端部を内側に折り返したか。もしくは高く上げ底状に整形した底部を、上から押し潰したような状態となっている。端部には、棒状もしくはヘラ状工具によって付けられたと考えられる、刻目が不規則に確認できる。431は、器壁が4~5mmほどと薄く、内外面に貝殻条痕が明瞭に確認できる。429・435は、ともに底端の器壁が薄く、底面の中心部に白色物質が付着する。

23-d類（第71~72図437~446）

外底面に組織痕が確認できるもの。8点確認し（番号取上分）、10点図示した。

437・442は、モジリ編みである。437のモジリ編みは、1cmの幅で目を持つ。438・443・444・445は、平編みと綾編みを組み合わせている。445は、断面に堅果類と考えられる種の圧痕が確認できる。439・446は、綾編みである。440・441は、平編みである。

円盤状土製加工品（第72図447~459）

土器片の縁辺を打ち欠き、円形に整えたもの。5点確認し（番号取上分）、13点図示した。

448・450・451は12類土器、459は11類土器に比定できる。ある程度大きさを揃えているように見受けられるが、厚みや扁平具合にはそれぞれ差がある。

4 石器

石器は、IIIa層・IIIb層を中心に約3,000点出土した。出土土器から判断すると、石器のほとんどは縄文前期～弥生初頭に属すると考える。

ただし、上述したように環状石斧は縄文早期に属する可能性が高いと考える。また、縄文早期土器が混在する状況から、環状石斧以外にも縄文早期に属する石器が存在する可能性は否定できない。

剥片石器は129点確認し、石鎌が半数を占める。礫石器は65点確認し、石斧と磨石・敲石類がその多くを占める。

使用される石材は剥片石器の場合、黒曜石1類（三船産類似）が最も多く、次いで玻璃質安山岩である。礫石器の場合、砂岩がそのほとんどを占める。

分布状況について、7区以東に多く、特にA・B-7区とA・B-8~11区に集中する。

石材ごとの分布状況について（第73~75図参照）、玻璃質安山岩はA・B-7区に集中部が認められる。チャートやヨコクズイ、粘板岩は、A・B-8~10区に分布が偏っている。黒曜石3類と4類は2・3区にもある程度認められており、調査範囲にまんべんなく分布する。

器種ごとに見ると（第76~78図参照）、ある箇所に偏つて出土するということではなく、有意義な分布状況を示していない。

以下、器種毎に報告を施す。

石鎌（第79図460~483）

平面形態などから、3類及び未製品、欠損品に大別した。65点確認した。

1類

全体形状が、正三角形状（長幅比=1.2:1未満）を呈するもの。基部の抉りの有無により、2類に細分した。

1a類（460~462）

基部に抉りがないもの。11点確認し、3点図示した。

1b類（463~469）

基部に抉りがあるもの。14点確認し、7点図示した。

2類（470~471）

全体形状が、二等辺三角形状（長幅比=1.2:1以上）を呈するもの。4点確認し、2点図示した。

3類（472~482）

基部に深い抉りがあり、明確に脚部が作出されるもの。23点確認し、11点図示した。

欠損品

破損のため、上記の分類に含めることができないものである。10点確認した。

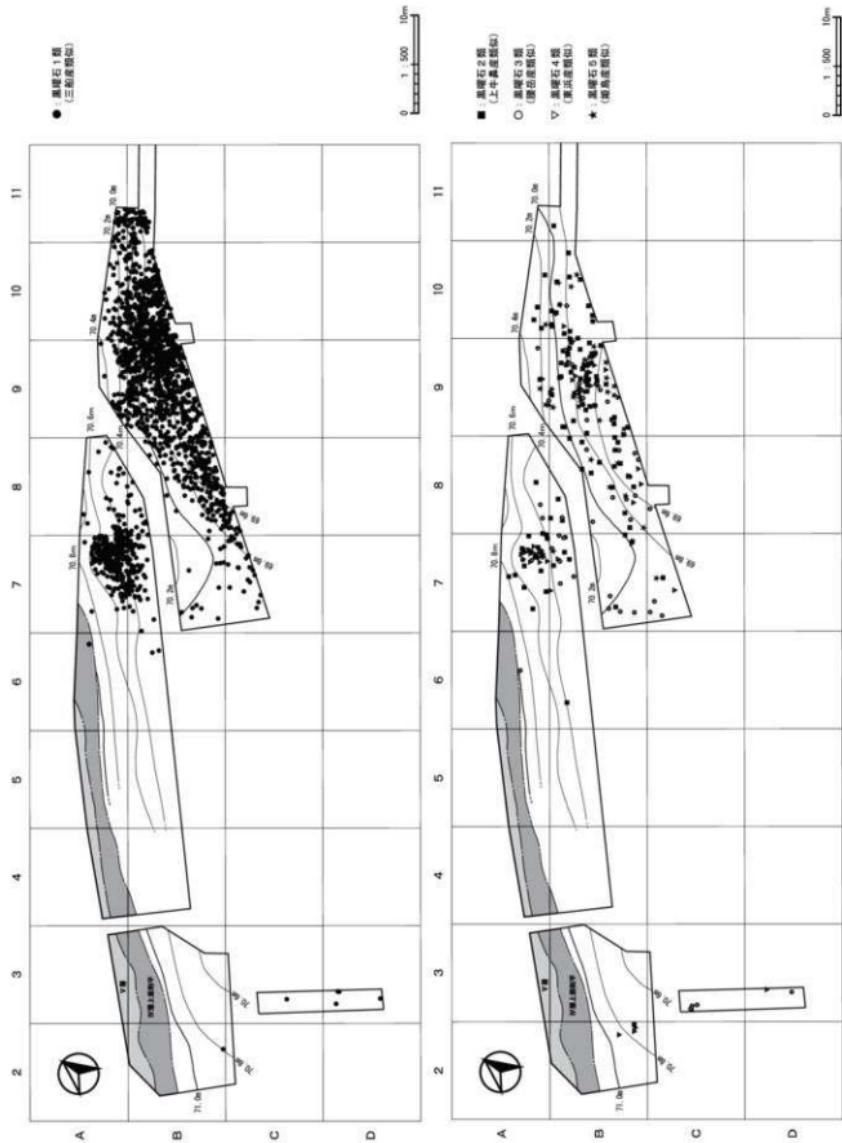
未製品（483）

打製石鎌の未製品と考えられるものである。厚みがあることから、未製品と判断した。4点確認し、1点図示した。

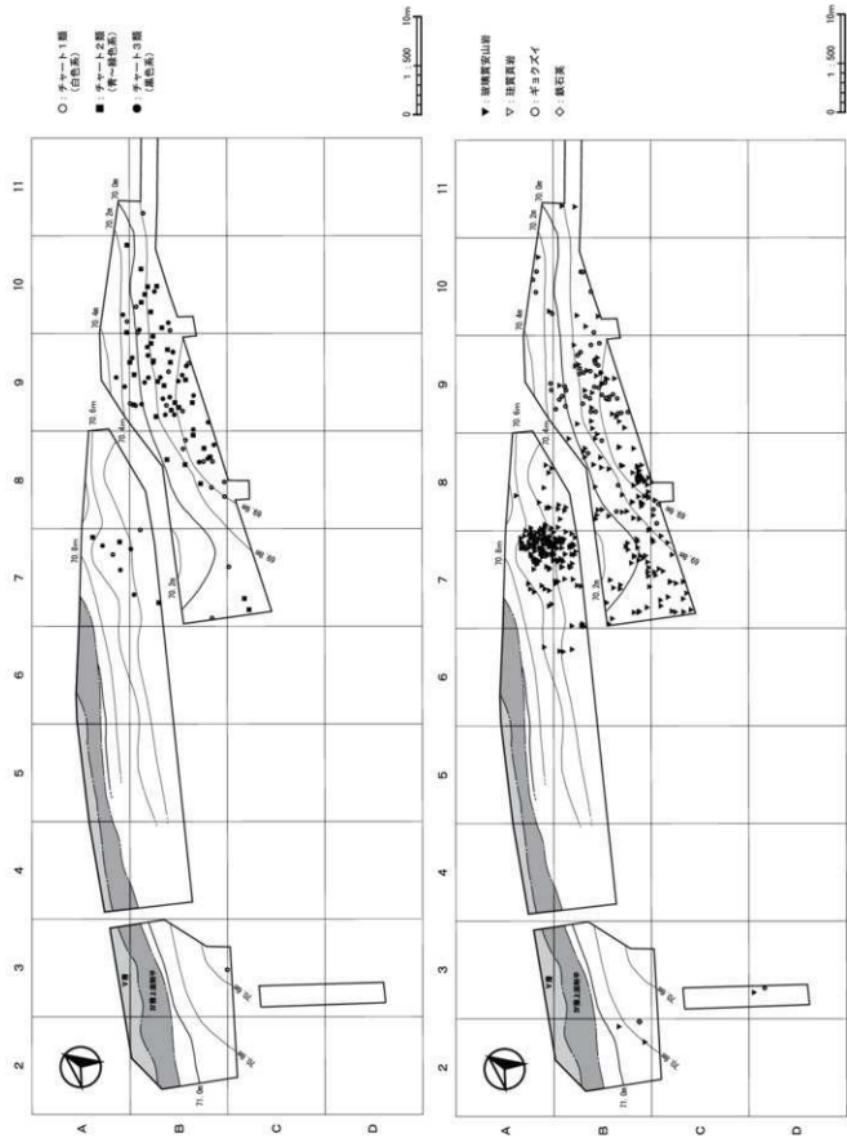
スクレイパー（第80図484~486）

7点確認し、3点図示した。484は厚手の横長剥片を素材としており、下縁に剥離を行って刃部としている。主要剥離面が大きく残る。485・486ともに側縁に剥離を行って

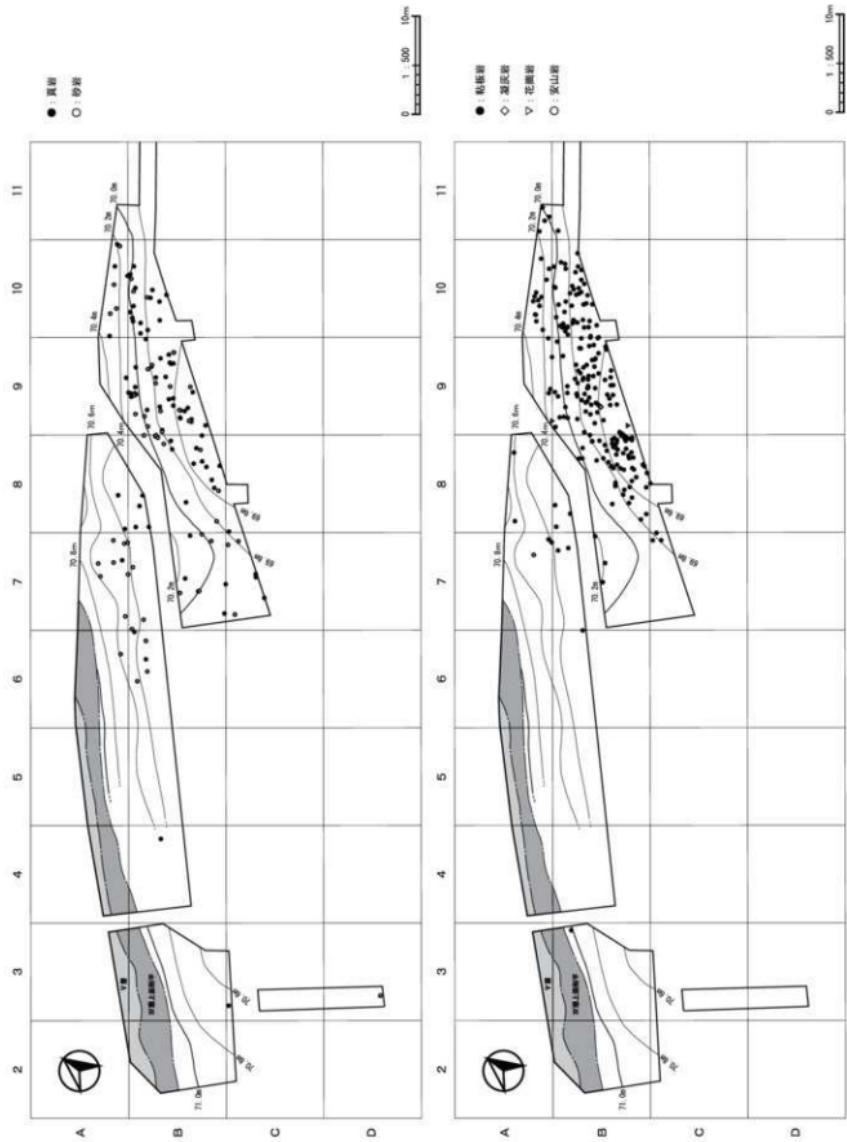
第73図 細文石器 石材別分布図(1)



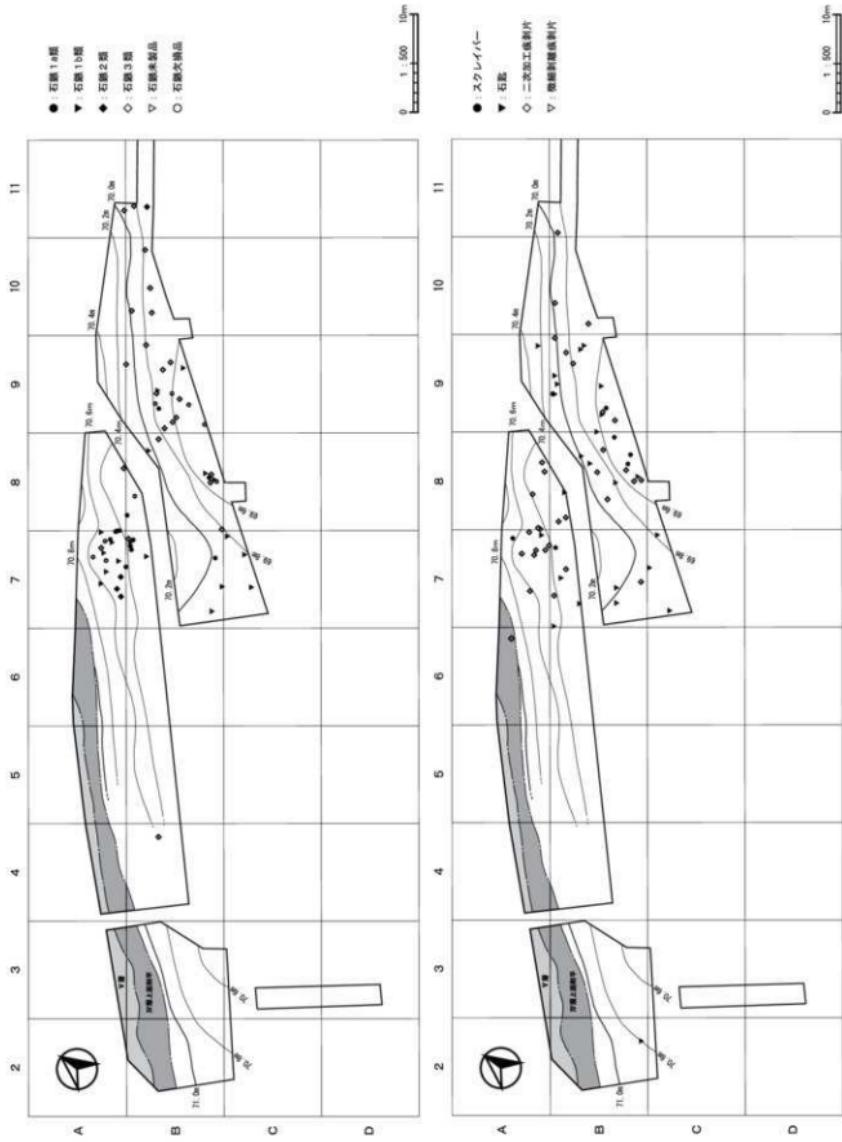
第74図 純文石器 石材別分布図（2）



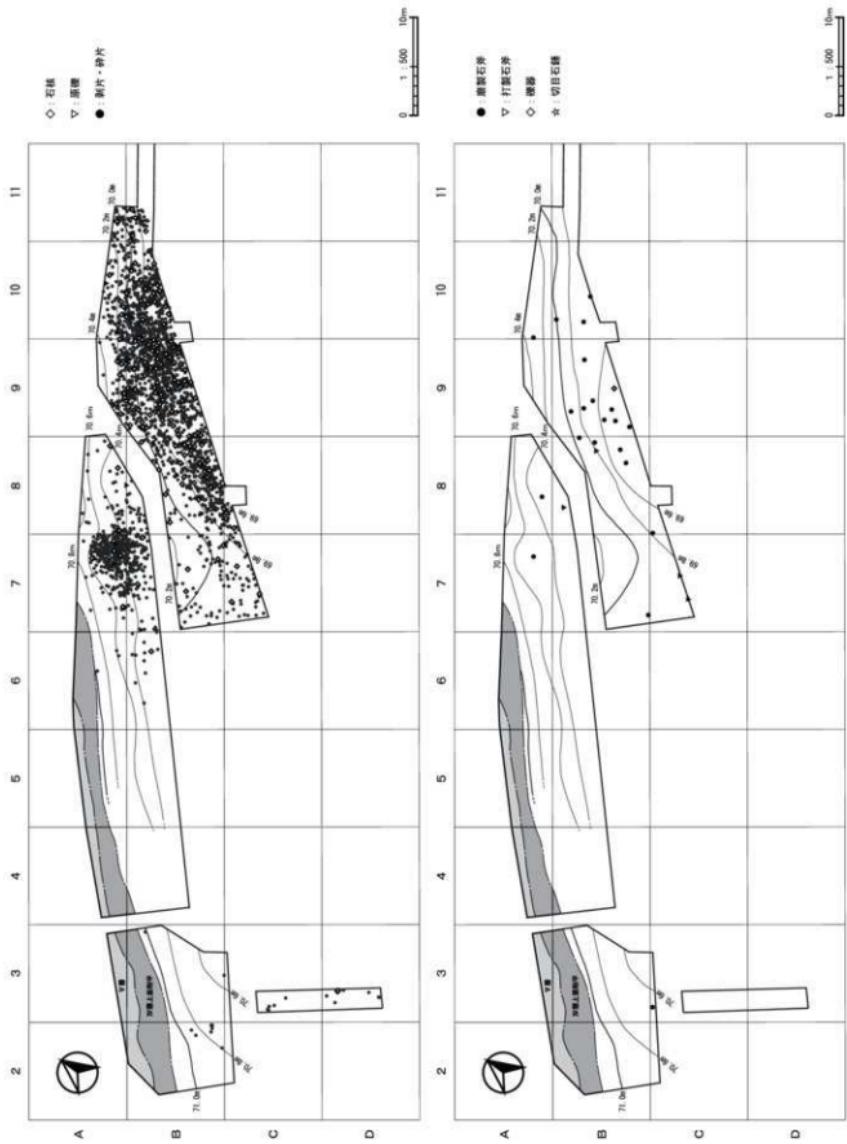
第75図 細文石器 石材別分布図（3）



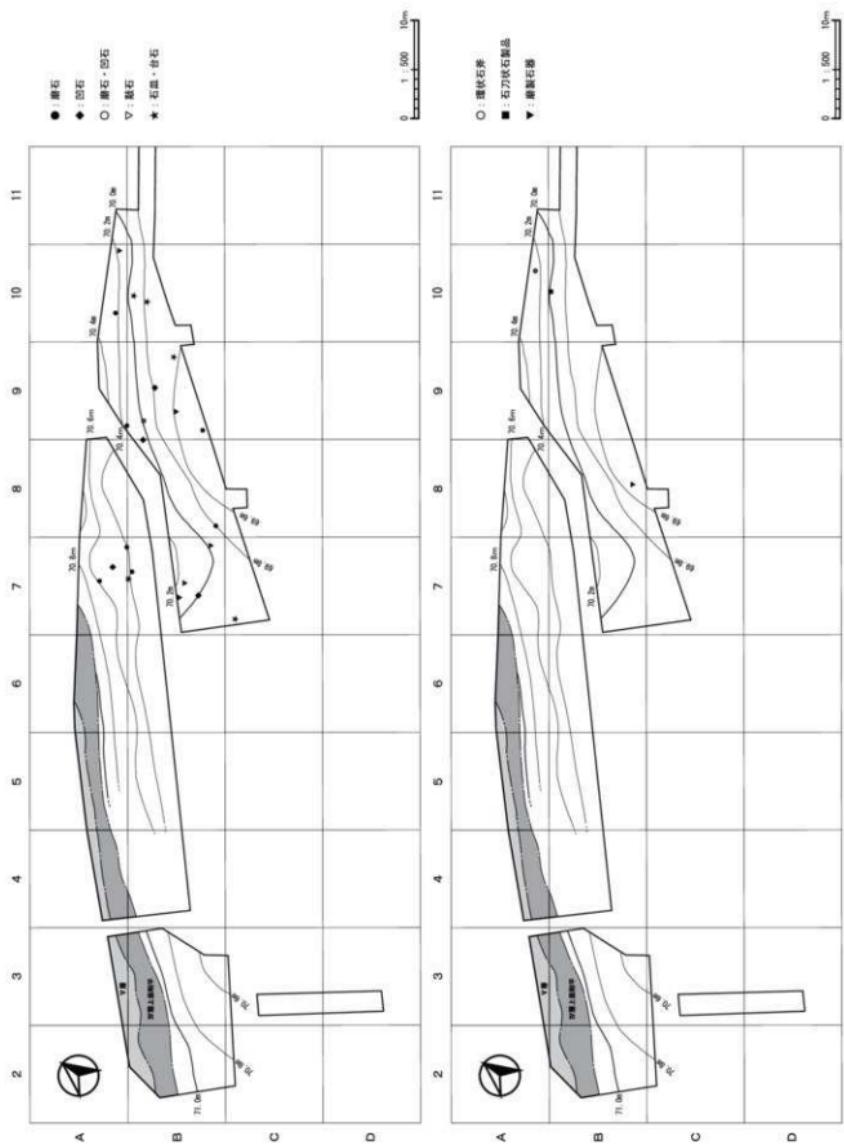
第76図 繪文石器 器種別分布図（1）

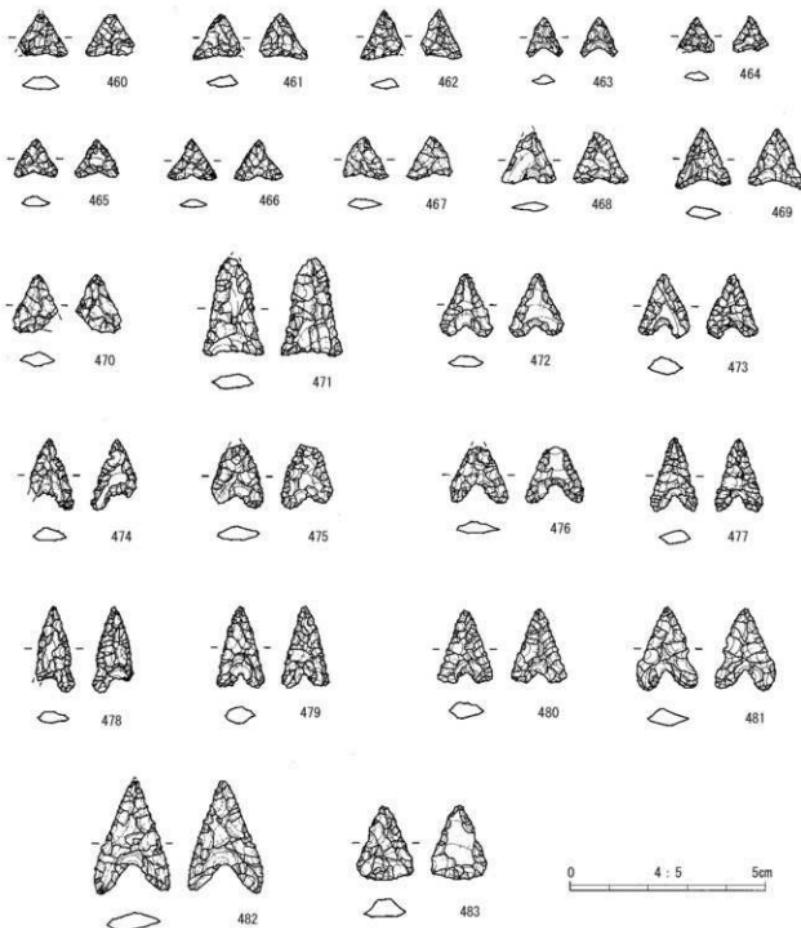


第77図 純文石器 器種別分布図(2)

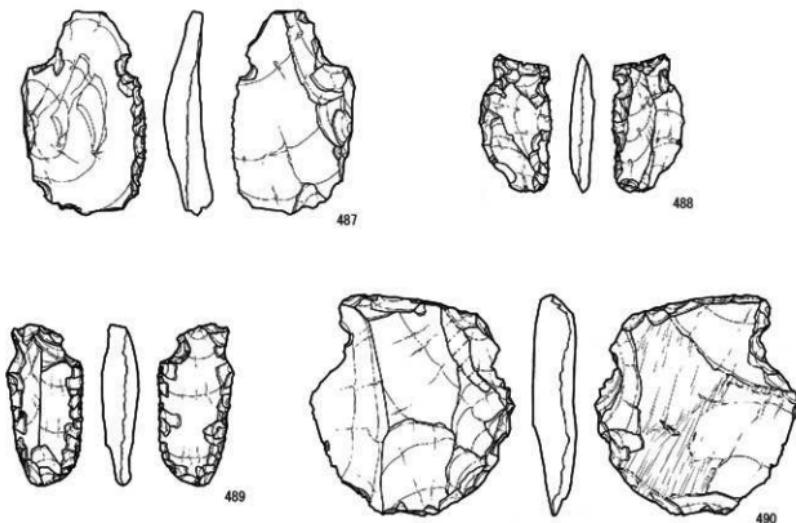
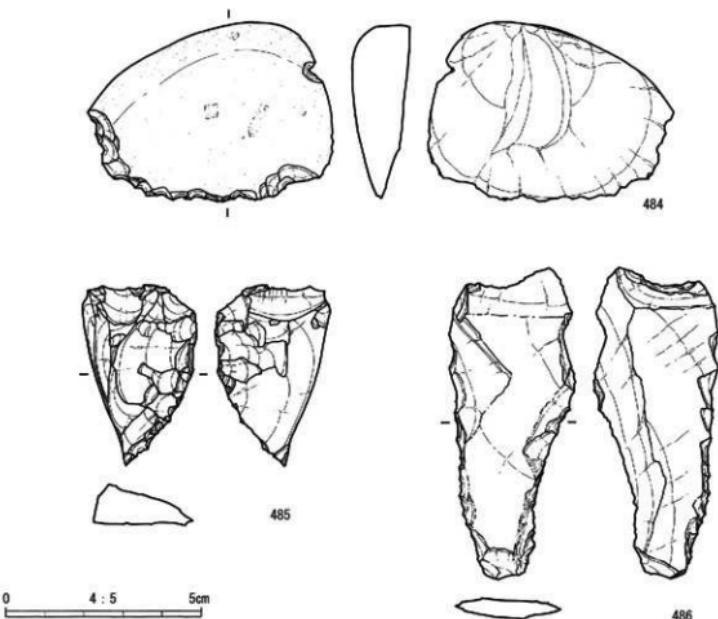


第78図 繪文石器 器種別分布図（3）

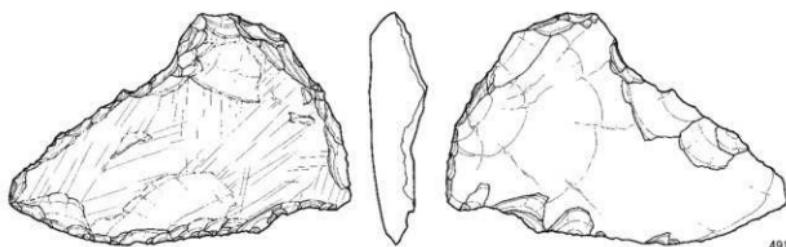




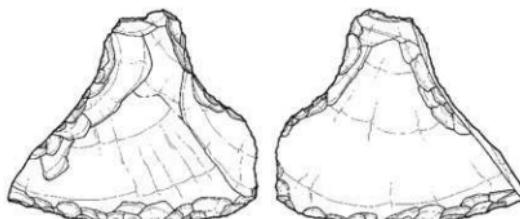
第79図 縄文石器（1）



第80図 縄文石器（2）



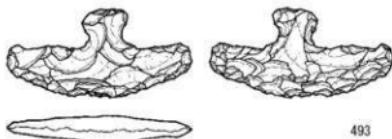
491



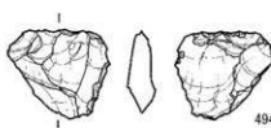
492



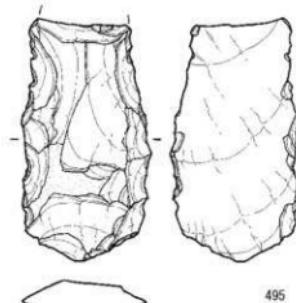
0 4 : 5 5cm



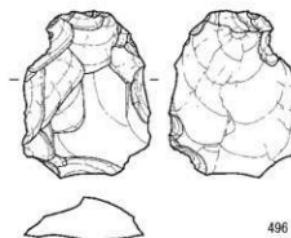
493



494

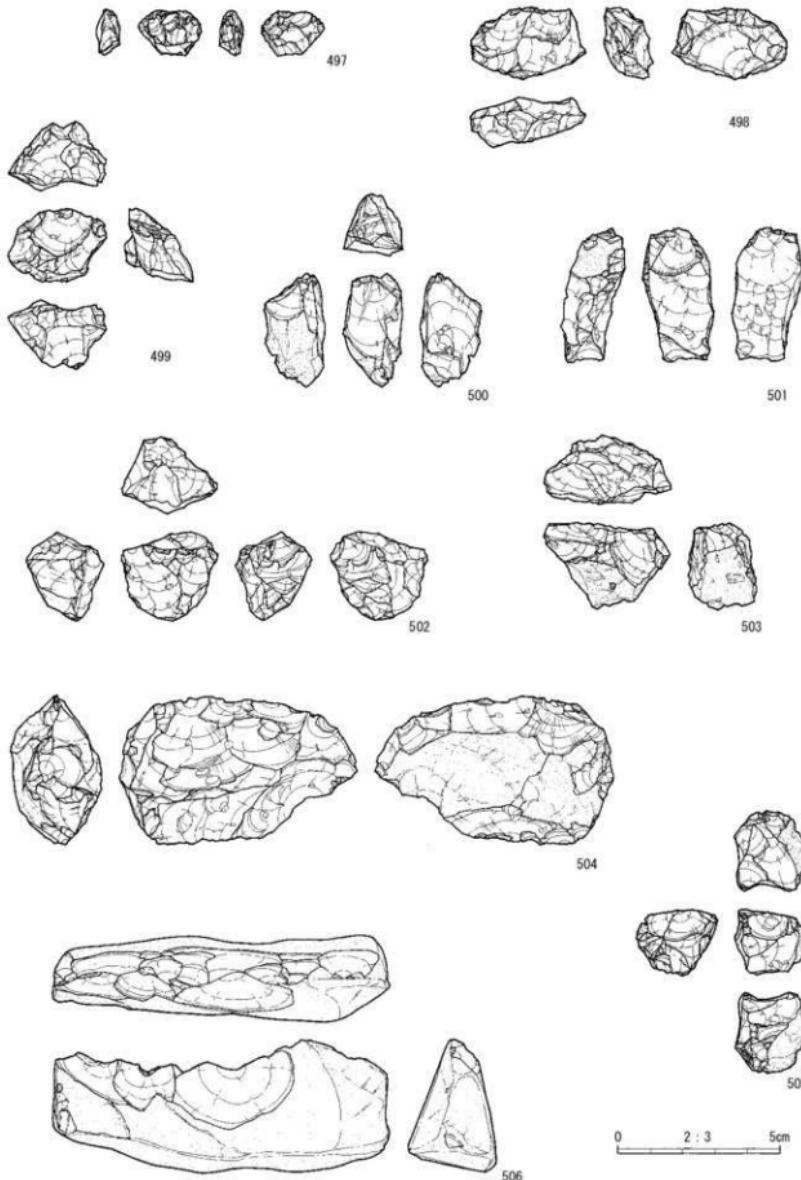


495

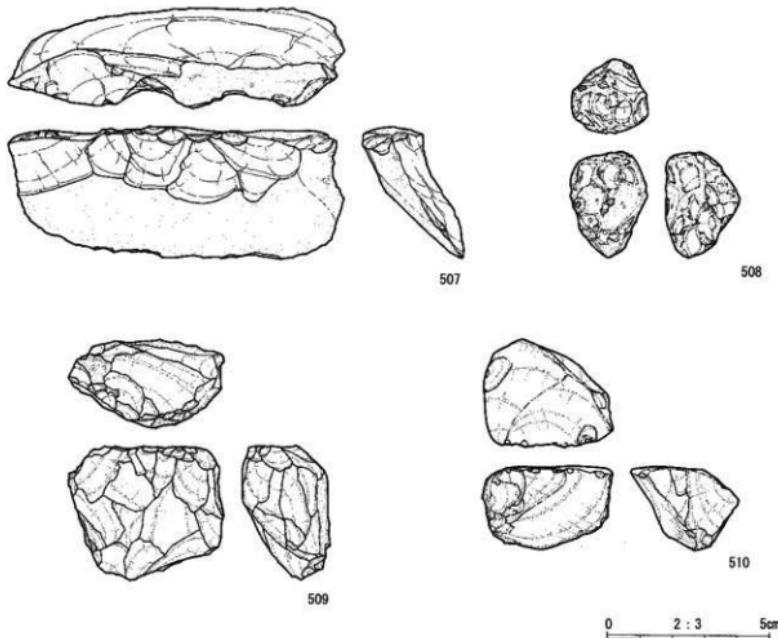


496

第81図 縄文石器（3）



第82図 繩文石器（4）



第83図 繩文石器（5）

刃部としている。

石匙（第80～81図484～486）

横型7点、縦型5点、未製品1点の計13点確認し、7点図示した。

487～490は、縦型の石匙である。487・488は横長剥片を素材とし、489は縱長剥片を素材としている。487は、未製品の可能性がある。490も未製品の可能性があり、背面に擦痕が確認できる。

491～493は、横型の石匙である。491は、大型の縦長剥片を素材としている。正面に擦痕が確認できる。

二次加工剥片（第81図494～496）

剥片に二次加工が認められるものの、器種認定が困難なものである。32点確認し、3点図示した。

495・496は、縦長剥片の周縁に加工が認められる。

石核（第82～83図497～507）

164点確認し、11点図示した。黒曜石1類がそのほとんどを占める。

497～501は、ほぼ限界まで剥離が行われている。502～

505は打面転移を繰り返し、作業面を複数もつ。506・507は比較的大型のもので、508はほぼ限界まで剥離が行われている。

原礎（第83図508～510）

剥片採取を意図した剥離痕が認められないもの。14点確認し、3点図示した。

微細剥離痕剥片

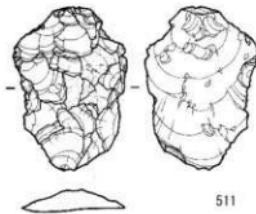
剥片の縁辺に微細な剥離痕が認められるものである。11点確認した。

剥片（第84図511～515）

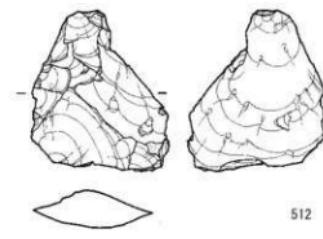
約2,600点（一括取上分を除く）の剥片が認められた。この中から代表的なものを5点図示した。511～514は、縦長の剥片である。515は、大型の横長剥片である。

石斧（第85～86図516～535）

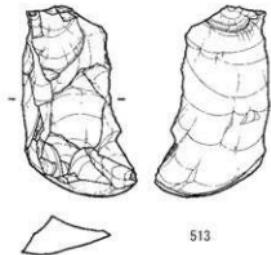
磨製石斧、打製石斧、局部磨製石斧、未製品を一括した。磨製石斧21点、打製石斧4点、局部磨製石斧3点確認し、19点図示した。石材は、全て頁岩である。



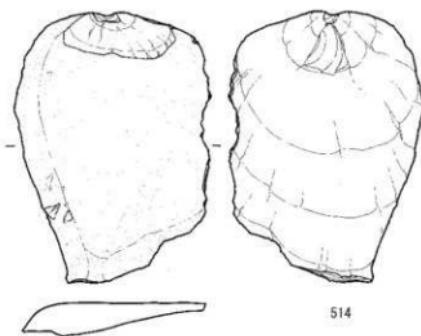
511



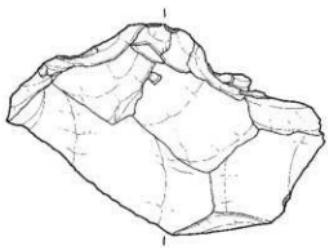
512



513



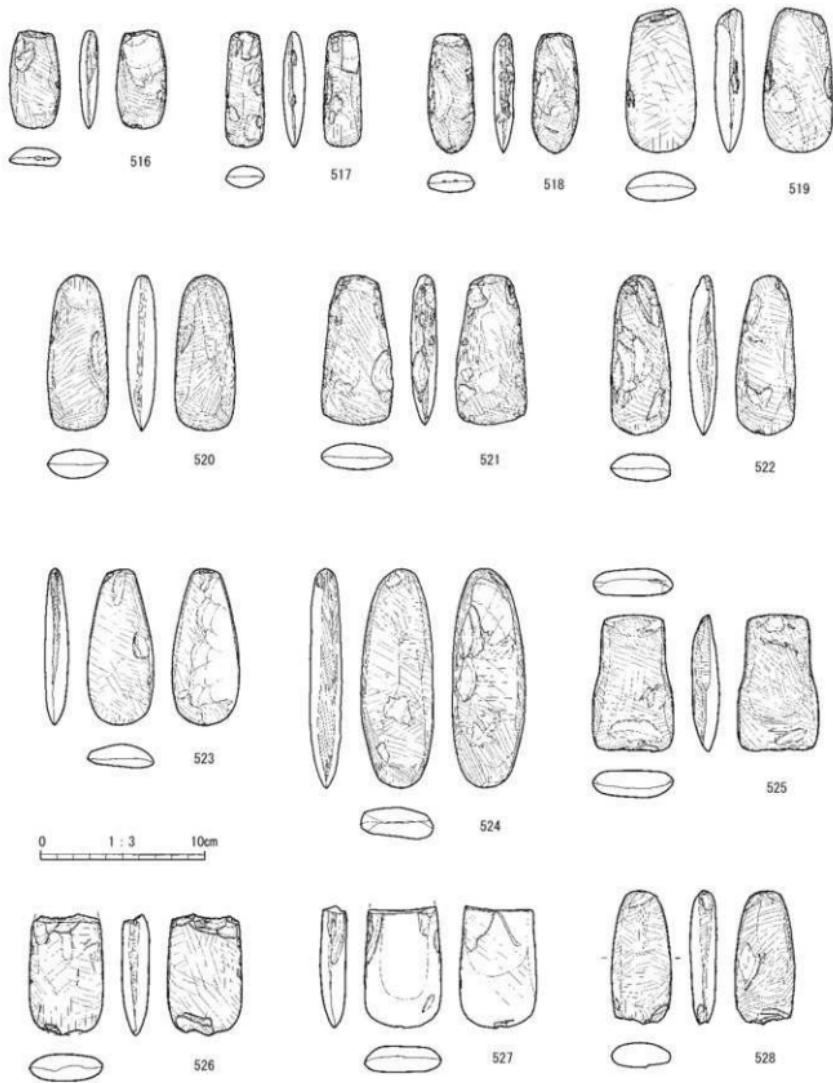
514



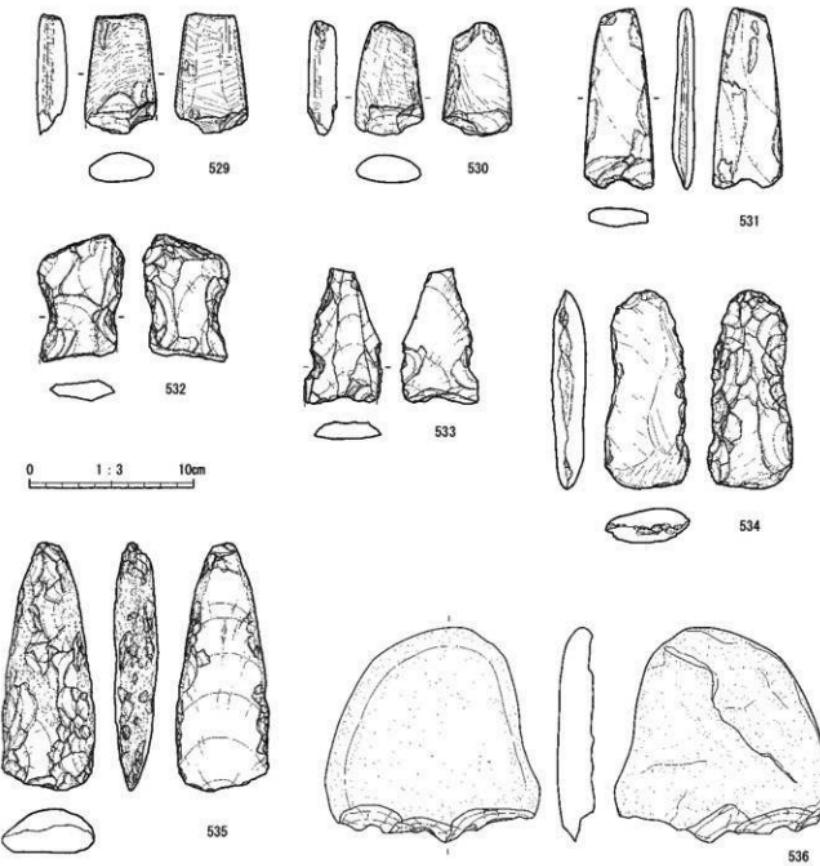
515

0 4 : 5 5cm

第84図 繩文石器（6）



第85図 縄文石器（7）



第86図 縄文石器（8）

516～530は、磨製石斧である。全面に丁寧な研磨が行われている。526・527は基部を、528～530は刃部を欠損している。516や517はかなり小型であり、限界まで使用されたことがうかがえる。平面形状は、短冊形を呈するものがほとんどであるが、524は紡錘形を呈する。525は、上下端に刃部が認められる。

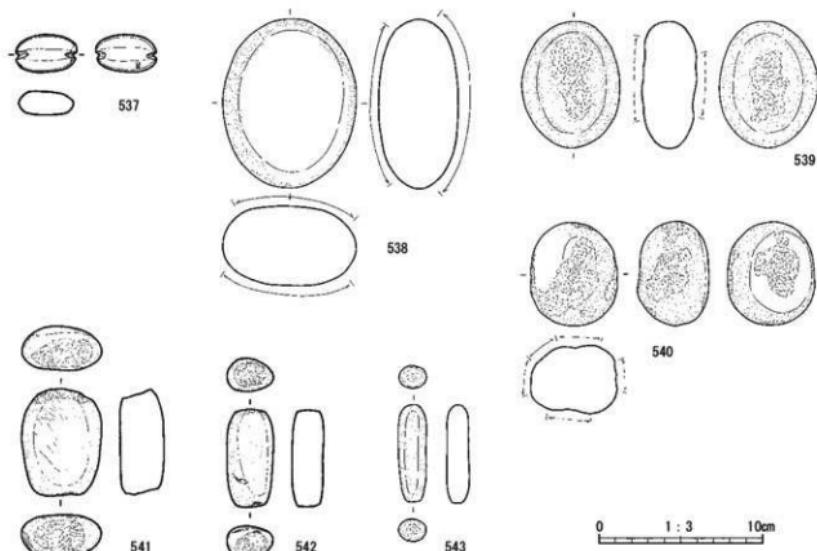
532・533は打製石斧で、ともに刃部を欠損している。532は、両側縁に抉りが認められる。

531・534は、局部磨製石斧である。531は刃部を欠損している。正・背面に剥離面が大きく残り、側面のみ磨面が認められる。534は、刃部を中心に磨面が認められる。

535は、石斧未製品と考える。正面や両側面に成形のための敲打痕が認められるが、磨面は認められない。背面に剥離面が大きく残る。

縄器（第86図536）

自然縄を素材とし、縄の一端に粗い剥離により、刃部を作出するものである。1点確認した。三角形状の縄を利用し、中心線と直角に刃部を作出している。



第87図 繩文石器（9）

切目石錐（第87図537）

縦の長軸上の両端に、掠切による切目によって抉りを作り出す石錐である。1点確認した。平面が長楕円形を呈し、断面扁平な頁岩製の縦を素材としている。

磨石・敲打痕類（第87図538～543）

磨面や敲打痕が認められるものを一括して扱い、使用痕から4類に大別した。なお、図面のドットの白抜きが磨面を表している。

1類（538）

正・背面に磨面が認められるもの。7点確認し、1点図示した。砂岩製と花崗岩製が認められる。

2類（539）

正・背面に凹みをもつもの。磨面をもつものもある。5点確認し、1点図示した。

3類（540）

正・背面に凹みが、周縁に敲打痕が認められるもの。1点確認した。磨面をもつ。

4類（541～543）

周縁あるいは長軸の両端に敲打痕や敲打によるつぶれが認められるもの。5点確認し、3点図示した。542・543は平面形と大きさから、ハンマーストーンと考える。

石皿・台石類（第88図544）

ほぼ平坦な磨面をもつものやほぼ平坦な磨面上に敲打痕が認められるものもある。砂岩製の大型の扁平な礫を素材としている。5点確認し、1点図示した。

平面形状が台形状を呈し、正面のみ磨面が認められる。

環状石斧（第88図545）

頁岩製で、全面を丁寧に研磨して整形している。半分を欠損しているが、直径9.0cmとなる。中央孔の内径は3.2cm。最大厚2.3cm、重量133.76gを測る。周縁には、細かい剥離痕がいくつか確認できる。

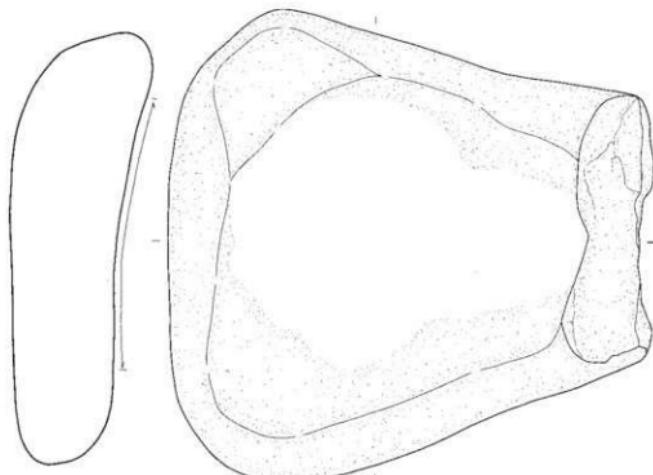
磨製石器（第88図546）

全体に研磨を施すが、器種の特定が困難なものである。1点確認した。

石刀状石製品（第88図547）

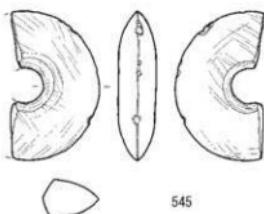
刃部先端を欠損しており、残存長17.6cm、最大幅5.0cm、最大厚1.5cm、重量147.95gを測る。粘板岩製で、器面上に鉄分が多く付着する。

全面を丁寧に研磨しており、器面上に掠痕が確認できる。刃部背側と柄部両側面には、研磨による複数の平坦面をも



0 1 : 4 10cm

544

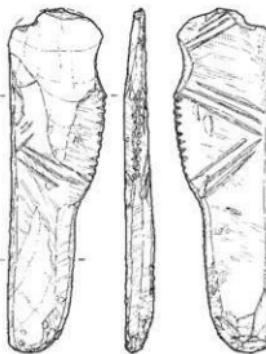


545



546

0 1 : 3 10cm

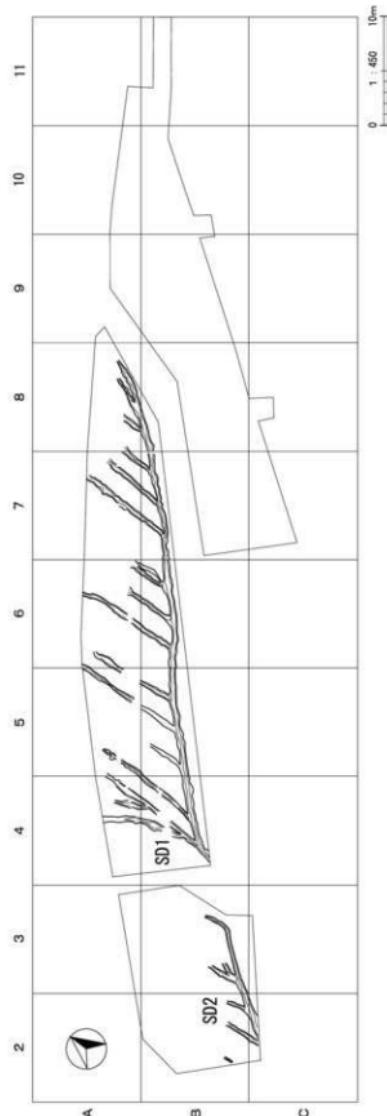


547



0 2 : 5 10cm

第88図 繩文石器 (10)



第89図 古墳時代土器

つ。刃部から柄部に向かって、幅が狭くなり、ナデ調整関状となる。柄部は、先端に向かって先細りとなる。

刃部には縦位の一条の沈線とそれに直交する形で短い沈線（刻み）を複数施している。この刻みにより、鋸齒に見える。正面と背面に、三条一単位の沈線が鋸齒状に施す。

第2節 古墳時代の調査

1 調査の概要

古墳時代の土器が1層からわずかに出土したのみである。過去の土地改変により、包含層が削平されている可能性が高い。

2 遺物（第89図 548・549）

成川式土器の甕の胴部を、2点確認した。色調と胎土の状態から、同一個体の可能性が高い。ナデ調整後に、突帶の貼付を施す。さらに突带上に、棒状もしくはヘラ状工具による刻目を施す。外面は薄橙色を呈し、胎土及び内面は白色である。

第3節 時代不明の調査

1 調査の概要（第90図）

2~8区において、溝状造構が2条検出された。これらは、土層断面の観察から時期的に新しいと判断できる。

2 1号溝状造構（SD1）（第91図）

（1）検出・構造

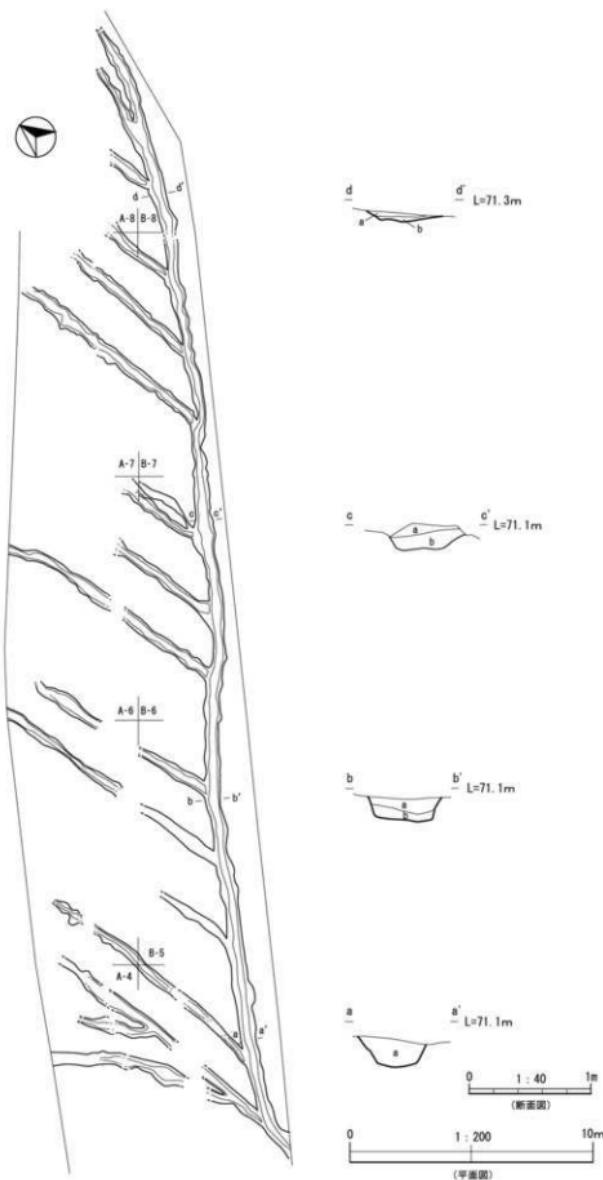
表土除去後のIIIa層上面において検出した。B~4区からA~8区の北東~南西方向に約47m延びる。12箇所に枝分かれした支線がある。その支線からさらに枝分かれするものもある。

検出面での幅は、0.3~0.8mである。断面は逆台形状を呈し、床面はいびつである。深さは約7~20cmを測り、東側ほど浅くなる。支線は、より浅くなる。

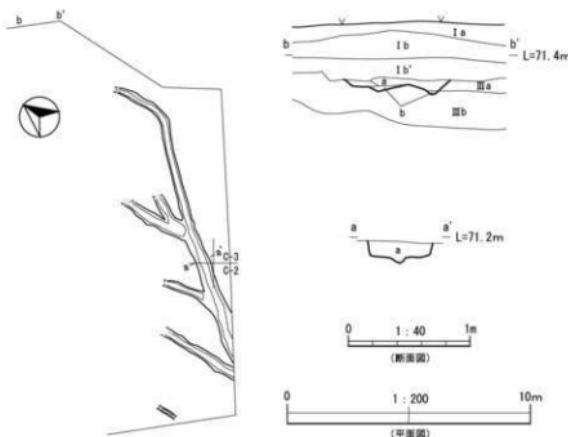
（2）埋土

埋土は、2層（a・b）に分けられる。

a：黒色（10YR3/1）シルト質土で、締まりが弱い。0.5cm程の白色粒を多く含む。IIIa層のブロック土を含む。Ib層に類似する。



第91図 1号溝状遺構（SD 1）平・断面図



第92図 2号溝状遺構 (SD 2) 平・断面図

b : 灰黄褐色(10YR4/2)シルト質土で、縮まりが弱い。IIIa層・IIIb層のブロック土を含む。下位ほど礫を多く含む。場所によっては、a層との境に川砂のような砂が薄く層を成す。

(3) 遺物

埋土内から縄文時代土器や石斧（第86図535）をはじめとする石器が認められており、一括取上を行った。

これら遺物は、遺構の壁や床面をなすIIIa層・IIIb層から流れ込んだものと考える。

3 2号溝状遺構 (SD 2) (第92図)

(1) 検出・構造

表土除去後のIIIa層上面において検出した。C-2区からB-3区の北東-南西方向に約11m延びる。4箇所に枝分かれした支線がある。

検出面での幅は、0.3~0.7mである。断面は逆台形状を呈し、床面はいびつである。深さは10~15cmを測る。支線は、より浅くなる。

(2) 埋土

埋土は、2層(a・b)に分けられる。

a : 黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、縮まりが弱い。0.5cm程の白色粒を含む。IIIa層・IIIb層のブロック土を含む。

b : 黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、縮まりがない。部分的に砂を含む。

(3) 遺物

埋土内から縄文時代土器や石器が認められており、一括取上を行った。これら出土遺物は、遺構の壁や床面をなすIIIa層・IIIb層から流れ込んだものと考える。

第2表 土器觀察表（1）

第3表 土器観察表(2)

行 番 号	名 称	面形		底形		脚上		脚下		備考
		外面	内面	外面	内面	脚上 面	脚上 底	脚下 面	脚下 底	
61	10774	B-7	sa							
62	6772	B-9	sa							
63	14654	B-9	sa							
64	13030101.5	B-11	sa							
65	13030101.5	B-9	sa							
66	14993	B-6	sa							
67	28478	B-9	sa							
68	9816	B-10	sa							
69	3661	B-9	sa							
70	11983	B-9	sa							
71	10102	B-9	sa							
72	49112	B-9	sa							
73	18300101.5	B-9	sa							
74	11508	B-9	sa							
75	4170	B-10	sa							
76	11630101.5	B-9	sa							
77	15057	B-9	sa							
78	13470101.5	B-9	sa+2a							
79	11958	B-9	sa							
80	8812	B-9	sa							
81	9003	B-9	sa							
82	11127	B-9	sa							
83	28200	B-9	sa							
84	9914	B-19	sa							
85	825	B-7	sa							
86	3664101.5	A-9	sa							
87	9877	B-9	sa							
88	12018	B-9	sa							
89	4778	B-9	sa							
90	17388	B-10	sa							
91	11909	B-9	sa							
92	49	B-9	sa							
93	13132	B-9	sa							
94	9910	B-9	sa							
95	17140101.5	B-10	sa							
96	12774	B-9	sa							
97	14470101.5	B-9	sa							
98	10038	B-9	sa							
99	13138	B-9	sa							
100	10044	B-9	sa							
101	6430	C-6	sa							
102	18220	B-10	sa							
103	13102	B-9	sa							
104	17296	B-10	sa							
105	12774	B-9	sa							
106	14470101.5	B-9	sa							
107	12774	B-9	sa							
108	13138	B-9	sa							
109	10038	B-9	sa							
110	13138	B-9	sa							
111	10044	B-9	sa							
112	17296	B-9	sa							
113	12774	B-9	sa							
114	14470101.5	B-9	sa							
115	12774	B-9	sa							
116	13138	B-9	sa							
117	10038	B-9	sa							
118	13138	B-9	sa							
119	12774	B-9	sa							
120	14470101.5	B-9	sa							
121	12774	B-9	sa							
122	13138	B-9	sa							
123	10038	B-9	sa							
124	13138	B-9	sa							
125	12774	B-9	sa							
126	14470101.5	B-9	sa							
127	12774	B-9	sa							
128	13138	B-9	sa							
129	10038	B-9	sa							
130	13138	B-9	sa							
131	12774	B-9	sa							
132	14470101.5	B-9	sa							
133	12774	B-9	sa							
134	13138	B-9	sa							
135	10038	B-9	sa							
136	13138	B-9	sa							
137	12774	B-9	sa							
138	14470101.5	B-9	sa							
139	12774	B-9	sa							
140	13138	B-9	sa							
141	10038	B-9	sa							
142	13138	B-9	sa							
143	12774	B-9	sa							
144	14470101.5	B-9	sa							
145	12774	B-9	sa							
146	13138	B-9	sa							
147	10038	B-9	sa							
148	13138	B-9	sa							
149	12774	B-9	sa							
150	14470101.5	B-9	sa							
151	12774	B-9	sa							
152	13138	B-9	sa							
153	10038	B-9	sa							
154	13138	B-9	sa							
155	12774	B-9	sa							
156	14470101.5	B-9	sa							
157	12774	B-9	sa							
158	13138	B-9	sa							
159	10038	B-9	sa							
160	13138	B-9	sa							
161	12774	B-9	sa							
162	14470101.5	B-9	sa							
163	12774	B-9	sa							
164	13138	B-9	sa							
165	10038	B-9	sa							
166	13138	B-9	sa							
167	12774	B-9	sa							
168	14470101.5	B-9	sa							
169	12774	B-9	sa							
170	13138	B-9	sa							
171	10038	B-9	sa							
172	13138	B-9	sa							
173	12774	B-9	sa							
174	14470101.5	B-9	sa							
175	12774	B-9	sa							
176	13138	B-9	sa							
177	10038	B-9	sa							
178	13138	B-9	sa							
179	12774	B-9	sa							
180	14470101.5	B-9	sa							
181	12774	B-9	sa							
182	13138	B-9	sa							
183	10038	B-9	sa							
184	13138	B-9	sa							
185	12774	B-9	sa							
186	14470101.5	B-9	sa							
187	12774	B-9	sa							
188	13138	B-9	sa							
189	10038	B-9	sa							
190	13138	B-9	sa							
191	12774	B-9	sa							
192	14470101.5	B-9	sa							
193	12774	B-9	sa							
194	13138	B-9	sa							
195	10038	B-9	sa							
196	13138	B-9	sa							
197	12774	B-9	sa							
198	14470101.5	B-9	sa							
199	12774	B-9	sa							
200	13138	B-9	sa							
201	10038	B-9	sa							
202	13138	B-9	sa							
203	12774	B-9	sa							
204	14470101.5	B-9	sa							
205	12774	B-9	sa							
206	13138	B-9	sa							
207	10038	B-9	sa							
208	13138	B-9	sa							
209	12774	B-9	sa							
210	14470101.5	B-9	sa							
211	12774	B-9	sa							
212	13138	B-9	sa							
213	10038	B-9	sa							
214	13138	B-9	sa							
215	12774	B-9	sa							
216	14470101.5	B-9	sa							
217	12774	B-9	sa							
218	13138	B-9	sa							
219	10038	B-9	sa							
220	13138	B-9	sa							
221	12774	B-9	sa							
222	14470101.5	B-9	sa							
223	12774	B-9	sa							
224	13138	B-9	sa							
225	10038	B-9	sa							
226	13138	B-9	sa							
227	12774	B-9	sa							
228	14470101.5	B-9	sa							
229	12774	B-9	sa							
230	13138	B-9	sa							
231	10038	B-9	sa							
232	13138	B-9	sa							
233	12774	B-9	sa							
234	14470101.5	B-9	sa							
235	12774	B-9	sa							
236	13138	B-9	sa							
237	10038	B-9	sa							
238	13138	B-9	sa							
239	12774	B-9	sa							
240	14470101.5	B-9	sa							
241	12774	B-9	sa							
242	13138	B-9	sa							
243	10038	B-9	sa							
244	13138	B-9	sa							
24										

第4表 土器觀察表(3)

第5表 土器觀察表（5）

第6表 土器観察表(6)

行 番 号	地 名	土 器 名	形 状	測定		土壤		地 理 学 的 的 性 質		備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面	外 面 内 面 水 分 率	外 面 内 面 鹽 度	
340	3328	8.4	1a							
341	3329	8.8	2a							
342	-95	8.7	101							
343	3401	8.9	3a							
344	3422	8.10	3a							
345	17528	8.18	3a							
346	-95	2.6	1P1							
347	15901	8.10	3a							
348	5202	8.4	1a							
349	49471.5	8.9	3a							
350	13731	8.10	2b							
351	6400	8.6	3a							
352	6204	8.7	3a							
353	127091.5	8.18	2a							
354	14493	8.9	3a							
355	143091.5	8.9	3a							
356	-95	8.7	3P1							
357	18531	8.6	3a							
358	5710	8.9	3a							
359	16992	8.9	3a							
360	7402	8.9	3a							
361	3861	8.9	3a							
362	16410	8.9	3a							
363	-95	8.6	-							
364	7100	8.9	3a							
365	4300	8.9	3a							
366	2862	8.10	2a							
367	-95	8.17	10	1						
368	2227	8.4	2b							
369	4002	8.9	3a							
370	-95	8.7	101							
371	5600	8.9	3a							
372	14753	8.10	3a							
373	1558	8.9	3a							
374	-95	8.9	3a							
375	13001	8.10	3a							
376	9464	8.10	3a							
377	407	8.9	3a							
378	-95	8.6	1							
379	7174	8.10	3a							
380	-95	8.6	101							
381	11945	8.9	3a							
382	53	8.9	3a							
383	7322	8.9	3a							
384	-95	8.6	1							
385	9472	8.9	3a							
386	2300	8.9	1a							
387	5301	8.10	3a							
388	17706	8.9	3a							
389	4797	8.10	3a							
390	6552	8.9	3a							
391	474791.5	8.10	3a							
392	2104	8.6	2b							
393	17202	8.9	3a							
394	6470	8.9	3a							
395	5601	8.9	3a							
396	18338	8.9	3a							
397	11007	8.9	3a							
398	9603	8.7	1a							
399	4600	8.9	3a							
400	1221	8.9	3a							
測定箇所 No. 121										

第7表 土器観察表(6)

件 号	種 類	面形		出刃		算上 寸 数	算上 寸 数	算上 寸 数	算上 寸 数	備考
		外面	内面	外面	内面					
391	直	8.7	10.1							
392	直	8.7	10.1							
393	直	8.9	10.1							
394	19913	8.9	10.1							
395	-	8.5	10.2	11	1					
396	5020	8.9	10.1							
397	18022	8.8	10.1							
398	6450	8.9	10.1							
399	1472	8.7	10.1							
400	4254	8.7	10.1							
411	17598	8.9	10.1							
412	2090	8.9	10.1							
413	17401	8.3	10.1							
414	5250	8.9	10.1							
415	11147	8.11	10.1							
416	9600	8.8	10.1							
417	18098	8.9	10.1							
418	-	8.9	10.1	10.8						
419	17598	8.11	10.1							
420	4136	8.9	10.1							
421	11148	8.9	10.1							
422	8014	8.9	10.1							
423	14457	8.9	10.1							
424	18022	8.9	10.1							
425	6051	8.9	10.1							
426	-	8.9	10.1							
427	5126	8.7	10.1							
428	362438.0	8.9	10.1	8.7	1					
429	-	8.9	10.1							
430	3736	8.9	10.1							
431	15727	8.9	10.1							
432	-	8.9	10.1	1						
433	145481.0	8.8	10.1							
434	13508	8.9	10.1							
435	6176	8.9	10.1							
436	18022	8.9	10.1							
437	2300	8.9	10.1							
438	11148	8.7	10.1							
439	19629	8.9	10.1							
440	15158	8.9	10.1							
441	-	8.9	10.1							
442	3324	8.9	10.1							
443	6017	8.7	10.1							
444	4722	8.9	10.1							
445	14601	8.9	10.1							
446	12977	8.9	10.1							
447	207	8.9	10.1							
448	17412	8.7	10.1							
449	362438.0	8.7~9	10.1							
450	14721	8.10	10.1							
451	17579	8.9	10.1							
452	7526	8.9	10.1							
453	16294	8.9	10.1							
454	9675	8.9	10.1							
455	1765	8.9	10.1							
456	11722	8.7	10.1							
457	12721	8.9	10.1							
458	6017	8.7	10.1							
459	362438.0	8.9	10.1							
460	17579	8.9	10.1							
461	7526	8.9	10.1							
462	16294	8.9	10.1							
463	9675	8.9	10.1							
464	1765	8.9	10.1							
465	11722	8.7	10.1							
466	12721	8.9	10.1							
467	6017	8.7	10.1							
468	362438.0	8.9	10.1							
469	17579	8.9	10.1							
470	7526	8.9	10.1							
471	16294	8.9	10.1							
472	9675	8.9	10.1							
473	1765	8.9	10.1							
474	11722	8.7	10.1							
475	12721	8.9	10.1							
476	6017	8.7	10.1							
477	362438.0	8.9	10.1							
478	17579	8.9	10.1							
479	7526	8.9	10.1							
480	16294	8.9	10.1							
481	9675	8.9	10.1							
482	1765	8.9	10.1							
483	11722	8.7	10.1							
484	12721	8.9	10.1							
485	6017	8.7	10.1							
486	362438.0	8.9	10.1							
487	17579	8.9	10.1							
488	7526	8.9	10.1							
489	16294	8.9	10.1							
490	9675	8.9	10.1							
491	1765	8.9	10.1							
492	11722	8.7	10.1							
493	12721	8.9	10.1							
494	6017	8.7	10.1							
495	362438.0	8.9	10.1							
496	17579	8.9	10.1							
497	7526	8.9	10.1							
498	16294	8.9	10.1							
499	9675	8.9	10.1							
500	1765	8.9	10.1							
501	11722	8.7	10.1							
502	12721	8.9	10.1							
503	6017	8.7	10.1							
504	362438.0	8.9	10.1							
505	17579	8.9	10.1							
506	7526	8.9	10.1							
507	16294	8.9	10.1							
508	9675	8.9	10.1							
509	1765	8.9	10.1							
510	11722	8.7	10.1							
511	12721	8.9	10.1							
512	6017	8.7	10.1							
513	362438.0	8.9	10.1							
514	17579	8.9	10.1							
515	7526	8.9	10.1							
516	16294	8.9	10.1							
517	9675	8.9	10.1							
518	1765	8.9	10.1							
519	11722	8.7	10.1							
520	12721	8.9	10.1							
521	6017	8.7	10.1							
522	362438.0	8.9	10.1							
523	17579	8.9	10.1							
524	7526	8.9	10.1							
525	16294	8.9	10.1							
526	9675	8.9	10.1							
527	1765	8.9	10.1							
528	11722	8.7	10.1							
529	12721	8.9	10.1							
530	6017	8.7	10.1							
531	362438.0	8.9	10.1							
532	17579	8.9	10.1							
533	7526	8.9	10.1							
534	16294	8.9	10.1							
535	9675	8.9	10.1							
536	1765	8.9	10.1							
537	11722	8.7	10.1							
538	12721	8.9	10.1							
539	6017	8.7	10.1							
540	362438.0	8.9	10.1							
541	17579	8.9	10.1							
542	7526	8.9	10.1							
543	16294	8.9	10.1							
544	9675	8.9	10.1							
545	1765	8.9	10.1							
546	11722	8.7	10.1							
547	12721	8.9	10.1							
548	6017	8.7	10.1							
549	362438.0	8.9	10.1							
550	17579	8.9	10.1							
551	7526	8.9	10.1							
552	16294	8.9	10.1							
553	9675	8.9	10.1							
554	1765	8.9	10.1							
555	11722	8.7	10.1							
556	12721	8.9	10.1							
557	6017	8.7	10.1							
558	362438.0	8.9	10.1							
559	17579	8.9	10.1							
560	7526	8.9	10.1							
561	16294	8.9	10.1							
562	9675	8.9	10.1							
563	1765	8.9	10.1							
564	11722	8.7	10.1							
565	12721	8.9	10.1							
566	6017	8.7	10.1							
567	362438.0	8.9	10.1							
568	17579	8.9	10.1							
569	7526	8.9	10.1							
570	16294	8.9	10.1							
571	9675	8.9	10.1							
572	1765	8.9	10.1							
573	11722	8.7	10.1							
574	12721	8.9	10.1							
575	6017	8.7	10.1							

第8表 土器觀察表（7）

品目	規格	取扱い	個別		合算		取扱い		備考
			外観	内面	外観	内面	外観	内面	
261	16000	S 9	2a						横穴1個付.8mm
262	11000	S 9	2a						
263	12000S/1.5	S 10	2a						
264	12000	S 9	2a						
265	3600	S 9	2a						
266	5012	A 9	2b						
267	10000	S 9	2a						
268	10000	S 9	2a						
269	2700	S+P 9	2a						
270	1300	S 9	2a						
271	11173	S 9	2a						横穴1個付.8mm
272	11000	S 9	2a						
273	11100S/2.0	S+P 9	2a+2b						
274	11107	S 9	2a						
275	94000	S 9	2a						
276	10007	S 10	2a						
277	14307	S 9	2a						
278	10000	S 9	2a						
279	11200	S 9	2a						
280	13005	S 9	2a						
281	12007S/2.0	S 9+10	2a						
282	12000	S 9	2a						
283	11077	S 9	2a						
284	10703	S 9	2a						
285	7100	S 10	2a						
286	10000	S 9	2a						
287	9800	S 9	2a						
288	9700	S 9	2a						
289	7100	S 9	2a						
290	12000	S 9	2a						
291	12000	S 9	2a						
292	12000	S 9	2a						
293	12000	S 9	2a						
294	12000	S 9	2a						
295	12000	S 9	2a						
296	12000	S 9	2a						
297	12000	S 9	2a						
298	12000	S 9	2a						
299	12000	S 9	2a						
300	12000	S 9	2a						
301	12000	S 9	2a						
302	12000	S 9	2a						
303	12000	S 9	2a						
304	12000	S 9	2a						
305	12000	S 9	2a						
306	12000	S 9	2a						
307	12000	S 9	2a						
308	12000	S 9	2a						
309	12000	S 9	2a						
310	12000	S 9	2a						
311	12000	S 9	2a						
312	12000	S 9	2a						
313	12000	S 9	2a						
314	12000	S 9	2a						
315	12000	S 9	2a						
316	12000	S 9	2a						
317	12000	S 9	2a						
318	12000	S 9	2a						
319	12000	S 9	2a						
320	12000	S 9	2a						
321	12000	S 9	2a						
322	12000	S 9	2a						
323	12000	S 9	2a						
324	12000	S 9	2a						
325	12000	S 9	2a						
326	12000	S 9	2a						
327	12000	S 9	2a						
328	12000	S 9	2a						
329	12000	S 9	2a						
330	12000	S 9	2a						
331	12000	S 9	2a						
332	12000	S 9	2a						
333	12000	S 9	2a						
334	12000	S 9	2a						
335	12000	S 9	2a						
336	12000	S 9	2a						
337	12000	S 9	2a						
338	12000	S 9	2a						
339	12000	S 9	2a						
340	12000	S 9	2a						
341	12000	S 9	2a						
342	12000	S 9	2a						
343	12000	S 9	2a						
344	12000	S 9	2a						
345	12000	S 9	2a						
346	12000	S 9	2a						
347	12000	S 9	2a						
348	12000	S 9	2a						
349	12000	S 9	2a						
350	12000	S 9	2a						
351	12000	S 9	2a						
352	12000	S 9	2a						
353	12000	S 9	2a						
354	12000	S 9	2a						
355	12000	S 9	2a						
356	12000	S 9	2a						
357	12000	S 9	2a						
358	12000	S 9	2a						
359	12000	S 9	2a						
360	12000	S 9	2a						
361	12000	S 9	2a						
362	12000	S 9	2a						
363	12000	S 9	2a						
364	12000	S 9	2a						
365	12000	S 9	2a						
366	12000	S 9	2a						
367	12000	S 9	2a						
368	12000	S 9	2a						
369	12000	S 9	2a						
370	12000	S 9	2a						
371	12000	S 9	2a						
372	12000	S 9	2a						
373	12000	S 9	2a						
374	12000	S 9	2a						
375	12000	S 9	2a						
376	12000	S 9	2a						
377	12000	S 9	2a						
378	12000	S 9	2a						
379	12000	S 9	2a						
380	12000	S 9	2a						
381	12000	S 9	2a						
382	12000	S 9	2a						
383	12000	S 9	2a						
384	12000	S 9	2a						
385	12000	S 9	2a						
386	12000	S 9	2a						
387	12000	S 9	2a						
388	12000	S 9	2a						
389	12000	S 9	2a						
390	12000	S 9	2a						
391	12000	S 9	2a						
392	12000	S 9	2a						
393	12000	S 9	2a						
394	12000	S 9	2a						
395	12000	S 9	2a						
396	12000	S 9	2a						
397	12000	S 9	2a						
398	12000	S 9	2a						
399	12000	S 9	2a						
400	12000	S 9	2a						
401	12000	S 9	2a						
402	12000	S 9	2a						
403	12000	S 9	2a						
404	12000	S 9	2a						
405	12000	S 9	2a						
406	12000	S 9	2a						
407	12000	S 9	2a						
408	12000	S 9	2a						
409	12000	S 9	2a						
410	12000	S 9	2a						
411	12000	S 9	2a						
412	12000	S 9	2a						
413	12000	S 9	2a						
414	12000	S 9	2a						
415	12000	S 9	2a						
416	12000	S 9	2a						
417	12000	S 9	2a						
418	12000	S 9	2a						
419	12000	S 9	2a						
420	12000	S 9	2a						
421	12000	S 9	2a						
422	12000	S 9	2a						
423	12000	S 9	2a						
424	12000	S 9	2a						
425	12000	S 9	2a						
426	12000	S 9	2a						
427	12000	S 9	2a						
428	12000	S 9	2a						
429	12000	S 9	2a						
430	12000	S 9	2a						
431	12000	S 9	2a						
432	12000	S 9	2a						
433	12000	S 9	2a						
434	12000	S 9	2a						
435	12000	S 9	2a						
436	12000	S 9	2a						
437	12000	S 9	2a						
438	12000	S 9	2a						
439	12000	S 9	2a						
440	12000	S 9	2a						
441	12000	S 9	2a						
442	12000	S 9	2a						
443	12000	S 9	2a						
444	12000	S 9	2a						
445	12000	S 9	2a						
446	12000	S 9	2a						
447	12000	S 9	2a						
448	12000	S 9	2a						
449	12000	S 9	2a						
450	12000	S 9	2a						
451	12000	S 9	2a						
452	12000	S 9	2a						
453	12000	S 9	2a						
454	12000	S 9	2a						
455	12000	S 9	2a						
456	12000	S 9	2a						
457									

第9表 土器觀察表（8）

部	品目	規格	外観	内観	表面		内部		取扱上		備考
					外層	内層	外層	内層	外層	内層	
69	A10	11500	Φ 11 mm								端面直角形 4mm
	A10	12000	Φ 10 mm								端面直角形 4mm
	A10	12272	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	36043(Φ1.5)	A-7	3a × 3b							端面直角形 4mm
	A10	41002	Φ 8 mm								端面直角形 4mm
	A10	46021	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	18175	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	12094	Φ 7 mm								端面直角形 4mm
	A10	10017	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	56005	Φ 10 mm								端面直角形 4mm
70	A10	12191	Φ 10 mm								端面直角形 4mm
	A10	92298	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	18521	C-7	3a10							端面直角形 4mm
	A10	18672	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	12237	Φ 8 mm								端面直角形 4mm
	A10	96300	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	10088	Φ 8 mm								端面直角形 4mm
	A10	12595	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	17629	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	17779	Φ 10 mm								端面直角形 4mm
71	A10	3271(Φ1.5)	A-8	3a × 3b							端面直角形 4mm
	A10	43687	Φ 8 mm								端面直角形 4mm
	A10	116	Φ 7 mm								端面直角形 4mm
	A10	43202	Φ 7 mm								端面直角形 4mm
	A10	12284	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	43212	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	46021	Φ 8 mm								端面直角形 4mm
	A10	46031	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	43271	Φ 9 mm								端面直角形 4mm
	A10	46040	Φ 8 mm								端面直角形 4mm
72	A10	-05	Φ 13 mm	1	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm
	A10	-05	Φ 8 mm	2a	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm
	A10	43771	Φ 10 mm	2a	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm
	A10	43771	Φ 9 mm	2a	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm
	A10	43771	Φ 8 mm	2a	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm
73	A10	43771	Φ 9 mm	2a	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm
	A10	43771	Φ 8 mm	2a	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm
	A10	43771	Φ 7 mm	2a	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm
	A10	43771	Φ 7 mm	2a	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm
	A10	43771	Φ 6 mm	2a	成形孔	ナゲ					端面直角形 4mm

第10表 巴盤抹土製加工品觀察表

〔凡例〕
本報告書の纖維表で用いている軸土中の鉱物・岩片の種類は以下のとおりである。

「石・長」：石英・長石類で、透明・白色不透明を呈するもの。
「熱・暖」：熱線石・暖色類の「根熱を呈」するもの。

「外/顔」：外見名・顔名類で、顔色をなし、有状のもの。
「裏/内」：金色を呈する裏地で、薄い顔状のもの。

「火ガ」 火山ガラスで、黒色や透明、半透明を呈し、泡がはじけたようなもの。

「楓葉」：楓化粧で、白色を呈して小葉状のもの。
「く葉」：くき化粧で、赤～紫褐色を呈する小葉状のもの。

「く緋」：くされ緋で、赤～赤褐色を呈する小繖状のもの。

第11表 石器観察表(1)

擇固	報告 No.	取上No.	区	層	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
79	460	972	B-7	IIIa	打製石器 1a類	黒曜石1類	1.07	1.22	0.33	0.37
	461	10477	B-7	IIIa	打製石器 1a類	玻璃質安山岩	1.10	1.20	0.35	0.29
	462	1980	A-8	IIIa	打製石器 1a類	黒曜石1類	1.23	1.03	0.26	0.23
	463	2449	A-7	IIIb	打製石器 1b類	黒曜石1類	0.97	0.90	0.23	0.12
	464	1804	A-7	IIIa	打製石器 1b類	黒曜石1類	0.88	0.88	0.22	0.12
	465	11046	B-8	IIIb	打製石器 1b類	黒曜石1類	0.95	1.10	0.25	0.14
	466	2384	A-7	IIIa	打製石器 1b類	黒曜石1類	1.01	1.21	0.20	0.15
	467	5198	C-7	IIIa	打製石器 1b類	玻璃質安山岩	1.07	1.13	0.27	0.20
	468	946	A-7	IIIb	打製石器 1b類	玻璃質安山岩	1.30	1.35	0.20	0.28
	469	10480	B-7	Ic	打製石器 1b類	玻璃質安山岩	1.50	1.40	0.30	0.35
	470	1190	A-7	IIIa	打製石器 2類	玻璃質安山岩	1.47	1.12	0.36	0.46
	471	17662	B-11	IIIb	打製石器 2類	玻璃質安山岩	2.45	1.50	0.35	1.18
	472	12050	B-11	IIIa	打製石器 3類	玻璃質安山岩	1.60	1.30	0.33	0.52
	473	8263	A-11	IIIa	打製石器 3類	黒曜石1類	1.60	1.25	0.45	0.56
	474	16667	B-9	IIIa	打製石器 3類	黒曜石5類	1.75	1.60	0.30	0.34
	475	7300	B-10	IIIa	打製石器 3類	黒曜石1類	1.60	1.30	0.35	0.56
	476	19106	B-8	IIIa	打製石器 3類	ギョクズイ	1.40	1.45	0.25	0.42
	477	13435	B-9	IIIa	打製石器 3類	黒曜石1類	1.85	1.20	0.35	0.52
	478	9879	B-9	IIIa	打製石器 3類	チャート2類	2.15	1.00	0.30	0.59
	479	14996	B-9	IIIa	打製石器 3類	珪質頁岩	2.05	1.20	0.45	0.57
	480	19069	B-9	IIIa	打製石器 3類	ギョクズイ	1.85	1.40	0.45	0.76
	481	7806	B-10	IIIa	打製石器 3類	黒曜石5類	2.10	1.50	0.42	0.76
	482	745	B-4	IIIa	打製石器 3類	頁岩	2.85	1.90	0.45	1.51
	483	15832	B-9	IIIa	打製石器未製作品	玻璃質安山岩	1.90	1.43	0.45	1.13
80	484	18568	B-9	IIIb	スクレイバー 落ち込み	頁岩	4.55	6.30	1.55	41.84
	485	3412	A-7	IIIa	スクレイバー	チャート2類	4.60	2.92	1.42	16.45
	486	16154	B-8	IIIa	スクレイバー	粘板岩	7.95	3.20	0.70	17.90
	487	9635	C-7	IIIa	石器 縱型	チャート1類	5.22	3.14	1.24	15.09
	488	12654	B-8	IIIa	石器 縱型	玻璃質安山岩	3.49	1.81	0.62	3.36
81	489	14596	C-7	IIIa	石器 縱型	チャート2類	4.93	1.93	0.96	6.43
	490	7451	B-9	Ic	石器 縱型	頁岩	5.62	5.18	1.12	34.00
	491	3268	B-8	IIIb	石器 横型	頁岩	5.90	8.70	1.50	55.14
	492	13661	B-9	IIIa	石器 横型	頁岩	5.46	6.36	1.14	33.05
	493	3775	B-8	IIIa	石器 横型	玻璃質安山岩	2.22	4.70	0.66	4.98
82	494	2721	A-6	IIIa	二次加工痕剥片	玻璃質安山岩	2.22	2.58	0.77	4.01
	495	6141	B-8	IIIa	二次加工痕剥片	頁岩	6.22	3.32	0.97	21.77
	496	16968	B-9	IIIa	二次加工痕剥片	珪質頁岩	4.25	3.28	1.42	12.49
	497	3177	A-6	IIIb	石核	黒曜石1類	1.34	1.90	0.70	1.76
	498	15842	B-9	IIIa	石核	黒曜石1類	2.18	3.52	1.48	9.26
83	499	3464	B-10	IIIa	石核	黒曜石1類	2.21	3.00	2.10	9.58
	500	17425	B-7	IIIb	石核	珪質頁岩	3.43	1.80	1.86	11.07
	501	19042	B-9	IIIa	石核	黒曜石1類	4.97	2.18	1.92	11.52
	502	8747	B-8	IIIa	石核	黒曜石1類	2.70	2.92	2.31	13.28
	503	18642	B-8	IIIb	石核	黒曜石1類	2.63	3.89	2.98	16.86
84	504	8281	B-10	IIIa	石核	黒曜石1類	4.52	7.30	2.75	77.78
	505	8951	B-9	IIIa	石核	黒曜石2類	2.00	2.32	2.43	11.13

第12表 石器観察表（2）

博物館	報告番号	取上番号	区	層	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
83	506	14224	B-9	IIIa	石核	珪質頁岩	4.03	10.36	2.67	117.00
	507	11956	B-9	IIIa	石核	砂岩	4.02	10.32	3.07	87.60
	508	18997	B-9	IIIb 落ち込み	原礫	黒曜石1類	3.29	2.34	2.27	17.05
	509	3886	A-10	IIIa	原礫	ギョクズイ	4.09	4.77	2.70	56.85
	510	4054	B-9	IIIa	原礫	珪質頁岩	2.54	4.00	3.29	32.33
84	511	7647	B-11	Ie	剝片	黒曜石1類	4.16	2.90	0.99	7.68
	512	9287	B-10	IIIa	剝片	黒曜石1類	4.10	3.52	0.97	10.52
	513	18494	B-9	IIIb 落ち込み	剝片	珪質頁岩	4.88	2.92	1.62	17.34
	514	8923	B-8	IIIa	剝片	砂岩	6.94	5.01	1.00	32.81
	515	5973	B-9	IIIa	剝片	粘板岩	5.40	8.15	1.10	36.94
85	516	16866	B-8	IIIa	磨製石斧	頁岩	5.95	3.06	1.08	28.24
	517	12388	B-9	IIIa	磨製石斧	頁岩	7.09	2.30	1.30	28.29
	518	3602	A-10	IIIa	磨製石斧	頁岩	7.25	2.80	1.22	37.42
	519	15848	B-9	IIIa	磨製石斧	頁岩	8.77	4.24	1.78	98.45
	520	13528	B-10	IIIa	磨製石斧	頁岩	9.43	3.67	1.73	87.19
	521	14394	B-8	IIIa	磨製石斧	頁岩	9.10	4.30	1.55	86.26
	522	10332	B-9	IIIa	磨製石斧	頁岩	9.70	3.60	1.64	79.76
	523	11395	B-10	IIIa	磨製石斧	頁岩	9.53	4.02	1.42	71.89
	524	18314	C-3	IIIa	磨製石斧	頁岩	13.40	4.43	1.92	175.10
	525	7635	B-8	IIIa	磨製石斧	頁岩	8.28	4.84	1.62	101.44
86	526	9433	B-9	IIIa	磨製石斧	頁岩	7.34	4.46	1.61	88.46
	527	6358	B-7	IIIa	磨製石斧	頁岩	7.40	4.64	1.57	89.29
	528	4666	B-9	IIIa	磨製石斧	頁岩	8.10	3.63	1.59	73.73
	529	16904	B-9	IIIa	磨製石斧	頁岩	7.25	4.38	1.78	82.57
	530	7441	B-9	IIIa	磨製石斧	頁岩	6.99	4.16	1.69	68.51
	531	6742	B-10	IIIa	周部磨製石斧	頁岩	10.96	4.17	1.27	79.16
	532	1660	B-8	IIb	打製石斧	頁岩	7.70	5.24	1.49	64.59
	533	14570	C-7	IIIa	打製石斧	頁岩	8.20	4.70	0.70	46.42
	534	14667	C-8	IIIa	周部磨製石斧	頁岩	1.21	5.12	2.07	155.45
	535	一括	B-6	Sb1埋土	石斧未製品	頁岩	1.51	5.63	2.63	282.04
87	536	14834	B-9	IIIa	縫器	砂岩	13.10	13.20	2.10	525.00
	537	16227	C-7	IIIa	切目石鍬	頁岩	2.28	3.72	1.40	15.52
	538	2159	B-7	IIIa	磨石	砂岩	10.40	8.20	4.90	565.90
	539	9967	B-7	IIIb	凹石	砂岩	7.70	6.00	3.40	221.00
	540	4910	B-8	IIIa	圓石	砂岩	6.30	5.30	4.40	302.40
	541	10755	B-7	IIIa	敲石	砂岩	6.50	4.90	2.70	119.70
	542	15949	B-7	IIIb	敲石	砂岩	5.93	2.82	2.00	48.06
88	543	11728	B-7	IIIb	敲石	頁岩	6.00	1.70	1.40	23.30
	544	8260	B-10	IIIa	石皿	砂岩	39.90	38.60	9.80	13150
	545	4467	A-10	IIIa	圓状石斧	頁岩	9.08	5.41	2.30	133.76
	546	5502	B-8	IIIa	磨製石鋸	頁岩	5.20	1.79	0.70	10.97
	547	15192	B-10	IIIa	石刀状石製品	粘板岩	17.55	5.00	1.50	147.95

第5章 総括

第1節 縄文時代の調査

本遺跡の中心となる時代である。アカホヤ火山灰層上位のⅢa層・Ⅲb層から土器や石器が出土し、土坑と集石が検出されている。

これら遺物・構造は、その層位から縄文前期以降に位置づけられる。なお、Ⅲa層やⅢb層からは縄文早期に位置づけられる土器や石器も出土している。

1 遺物

(1) 土器

各類土器の特徴をもとに既存の土器型式に比定すると、以下のとおりである。

1類：前平式

2類：小牧3A段階

3類：下剥峯式

4類：塞ノ神A式

5類：曾畠式

6類：深浦式

6-a類は日本山段階、6-b類は鞍谷段階に比定できる。

7類：野久尾式

8類：船元式

9類：春日式

9-a類は前谷段階、9-b類は森木ヶ迫段階、9-c類は南宮島段階に比定できる。

10類：大平式

11類：宮之迫式

12類：指宿式

13類：市来式

14類：丸尾式

15類：納曾式

16類：中岳II式

17類：縄文後期に属する可能性のある型式不明土器

18類：磨消縄文土器

19類：縄文後期の粗製土器

20類：刻目突端文土器

21類：型式不明土器

22類：縄文中・後期の粗製土器

23類：縄文中期～弥生初頭の土器底部

本遺跡からは、縄文早期から弥生初頭・古墳時代の土器が出土している。出土量から考えると、本遺跡の中心を占めるのは、縄文中期～後期である。

縄文早期の土器は、出土量が少ない。本遺跡背後の台地上に位置する、縄文早期の集落遺跡である倉園B遺跡（志布志町教委1984）から流入した可能性が高い。

縄文前期は、曾畠式の一定数まとった出土を確認した。志布志市内では、野久尾遺跡（志布志町教委1979）や鎌石橋遺跡（河口1982）・別府石跡遺跡（志布志町教委1979）

などでも出土しており、前川流域を中心に分布している。縄文早期土器を倉園B遺跡からの流入品と考えると、縄文前期からが倉園A遺跡の使用時期と想定される。

深浦式・船元式はごくわずかの出土に留まり、野久尾式も少量の出土である。しかし、野久尾式は他型式と比べて、調査範囲の西側まで分布が広がっているため（第16図上）、今回調査の範囲に多数包蔵されている可能性がある。

縄文中期は、春日式・大平式が多量に出土した。春日式は、前谷・森木ヶ迫・南宮島段階に比定される。市内に、前谷段階の標識遺跡である前谷遺跡（松原町教委1986）が所在するが、本遺跡の春日式は森木ヶ迫・南宮島段階がを中心占める。胎土に滑石を含む製品もあり、他地域からの搬入品の可能性がある（第36図118）。

大平式は幾何学的な弦線文や、口縁部下位に段が付くようないし屈曲するなど、型式的特徴はある程度明確である。多様な文様が認められる春日式とは対照的である。強く屈曲し内湾するものは古相と考えられ（相美2017）、網目状の文様を横位に施し、押引文により施文するものも多い（第39図122など）。屈曲が緩くなるにつれて、押引文は少なくなり、弦線による縦位の施文が目立つようになる（第43図145など）。口縁部下位の段がみられないものも確認されたが、少量である。

縄文後期は、宮之迫式・指宿式が中心を占める。どちらも、口縁部から胴部上半まで広く文様帯を持つ。宮之迫式は、貝殻条痕を確認できるものが多いが、指宿式はナデ調整を施すものが大半である。また、指宿式は胎土に雲母を含むものが多く確認された。

指宿式は、指宿地方で採取できる温泉変質粘土を原料とした、指宿焼成色と呼ばれる赤紫色や桃色等の発色を呈する土器の存在が指摘されている（黒川2005）。しかし、本遺跡の指宿式は、指宿焼成色に該当する製品は含まれていないようである。指宿式は、市内では特に中原遺跡で多量に確認されているが（志布志町教委1984）、中原遺跡でも指宿焼成色は確認されていない。指宿焼成色を呈する土器に、胎土に雲母を含むものは少ないことも指摘されているため、南薩地域の指宿式と、本遺跡の指宿式の流通範囲は重ならないと思われる。指宿式は、南薩と志布志湾、鹿児島湾で地域性が存在することは以前から指摘されており（三輪1998）、先行研究と齟齬のない結果である。

中原遺跡では、瀬戸内系の磨消縄文土器も多量に出土しており、それらの影響を受けた擬似縄文土器が出土している。本遺跡でも、少量であるが擬似縄文土器が出土した（第49図217・218など）。18類として報告した磨消縄文土器も同様に、瀬戸内系の土器の可能性がある。

野久尾遺跡では、縄文を施した春日式が出土するなど、瀬戸内系の影響を受けて変容した在地系土器が、縄文中期・後期に各地で確認されている。しかし、本遺跡の春日式や指宿式などに、その影響を見て取れるものは少ない。船元式や磨消縄文土器の出土もわずかであることから、他

第13表 細文石器組成表

地域との交流はありながらも、在地社会に変容を迫るほどではなかったか、あるいは積極的な受容を行わなかつたと考えられる。

指宿式期以降は、土器の出土量が減少する。市来式の段階に入ると出土量が減少し、市来式に後続する丸尾式と、時期的に併存する納曾式も、それぞれ少量の出土となる。市来式期から、本遺跡の利用頻度が低下していったと考えられる。

円盤状土製加工品の中には、宮之迫式と指宿式に比定できるものがある。先述した中原遺跡では、1,000点を超える円盤状土製加工品が出土しているため、型式比定できなかった他の製品も、縄文後期に位置付けられる可能性が高い。

(2) 石器 (第13表参照)

本遺跡からは、石鎌やスクレイパー、石匙、石斧、切目石錐、磨石・敲石類、石皿・台石類のような生業生活に使用される道具のほか、環状石斧や石刀状石器のような精神文化に関わる道具も出土している。

石器組成について、石核が多く、次いで石鏃となる。石鏃は3類（基部に深い抉りがあり、明確に脚部が作出されるもの）が多い。

石斧も比較的多く、基部や刃部が欠損していないものが11点認められた。全体的に小さめのもの（全長10cm以下）が多いのが気になるところである。また、上下端に刃部をもつ特徴的なものも認められた（第85図525）。

石材は、黒曜石1類（三船産類似）が約63%を占める。南九州の黒曜石原産地の中でも最も地理的に近いことが要因と考える。次いで玻璃質安山岩、粘板岩と続く。一方、遠隔地石材である黒曜石3～5類の利用は少なく、本道跡では在地石材利用が中心となる。なお、販売店前町田川口

にも原産地があるチャート（宮田2002、黒川2014）の比率が低いことは興味深い。

黒曜石・チャート・ギョクズイ・鉄石英・珪質頁岩・玻璃質安山岩・頁岩は剥片石器類に、砂岩・粘板岩・安山岩・凝灰岩・花崗岩は礫石器類にそれぞれ利用されており、器種に応じた石材利用が見受けられる。

時期は出土土器から判断すると、主に縄文前期後半から弥生初頭に属すると考える。土器型式毎に偏った分布状況を示さないため、詳細な時期は判断できない。ただし、環状石斧は縄文早期に属すると考える。本遺跡に隣接する倉見遺跡から出土した可能性が高い。

切目石類について

本遺跡から切目石錐が 1 点認められた (第87図537)。県内での切目石錐の出土例は少なく、平成21(2009)年3月時点ではあるものの、6 点の出土例にとどまっている (寒川 2009)。おそらく現在でも、それほど出土数は増えていないと考える。一方、隣接する宮崎県での出土例は多く、平成21(2009)年3月時点で491点と (藤木 2009)、鹿児島県とは対照的な様相となる。

県内出土例は具体的に、出水市大坪遺跡1点（鹿児島県埋セ2005）、曾於市蹄場遺跡1点（鹿児島県埋セ2000）、曾於市中岳穴1点（末吉町教委1980）、志布志市十文字遺跡2点（志布志町教委1983）、志布志市中原遺跡1点である。本遺跡を含め、いずれも県周縁域に位置しており、興味深い。

出土土器からその所属時期を考えると、大坪遺跡例は縄文後期末～晩期、踊場遺跡例は縄文晩期、中岳洞穴例は縄文後期後半～晩期、十文字遺跡例は縄文後期前葉、中原遺跡例は縄文後期前半に位置づけられる。

本遺跡は、大平式や春日式轟木ヶ迫・南宮島段階、宮之迫式、指宿式の土器群を中心としたことから、本遺跡資料

は縄文中期後半～後期後半に属する可能性が高いと考える。

石刀状石製品について

九州地方でみられる石刀——天附型石刀や櫛原型石刀——とは形態が異なることから、「石刀状石製品」と呼称した石器が認められた（第88図547）。

その特徴は、刀身部と柄部が刃闇により分化し、一侧縁に刻みを施す刃部をもち、器面に鋸歯状の沈線文を施すことである。

この資料に類似するものが、宮崎市樋ノ口遺跡で認められている（宮崎市教委2019）。「石刀」と報告されており、一侧縁に刻みを施し、器面に沈線文を施している（第93図1）。船元式土器や春日式土器北手牧・前谷タイプ、宮之迫式などが出土していることから、石刀を縄文中期中葉～後期初頭に位置づけている。

石刀ではないものの、宮崎県高原町井ノ原遺跡では、垂飾品と推定されている石器が出土している（高原町教委2022）。その特徴は、両側縁に刻みを施し、器面にX字状の沈線文を施している（第93図2）。穿孔のような痕跡があることから、垂飾品の可能性が指摘されている。アカホヤ火山灰層下位で検出した風倒木内から出土しているため、時期不明としている。なお、アカホヤ火山灰層上位からは、中尾田III類土器や市来式土器、入佐式土器が出土している。

本遺跡では、大平式や春日式森林木ヶ迫・南宮島段階、宮之迫式、指宿式の土器群が中心となる。このことから、出土した石刀状石製品は、縄文中期後半～後期前半頃に位置づけられると考えたい。

さらに東南部九州の縄文中期後半において、縁辺に刻みを施し、器面に沈線文を施す石器が認められる可能性も考えておきたい。なお、鋸歯文は大平式（第41図133など）に認められる文様でもあり、その関係性が気になるところである。

石刀状石製品に関して、栗畠光博氏、寒川朋枝氏、山崎真治氏、遠部慎氏から様々なご教示をいただいた。記して感謝申し上げます。

2 遺構

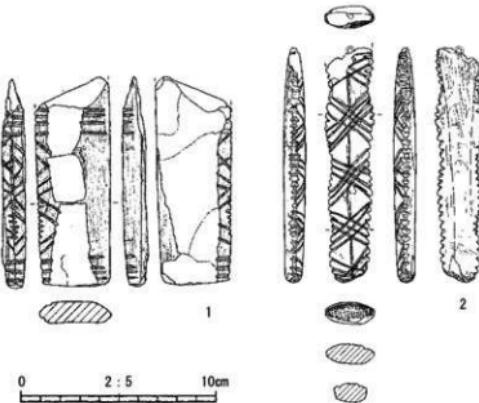
本遺跡では、7基の土坑と1基の集石が検出された。

土坑は、平面形態が椭円形または不定形ものである。その性格を推測できるような埋土内出土遺物がほとんどなく、性格は判断できない。

検出遺構の時期は、包含層出土土器から主に縄文前期後半から弥生初頭に属すると考えるが、土器型式毎に偏った分布状況を示さないことから、その詳細な時期は判断できない。

第2節 古墳時代の調査

I層から土器が2点出土したのみで、遺構は検出されて



第93図 石刀状石製品関係資料

いない。過去の土地改変により、包含層が削平されている可能性が高い。

出土土器は、成川式土器の甕の胴部と考えるが、特徴がないため、細分型式については不明である。

第3節 時代不明の調査

時期が明確に判断できなかった遺構として、2条の構状遺構がある。

1・2号ともに、埋土内に川砂のような砂を含むことから、暗渠排水のための構と考える。

国内で暗渠排水が始まられた時期は明らかとなっていないものの、各地で行われるようになったのは江戸時代の天保年間以降のようである。そのころの技術は大藏永常著の『農具便利論』にみられるような、溝田に扇の骨のような溝を掘って、粗糞や竹の束を埋めて暗渠として、要のところに集水して排水する方法、あるいは中央に一本の中心渠を設けて、それに矢羽型の支渠を連結して中心渠から排水する方法であったとされる（工藤1985）。つまり、構造からも検出された構状遺構が暗渠排水であったことがうかがえる。

明治36(1903)年、熊本県菊池市七城町の富田甚平氏により水開土管が考案され、九州地方において土管を使った暗渠排水が広まっていた。そして、土管による暗渠排水は、戦中から戦後にかけて本格化したようである。

暗渠排水の材料として、九州地方では土管以外に竹・粗糞類を主体としており、鹿児島県では竹を多く使用している（庄司・守島1948）。

検出された構状遺構では、土管が認められないことから、竹や粗糞類を用いたものと推定できる。そして、その時期は、土管使用が本格化する前の、近代から戦後まもなくの時期のものである可能性を指摘しておきたい。

第4節 小結

倉園A遺跡は、宮崎県串間市との県境に近い山間部に位置する。そのような立地ながら、縄文前期後半から弥生初期を中心とする時期の遺物が多量に出土した。

の中には、西北九州からの搬入品の可能性が高い、胎土に滑石を含む春日式南宮島段階もあり、当時の広域的な地域間交流の一端もうかがうことができた。また、切目石鍬や石刀状石製品のような、県内では出土例の希少な遺物も認められた。

本遺跡の眼下を流れる前川は、四五十層群が構成する急峻な山岳地帯（鰐塚山地）を源とする。この急峻な山岳地帯は、志布志市と串間市との県境をなし、前川に沿って両市をつなぐ県道3号線が通っている。

この道は、縄文時代においても主要な交流ルートであった可能性があり、倉園A遺跡（縄文早期前半においては倉園B遺跡）はこのルート沿いの拠点的な遺跡であったと考える。

このルート上を縄文時代の人々が往来した結果、倉園A遺跡に多量の遺物が残されたのであろう。

第5節 市内発見の精神文化関連石器について

一 独鉛状石器の紹介

倉園A遺跡では、環状石斧や石刀状石製品が出土している。これら同様の精神文化関連石器は、市内でも幾つか確認してきた。

それは、志布志町出口A遺跡の独鉛状石器（梅原1994）、志布志町中原遺跡の円盤状石製品と輕石製石棒、有明町次五遺跡の異形石器（志布志市教委2018）、次五遺跡と松山町山ノ田遺跡のトロロ石器（松山町教委2005）である。また最近、志布志町内の市指定建造物内から独鉛状石器が1点発見された。

今回、出口A遺跡の独鉛状石器2例の再実測を行う機会があった。そこで、出口A遺跡2例の再報告と新発見資料の報告を行いたい（第94・95図1～3）。

1・2は、出口A遺跡（志布志町帖）で出土したものである。昭和17（1942）年、畠地を田地へ変更する際に、地下4～5尺（約1.2～1.5m）の所から偶然掘り出されたものである（梅原1944）。

1：全長22.7cm、体部最大幅5.3cm、くびれ部幅3.6cm、体部最大厚3.0cm、くびれ部厚2.5cm、重量490gを測る。石材は、肉眼観察によれば頁岩の可能性があるが、石英片岩との報告もある（梅原1944）。

体部がハ字状に大きく湾曲し、中央上面に一对の突起がある。突起を作出することでくびれを成している。両体部先端は鋭くとがっている。体部断面は円形に近い。

全面を丁寧に研磨して成形しており、比較的長めの擦痕が確認できる。体部は体部の軸に対して平行する横方向、くびれ部は縦方向の研磨である。

中央突起先端ともに剥離痕が認められる。ただし、使用による剥離かどうかは判断できない。

2：全長22.9cm、体部最大幅4.9cm、くびれ部幅3.7cm、体部最大厚2.4cm、くびれ部厚2.0cm、重量395.0gを測る。

石材は、肉眼観察によれば頁岩の可能性があるが、石英片岩との報告もある（梅原1944）。

かつおぶし形を呈し、下面が上面側にごくわずか反っている。中央に凹みが全周し、くびれを成している。体部両端は、鋭く尖っている。くびれ部断面と体部断面は、楕円形状である。

器面に原礫面を残すところもあるが、全面を研磨して成形しており、擦痕が確認できる。くびれ部は、縦方向の研磨である。使用痕は、確認できなかった。

3は、市指定文化財（建造物）である山中氏邸（志布志町志布志）内の倉庫を平成29（2017）年に整理した際に発見されたものである。詳しい出土地は不明であり、山中氏邸の倉庫にあった由来も不明であるが、志布志町内で発見されたものである可能性が高いと考える。

全長18.8cm、体部最大幅5.9cm、くびれ部幅5.7cm、体部最大厚3.1cm、くびれ部厚3.2cm、重量485.0gを測る。石材は、肉眼観察によれば蛇紋岩の可能性もある。

かつおぶし形を呈し、下面が上面側に湾曲している。体部両端は尖らず丸味を帯びる。中央上面のみに凹みがあり、くびれを有する。

くびれ部断面・体部断面ともに楕円形状で、上面側が鋭く尖る。全面を研磨して成形しており、擦痕が確認できる。使用痕は、確認できなかった。

独鉛状石器は、島津義昭氏や後藤信祐氏らによって分類されている（島津1975・後藤1985）。両氏の分類にあてはめると、1・3は島津分類の「b-b'類」（全長20cm以上で、中央上面に抉りまたは凹部をもつもの）、後藤分類の「A-5類」（体部断面が円形または楕円形を呈し、両頭部先端が鋭く尖るもので、反りを有するもの。中央背部に抉りのみを有するものも含む）に相当する。2は島津分類の「b-a'類」（全長20cm以上で、くびれ部に全周する溝をもつもの）、後藤分類の「A-5類」に相当する。

なお、「b-b'類」は「九州型独鉛状石器」と呼称されている（島津1975）。また、1～3類は「西日本型独鉛状石器」（渡辺1973）と呼称してきたものである。

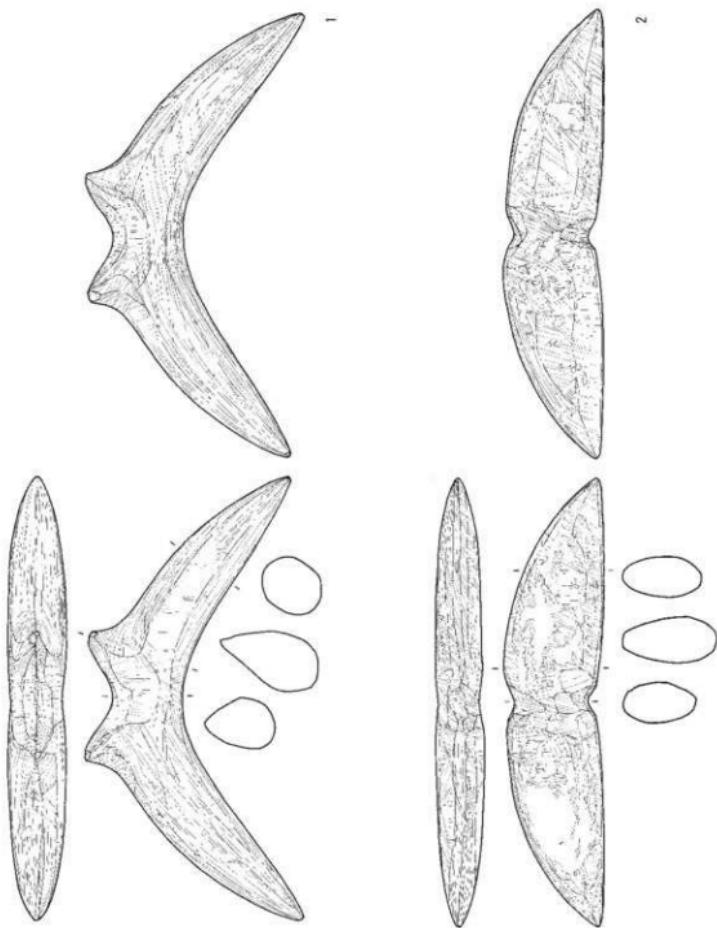
西日本の独鉛状石器について、島津氏は縄文晩期～弥生前期のものとし、後藤氏は縄文晩期前葉に位置づけ、岡本孝之氏は縄文後期～弥生中期のものとする（岡本1999）。一方、東和幸氏は発掘調査事例から、縄文中期のものとを考えている（東93・2001）。

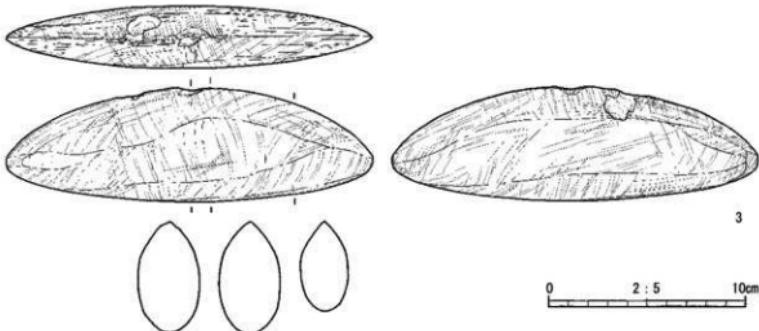
出口A遺跡資料は採集資料であり、正確な年代的位置づけは困難である。

ところで、独鉛状石器には「弥生土器」がともに出土したとされている（梅原1944）。梅原末治氏による論文に掲載された実測図からは、古墳初頭へ前葉の中岳I式には「く」字状に外反する口縁部や上げ底状を呈する底部もあることから、出土土器が中岳I式の可能性もあり得ること、そして近隣の出口B遺跡の調査において中岳II式が出土していることも併せて考えると、出口A遺跡資料が縄文後期半の中岳I式～中岳II式土器期に位置づけられることが指摘されている（相美2014）。

第94図 市内の鉄器状石器（1）

0 2.5 10cm





第95図 市内の独鉛状石器（2）

出口A遺跡出土の独鉛状石器に関しては、小林青樹先生から多大なるご教示をいただいた。記して感謝申し上げます。

【引用・参考文献】

- 梅原末治 1944「大隅発見の異形石器」『人類学雑誌』59-7
日本人類学会
- 岡本孝之 1999「遺物研究 独鉛状石器（独鉛石・白河型石器）」
『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 達部慎 2001「九州石刀・石剣小考」『唐津考古』20 唐津考古
学会
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004「九糞同・跡場・高森古遺跡」
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（71）
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005「大坪遺跡」鹿児島県立埋蔵
文化財センター発掘調査報告書（79）
- 河口貞徳 1982「鎌石橋遺跡」『鹿児島考古』16 鹿児島考古学会
- 工藤洋男 1985「近代土地改良の潮流－富田基平の業績－」『農業
土木学会誌』53-5 農業土木学会
- 黒川忠広 2005「指宿式土器の色調から見た交流の断片」『縄文の
森から』3 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 黒川忠広 2014「石器石材としての大川原産珪質岩」『縄文の森
から』7 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 後藤信祐 1985「独鉛状石器小考」『唐津考古』5 唐津考古学会
- 後藤信祐 2007「刀劍形石製品」『縄文時代の考古学』11 同成社
- 相美伊久雄 2014「志布志周辺の縄文時代研究」『平成26年度鹿児
島県考古学会秋季大会発表要旨集』鹿児島県考古学会
- 相美伊久雄 2017「大平式土器再考－東南部からみた九州縄文時
代中期後半期の様相－」『鹿児島考古』47 鹿児島考古学会
- 寒川朋枝 2009「鹿児島県における縄文時代の漁撈具」『九州にお
ける縄文時代の漁撈具』第19回九州縄文研究会長崎大会発表要
旨・資料集 九州縄文研究会
- 志布志町教育委員会 1979「野久尾遺跡」
- 志布志町教育委員会 1979「別府（石踏）遺跡」志布志町埋蔵文化
財発掘調査報告書（3）
- 志布志町教育委員会 1984『倉園B遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘
調査報告書（7）
- 志布志町教育委員会 1985『中原遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調
査報告書（9）
- 志布志町教育委員会 1985『倉園A・土光・風穴遺跡』志布志町埋
蔵文化財発掘調査報告書（10）
- 志布志町教育委員会 2018『次五遺跡』志布志市埋蔵文化財発掘調
査報告書（13）
- 島津義昭 1975「西日本の独鉛状石器」『九州考古学の諸問題』福
岡考古学研究会
- 庄司英信・守島正太郎 1948「九州地方における暗渠排水の今昔」
『農業土木研究』16巻1・2号 農業土木学会
- 末吉町教育委員会 1980『中岳洞穴』
- 高原町教育委員会 2022『井ノ原遺跡第1地点』高原町文化財報告
書（25）
- 東和幸 1993「独鉛状石器」『大河』4 大河同人
- 東和幸 2001「九州地域（熊本県・宮崎県・鹿児島県）の概要と集
成」『縄文・弥生移行期の石製呪術具2』
- 藤木恵 2009「打欠石鍤の用途と切目石鍤の東歴」『九州における
縄文時代の漁撈具』第19回九州縄文研究会長崎大会発表要旨・
資料集 九州縄文研究会
- 松山町教育委員会 1986『前谷遺跡』松山町埋蔵文化財調査報告書
（1）
- 松山町教育委員会 2005『山ノ田遺跡発掘調査報告書』
- 宮崎市教育委員会 2019『樋ノ口遺跡』宮崎市文化財調査報告書
（126）
- 宮田栄二 2002「鹿児島県の非黒曜石原産地について」『Stone
Sources』1 石器原産地研究会
- 三輪晃三 1998「第5章 南九州縄文後期再論」『鹿児島県桜島町
武貝塚発掘調査研究報告書』奈良大学文学部考古学研究室調査
報告書（第16集）
- 山岸良二 2000「独鉛石」形態地域論II－西日本型独鉛状石器
再考－』『人類史研究』12 人類史研究会
- 渡辺誠 1973「大阪府高槻出土の独鉛状石器をめぐって」『考古学
論叢』2 別府大学考古学研究会